CL-Class

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には * マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（▷250 ページ）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に ▶ を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

マーク	内容
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

A

B

C

E

P

S

V

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意

左ハンドル車

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷149 ページ）をご覧ください。

クロージングサポーターについての注意

ドアとトランクにはクロージングサポーターが装備されています。

ドアやトランクをロックがかみ合う位置まで閉じると、クロージングサポーターが作動してドアやトランクを自動で閉じます。ドアやトランクを閉じるときは身体を挟まないように注意してください。

詳しくは（▷83 ページ）をご覧ください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷40 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置を触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストの高さをもっとも高い位置にしてください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にしてヘッドレストの高さをもっとも高い位置にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- チャイルドプルーフロック（▷45ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが **P**、**N** 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが **P** になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを **D**、**R** にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- CL 63 AMG、CL 65 AMG では、エンジン冷却水が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためエンジン回転数が制限されます。

  エンジンが暖まるまでは、急加速を避けてください。

走行中

- 走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。 R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

  定期交換部品などは純正品だけを使用して、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

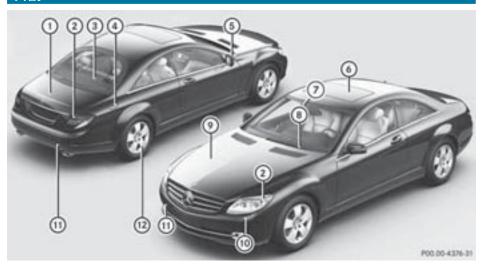
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

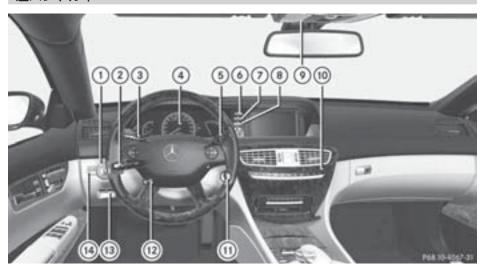
データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」を参照してください。

外観

	名称	ページ
①	トランク	83
	応急用スペアタイヤ	378
	車載工具	298
②	ヘッドランプ	119
	テールランプ	
③	リアデフォッガー	230
④	燃料給油口	255
⑤	ドアミラー	107
⑥	スライディングルーフ	236
⑦	ナイトビューアシストカメラ	214
⑧	ワイパー	135

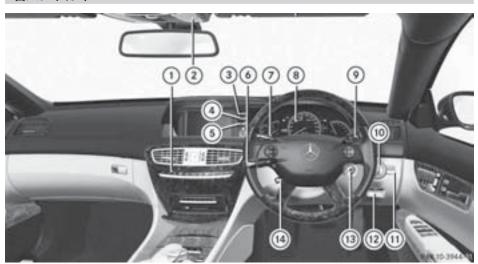
	名称	ページ
⑨	ボンネット	257
	エンジンオイル	262
		373
	ブレーキ液	269
		375
	ウォッシャー液	270
		375
	冷却水	267
		374
	バッテリー	354
		377
⑩	ヘッドランプウォッシャー	125
⑪	けん引フック	360
⑫	タイヤとホイール	271
		376

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	ランプスイッチ	119
②	コンビネーションレバー • ヘッドランプ • 方向指示 • ワイパー	 121 124 135
③	操作レバー • クルーズコントロール • 可変スピードリミッター • ディストロニック *	 180 194 184
④	メーターパネル	157
⑤	セレクターレバー	143 149
⑥	車高調整スイッチ	200

	名称	ページ
⑦	サスペンションモード選択スイッチ	200
⑧	パークトロニックオフスイッチ	205
⑨	前席上方の操作部	27
⑩	エアコンディショナーコントロールパネル	219
⑪	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	89 88
⑫	ステアリング調整レバー	103
⑬	パーキングブレーキスイッチ	146
⑭	ナイトビューアシストスイッチ	216

* オプションや仕様により、異なる装備です。

右ハンドル車

	名称	ページ
①	エアコンディショナーコントロールパネル	219
②	前席上方の操作部	27
③	車高調整スイッチ	200
④	サスペンションモード選択スイッチ	200
⑤	パークトロニックオフスイッチ	205
⑥	コンビネーションレバー • ヘッドランプ • 方向指示 • ワイパー	 121 124 135
⑦	操作レバー • クルーズコントロール • 可変スピードリミッター • ディストロニック *	 180 194 184

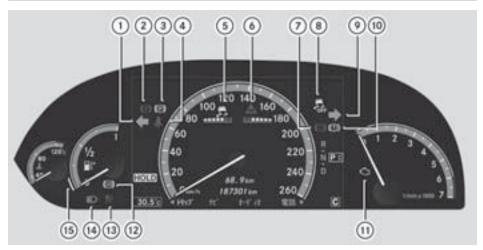
	名称	ページ
⑧	メーターパネル	157
⑨	セレクターレバー	143 149
⑩	ランプスイッチ	119
⑪	ナイトビューアシストスイッチ	216
⑫	パーキングブレーキスイッチ	146
⑬	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	89 88
⑭	ステアリング調整レバー	103

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

	名称	ページ
①	エンジン冷却水温度計	158
②	燃料計	158
③	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	202
④	スピードメーター	157
⑤	シフトポジション表示	151
	ギアレンジ表示	152
	ギア表示	155

	名称	ページ
⑥	タコメーター	157
⑦	走行モード表示	153
⑧	マルチファンクションディスプレイ	159
⑨	ホールド機能表示灯	197
⑩	外気温度表示	158

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	方向指示表示灯	124
②	パーキングブレーキ表示灯	146
③	パーキングブレーキ警告灯	323
④	シートベルト警告灯	31
⑤	ESP 表示灯	50
⑥	車間距離警告灯	191
⑦	ブレーキ警告灯	321 323

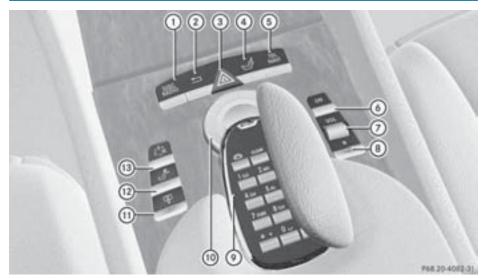
	名称	ページ
⑧	ESP オフ表示灯	50
⑨	方向指示表示灯	124
⑩	表示灯（機能なし）	
⑪	エンジン警告灯	158
⑫	ABS 警告灯	47
⑬	SRS 警告灯	32
⑭	ハイビーム表示灯	121
⑮	燃料残量警告灯	158

※表示灯⑩は点灯することがありますが機能はありません。

マルチファンクションディスプレイ / COMAND システム

	名称	ページ
①	[リターン] リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ	160
②	スクロールスイッチ ▲ 上にスクロールする ▼ 下にスクロールする ▶ 右にスクロールする ◀ 左にスクロールする OK 確定する	160
③	マルチファンクションディスプレイ	159
④	電話 / 音量スイッチ [受話] 電話を受信する [終話] 電話を切断する ＋ 音量を上げる － 音量を下げる [消音] 消音する	160

	名称	ページ
⑤	[音声認識] 音声認識スイッチ	160
⑥	COMAND ディスプレイ角度調整スイッチ メーターパネル照度調整ノブ	63 63
⑦	COMAND ディスプレイ	62
⑧	DVD チェンジャー PCMCIA スロット	別冊
⑨	COMAND コントローラー	60

センターコンソール

左ハンドル車

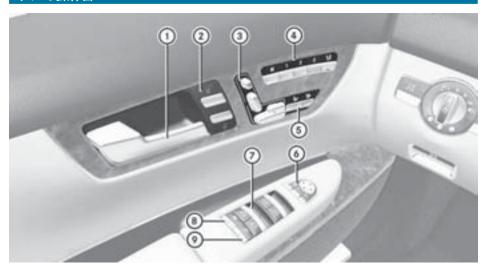
	名称	ページ
①	オーディオスイッチ	61
②	リターンスイッチ	61
③	非常点滅灯スイッチ	125
④	マルチコントロールシートバックスイッチ	61
⑤	電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ	61
⑥	COMAND システム ON/OFF スイッチ	61
⑦	音量調整ダイヤル	62

	名称	ページ
⑧	ユーザー定義スイッチ	62
⑨	テレフォンキーパッド	別冊
⑩	COMAND コントローラー	60
⑪	電動ブラインドスイッチ	61
⑫	ヘッドレスト格納スイッチ	99
⑬	走行モード選択スイッチ	153

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	フロント読書灯（左側）スイッチ	128
②	リアルームランプスイッチ	129
③	フロントルームランプスイッチ	128
④	スライディングルーフスイッチ	237

	名称	ページ
⑤	点灯モード選択スイッチ	128
⑥	フロント読書灯（右側）スイッチ	128
⑦	サングラスケース	242
⑧	ルームミラー	106

ドアの操作部

左ハンドル車

	名称	ページ
①	ドアレバー	79
②	ドアロックスイッチ	82
③	シート調整スイッチ	90
④	助手席コントロールスイッチ	91
	ポジションスイッチ	111
	メモリースイッチ	111
⑤	シートベンチレータースイッチ	100
	シートヒータースイッチ	101

	名称	ページ
⑥	ドアミラー調整スイッチ	107
	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	107
	ドアミラー選択スイッチ	107
⑦	ドアウインドウスイッチ	138
	リアサイドウインドウスイッチ	138
⑧	セーフティスイッチ	45
⑨	トランクスイッチ	85

乗員安全装備

乗員保護装置

事故が発生したときの衝撃により、車は急激に加速または減速するおそれがあります。

そのとき、乗員は車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出されて、けがをするおそれがあります。

ただし、シートベルトを中心に、シートベルトテンショナーやベルトフォースリミッター、エアバッグなどで構成される乗員保護装置によって、負傷する可能性を最小限にでき、また、万一負傷したときにも、けがの程度を最小限にとどめることができます。

⚠ けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

エアバッグの効果について

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

ⓘ シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

⚠ けがのおそれがあります

エアバッグはシートベルトの効果を補助する装置であり、シートベルトの代わりになるものではありません。必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用し、シートのバックレストをできるだけ垂直の位置にして乗車してください。

ⓘ エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。また、乗員が正しくシートベルトを着用している場合、状況によってはエアバッグによる補助的な保護を必要としないことがあります。

シートベルト

シートベルトとチャイルドセーフティシート（▷40 ページ）は、車内に身体を激しくぶつけたり、車外に放出される危険から乗員を守ります。

シートベルトとチャイルドセーフティシートは、衝突時における最も重要で効果的な乗員保護装置です。

! 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 乗車するときは、すべての乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- シートベルトを着用していなかったり、シートベルトのプレートが確実にバックルに差し込まれていないと、事故などのときに致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトやバックルが汚れていたり損傷していると、シートベルトの保護機能が正しく発揮されません。
- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは点灯したままになります。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用しないでイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター
- エアバッグ

SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーはイグニッション位置が **2** で、以下のときに作動します。

- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の前後方向に急激に強い衝撃が加わったとき
- 車両の横方向に強い衝撃が加わったとき
- 車両の横転などにより、一定以上の衝撃を検知したとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響をあたえることがあります。

ℹ シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

ℹ シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

ℹ シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグ

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、ペットや荷物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。

  ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

  詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響をあたえることがあります

ℹ エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ けがのおそれがあります

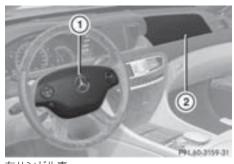
- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
リアサイドバッグ	リアシートの左右端部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

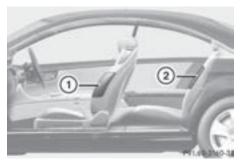
運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車
① 運転席エアバッグ
② 助手席エアバッグ

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、前方から一定以上の衝撃を検知したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

ℹ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

サイドバッグ

① フロントサイドバッグ
② リアサイドバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、胸部への衝撃を分散·軽減します。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。
>
> 詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サイドバッグは、運転席 / 助手席エアバッグやシートベルトテンショナーの作動、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

また、車両の横転などにより、左右方向から一定以上の衝撃を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトの効果の向上になると判断されたときも、サイドバッグは作動することがあります。

ウインドウバッグ

① ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動、助手席の乗員の有無に関わらず、衝突の最初の段階で、左右方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

また、車両の横転などにより、ウインドウバッグの作動がシートベルトの効果の向上になると判断されたときも、ウインドウバッグは作動することがあります。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE

PRE-SAFE は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- アンダーステア状態やオーバーステア状態など、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE の作動

PRE-SAFE は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 助手席が、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、シートを適正な位置に自動的に調整します。
- フロントシートのシートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧を高くします。
- 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放り出されることを防ぐため、ドアウインドウとスライディングルーフが少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が不安定な状態から脱したときは、助手席の位置、ドアウインドウやスライディングルーフの開き具合を再度調整してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

助手席の位置を調整するときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

! 助手席の位置を調整するときは、シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

ℹ 車が不安定な状態から脱すると、フロントシートのシートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧が元の設定に戻ります。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
- 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
- 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
- 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

重い物やかたい物を積載するときは、確実に固定してください。

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 急ブレーキ
- 急な進路変更
- 事故

荷物を積むとき / 固定するときについて、詳しくは（▷241 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

⚠ けがのおそれがあります

- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、リアシートに装着してください。

- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてください。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車にセンサー付純正チャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグの機能が解除されている場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また､タイプにかかわらず､助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下または 13kg 以下	新生児～ 9 ヵ月位または 18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム *

! 車種や仕様により、チャイルドセーフティシート検知システムの装備の有無は異なります。詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行なってチャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

⚠ **けがのおそれがあります**

後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着するときは、必ずセンサー付き純正チャイルドセーフティシートのみを使用してください。

センサーが付いていないタイプのチャイルドセーフティシートを使用すると、助手席エアバッグの機能が解除されないため、エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

! 助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

ℹ センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、サイドバッグやウインドウバッグ、シートベルトテンショナーの機能は解除されません。

ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

左ハンドル車
① 助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しているときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ けがのおそれがあります

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

- チャイルドセーフティシート検知システム非装備車の場合
  - ◇純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
  - ◇やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてください。
  - ◇後ろ向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車の場合
  - ◇センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
  - ◇助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
  - ◇チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートは必ず後席に装着してください。

    やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてださい。
  - ◇助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードや IC カードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれやセンサー付き純正チャイルドシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

① カバー
② 固定装置

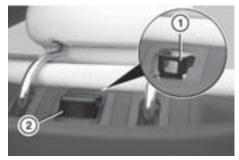
リアシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置 ② を装備しています。

チャイルドセーフティシートを固定装置に装着する

▶ カバー ① を上方に開きます。

▶ 固定装置 ② にチャイルドセーフティシートを装着します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着方法を誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い衝撃を受けた場合は、新品に交換してください。

テザーアンカー

① テザーアンカー
② カバー

リアヘッドレストの収納部にテザーアンカー ① を装備しています。

それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着できます。

チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故などのときにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

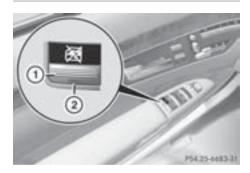
カバー ② を取り外して使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- テザーベルトは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。
- テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。
- テザーアンカーに、テザーベルトが確実に固定されていることを確認してください。

ⓘ 純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

ⓘ チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、チャイルドセーフティシートに添付されている取扱説明書をお読みください。

チャイルドプルーフロック

左ハンドル車
①セーフティスイッチ
②表示灯

チャイルドプルーフロックを設定すると、リアシート脇のスイッチからリアサイドウインドウの開閉操作ができなくなります。

子供がリアシートに乗るときなどに使用してください。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアサイドウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

セーフティスイッチを設定する

▶ セーフティスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

セーフティスイッチを解除する

▶ 再度、セーフティスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

ⓘ セーフティスイッチの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチによるリアサイドウインドウの開閉はできます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ

ℹ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷307、309 ページ）をご覧ください。

i ABS に異常があると、ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

(ABS) ABS 警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

ブレーキは通常通り作動しますが、ABS、ESP、BAS、ETS、PRE-SAFE などは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

BAS

BAS(ブレーキアシスト)は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは(▷307 ～ 309 ページ)をご覧ください。

i BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

i BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

i バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP

ESP(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷307 ～ 309 ページ）をご覧ください。

! 指定されたサイズ以外のタイヤを装着すると、ESP が正しく機能しないことがあります。

! 車輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP が作動し、接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ESP が故障すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ℹ ABS に異常が発生したときは、ESP の機能も解除されます。

ℹ 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP が作動することがあります（走行中に ESP 表示灯が点滅したままになります）。

ℹ ABS 警告灯が点灯しているときは、ESP も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ESP 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車してからイグニッション位置を **0** にして、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージや表示灯・警告灯は消灯します。

ESP 表示灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESP が作動しています。

ESP の機能を解除（▷51 ページ）しているときや、ESP が故障しているときは、点灯したままになります。

事故のおそれがあります

ESP 表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。

また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP の機能の解除

事故のおそれがあります

走行中に ESP 表示灯が点灯しているときは、ESP の機能が解除されています。路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

ETS

ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）は ESP の機能の一部です。

滑りやすい路面などで車輪が空転したときに、ブレーキを効かせて、発進や加速のための駆動力を確保しようとします。

事故のおそれがあります

ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。

ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP の機能を解除したときも、ETS の機能は解除されません。

ESP の機能の解除

次のような状況では、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP の機能を解除します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を高めることができません。

ESP の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動力の確保は行なわれますが（ETS の作動）、エンジンの出力制御による駆動力の確保は行なわれません。
- ブレーキを効かせたときは ESP は自動的に作動します。

ESP の機能を解除する

エンジンがかかっているときに操作できます。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから "ｱｼｽﾄ" を選択します。

▶ マルチファンクションステアリングの OK を押します。

OK を押すたびに、"ｵﾝ" と "ｵﾌ" が切り替わります。

ESP の機能が解除されると、ESP オフ表示灯が点灯します。

ℹ エンジンを始動したとき、ESP は常に待機状態になります。

ℹ ESP の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP 表示灯が点滅しますが、ESP は作動しません。

ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESP は自動的に作動します。

EBV

EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ 事故のおそれがあります

EBV に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の快適性と安全性を高めるシステムです。

アダプティブブレーキには、ホールド機能（▷197 ページ）とヒルスタートアシスト機能（▷145 ページ）も含まれます。

盗難防止システム

ℹ 車種や仕様により、ルーフ内張りの中央部に、室内センサーカバー ① がありますが、日本仕様では室内センサーは機能しません。

① 室内センサーカバー

盗難防止警報システム

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプや読書灯が約 5 分間点灯します。

- ドアやトランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、リモコン操作またはキーレスゴー操作により施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

! システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。

! システムが待機状態のときに車内のドアレバーを引いてドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

! システムを待機状態にしても、表示灯 ① が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報が作動したときの停止方法

▶ 以下のいずれかの操作を行ないます。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷73 ページ）にあるときにドアハンドルに触れる
- キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷73 ページ）にあるときに、トランクのハンドルを引くかトランクのキーレスゴースイッチを押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷73 ページ）にあるときにエンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

i ドアやトランクが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

警報が作動したときの停止方法

▶ 以下のいずれかの操作を行ないます。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷73 ページ）にあるときにドアハンドルに触れる
- キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷73 ページ）にあるときに、トランクのハンドルを引くかトランクのキーレスゴースイッチを押す
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷73 ページ）にあるときにエンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

ℹ けん引防止警報機能を解除した状態で車を施錠しても、次にリモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠したときは、けん引防止警報機能が設定されます。

ℹ けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

ℹ けん引防止警報機能の設定と解除の操作を、センターコンソールのユーザー定義スイッチに登録することができます。詳しくは（▷66 ページ）をご覧ください。

けん引防止警報機能の設定 / 解除（COMAND システムによる操作）

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " **車両** " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

けん引防止警報機能を設定 / 解除する ①

▶ メインエリアに " **けん引防止警報機能** " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、" **けん引防止警報機能 ON**" と " **けん引防止警報機能 OFF**" が切り替わります。

" けん引防止警報機能 ON"

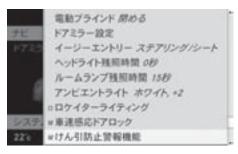
リモコン操作で施錠すると、けん引防止警報機能は待機状態になります。

" けん引防止警報機能 OFF"

リモコン操作で施錠しても、けん引防止警報機能は待機状態になりません。

けん引防止警報機能を設定 / 解除する ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ **" けん引防止警報機能 "** を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

けん引防止警報機能が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

けん引防止警報機能の設定 / 解除（音声認識機能による操作）

けん引防止警報機能を解除する

▶ ステアリングの音声認識ボタンを押します。

▶ " ピッ " と鳴ってから約 6 秒以内に " ケンインボウシケイホウキノウオフ " と発声します。

" けん引防止警報機能を OFF にします " と返答があります。

けん引防止警報機能を設定する

▶ ステアリングの音声認識ボタンを押します。

▶ " ピッ " と鳴ってから約 6 秒以内に " ケンインボウシケイホウキノウオン " と発声します。

" けん引防止警報機能を ON にします " と返答があります。

! 返答がないときは、設定 / 解除が行なわれていません。再度操作を行なってください。

i 音声認識については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

OK

はじめに

COMAND システムは、ナビゲーションやオーディオ、エアコンディショナーや車両設定などの各機能を一体化したシステムです。

安全のために

⚠ **事故のおそれがあります**

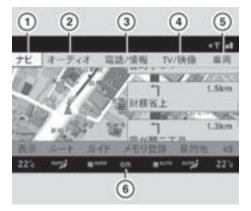
- 走行中に COMAND システムを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。
- 車両が約 50km/h で走行しているときは、1 秒間に約 14m も走行してしまうことを常に念頭において走行してください。
- COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

ℹ 安全のため、COMAND システムには、走行中に操作できない機能や表示されない項目があります。

COMAND システムの機能

COMAND システムで操作できる機能は右表のように大別されます。

それらの機能は、COMAND ディスプレイ（▷62 ページ）のアプリケーションエリアおよびエアコンディショナーエリアを選択することで操作できます。

また、マルチコントロールシートバックスイッチを押すことで、マルチコントロールシートバック（▷94 ページ）の設定が行なえます。

機能		ページ
①	ナビ（ナビゲーション）	別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。
②	オーディオ	
③	電話 / 情報	
④	TV / 映像	
⑤	車両	
	• 電動ブラインドの開閉	248
	• ドアミラー設定	108、113
	• イージーエントリー機能	104
	• 車外ランプ残照機能	122
	• ルームランプ残照機能	130
	• アンビエントランプ色調 / 照度設定	132
	• ロケイターライティング	77
	• 車速感応ドアロック	80
	• けん引防止警報機能	54
	• トランクリッドの開口角度設定	87
⑥	エアコンディショナー	218
マルチコントロールシートバック		94

COMAND システムの構成

COMAND システムは、

- COMAND コントローラー
- ファンクションスイッチ
- COMAND ディスプレイ

から構成されています。

ⓘ 電話の発信操作をするためのキーパッドが装備されています。

詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

ⓘ オーディオや電話などの操作の一部は、ステアリングスイッチで行なうことができます。

詳しくは、（▷159 ページ）か、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを操作することにより、COMAND システムの様々な機能を選択したり、設定することができます。

操作の方向	本書中の表記
押す 押して保持する	⊙
まわす	◎
上下にスライドする スライドして保持する	↑◎↓
左右にスライドする スライドして保持する	←◎→
上下左右斜めにスライドする スライドして保持する	◎

ⓘ それ以上項目を選択できないときなどは、コントローラーの作動が電気的にロックされ、まわすことができなくなります。

ファンクションスイッチ

	スイッチ名称
①	電動ブラインドスイッチ
②	DISC RADIO オーディオスイッチ
③	リターンスイッチ
④	マルチコントロールシートバックスイッチ
⑤	TEL NAVI 電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ
⑥	ON ON/OFF スイッチ
⑦	音量調整ダイヤル
⑧	＊ ユーザー定義スイッチ

① 電動ブラインドスイッチ

電動ブラインドを開閉するときに押します。詳しくは、（▷247 ページ）をご覧ください。

② DISC RADIO オーディオスイッチ

COMAND システムをラジオや CD などのオーディオモードにするときに押します。

③ リターンスイッチ

1 つ前の画面に戻るときに押します。

④ マルチコントロールシートバックスイッチ

マルチコントロールシートバックを調整するときに押します。

COMAND ディスプレイがマルチコントロールシートバックの調整画面になります。

⑤ TEL NAVI 電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ

COMAND システムを電話や E メール、ナビゲーションモードなどにするときに押します。

⑥ ON ON/OFF スイッチ

COMAND システムをオン / オフするときに押します。

⑦ 音量調整ダイヤル

オーディオやナビゲーションの音声案内などの音量を調整します。

音量を大きくする

▶ 音量調整ダイヤルを前方にまわします。

音量を小さくする

▶ 音量調整ダイヤルを後方にまわします。

⑧ ＊ ユーザー定義スイッチ

使用頻度の高い以下の機能をこのスイッチに登録できます。

- COMAND ディスプレイのオン / オフ
- けん引防止警報機能のオン / オフ

登録の操作については、（▷66 ページ）をご覧ください。

以下の機能についてもこのスイッチに登録できます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

- ルート案内時の音声案内のオン / オフ（ナビゲーション）
- 地図表示の現在地への復帰（ナビゲーション）
- ルート案内時の音声案内のオン / オフと、地図表示の現在地への復帰（ナビゲーション）

COMAND ディスプレイ

	名称
①	ステータスエリア
②	アプリケーションエリア
③	メインエリア
④	サブメニューエリア
⑤	エアコンディショナーエリア

COMAND ディスプレイの各エリア

COMAND ディスプレイは、選択した機能とそれに関連するメニューを表示します。

画面内は、上段から下段にかけて 5 つのエリアに分かれています。

選択されているエリアは明るく表示されます。

ステータスエリアは選択できません。

① ステータスエリア

接続されている携帯電話の電波受信状況や、ミュート（消音）にしたときのインジケーターなどが表示されます。

② アプリケーションエリア

COMAND システムの各アプリケーションが表示されます。このエリアから、各アプリケーションを選択します。

③ メインエリア

選択されたアプリケーションに応じた画面が表示されます。

また、アプリケーションエリアやサブメニューエリアからのポップアップメニューが表示されます。

④ サブメニューエリア

選択されているアプリケーションに応じた設定項目が表示されます。

⑤ エアコンディショナーエリア

エアコンディショナーの作動状況が表示されます。

各項目を選択することにより、エアコンディショナーの操作を行ないます。

ⓘ ON ／ OFF スイッチで COMAND システムをオフにしても、エアコンディショナーエリア ⑤ は表示されます。

COMAND ディスプレイの角度／照度調整

左ハンドル車　　右ハンドル車
① 角度調整スイッチ（左向き）
② 角度調整スイッチ（右向き）
③ 照度調整ノブ

COMAND ディスプレイの角度を左向きにする

▶ 角度調整スイッチ（左向き）① を押します。

COMAND ディスプレイが右向きのときは、角度調整スイッチ（左向き）① を 2 度押します。

COMAND ディスプレイの角度を右向きにする

▶ 角度調整スイッチ（右向き）② を押します。

COMAND ディスプレイが左向きのときは、角度調整スイッチ（右向き）② を 2 度押します。

COMAND ディスプレイの角度を中央にする

▶ COMAND ディスプレイが左向きのときは、角度調整スイッチ（右向き）② を押します。

COMAND ディスプレイが右向きのときは、角度調整スイッチ（左向き）① を押します。

COMAND ディスプレイの照度を明るくする

▶ 照度調整ノブ ③ を時計回りにまわします。

COMAND ディスプレイの照度を暗くする

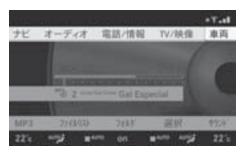
▶ 照度調整ノブ ③ を反時計回りにまわします。

各種設定

COMAND ディスプレイの表示言語設定

COMAND ディスプレイの表示言語を、日本語または英語に設定できます。

ℹ COMAND システムの言語設定に連動して、マルチファンクションディスプレイの表示言語も変更されます。

▶ アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して ◎・◎、コントローラーを押します。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **" システム設定 "** を選択して、コントローラーを押します。

▶ **" 言語 /Language"** を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

現在選択されている表示言語の左側には、" • " が表示されています。

表示言語を日本語にする

▶ **" 日本語 "** を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

表示言語を英語にする

▶ **"English"** を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

COMAND ディスプレイの色調設定

COMAND ディスプレイの色調を、昼画面や夜画面にできます。また、周囲の明るさに連動して自動的に昼画面と夜画面を切り替えることもできます。

▶ アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **" システム設定 "** を選択して、コントローラーを押します ◎。

▶ "**ディスプレイ**" を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

現在選択されている色調設定の左側の " ○ " の中には、" • " が表示されています。

昼画面に設定する

▶ "**昼画面設定**" を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

夜画面に設定する

▶ "**夜画面設定**" を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

周囲の明るさに連動させる

▶ "**オート**" を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ⓘ "**ディスプレイ OFF**" を選択すると、COMAND ディスプレイがオフになります。

再度表示するにはコントローラーを押すか ◎、いずれかの方向にスライドします ◎。

ユーザー定義スイッチの登録

ユーザー定義スイッチに機能を登録する

▶ アプリケーションエリアで "**車両**" を選択して〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで "**システム設定**" を選択して、コントローラーを押します ◎。

▶ **" ユーザー定義スイッチ "** を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊛。

現在登録されている機能の左側には、" • " が表示されています。

▶ 登録する機能を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊛。

COMAND システムのリセット

COMAND システムの設定内容を、工場出荷時の状態に戻すことができます。

▶ アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊛。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで **" システム設定 "** を選択して、コントローラーを押します ⊛。

▶ "**リセット**" を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊛。

▶ "**はい**" を選択して〔◎〕・←◎、コントローラーを押します ⊛。

COMAND ディスプレイに、確認メッセージが再度表示されます。

▶ "**はい**" を選択して〔◎〕・←◎、コントローラーを押します ⊛。

この作業を実行すると、COMAND システムの設定内容が工場出荷時の状態に戻るとともに、以下のデータが削除されます。

- ナビゲーションの設定
- ラジオのプリセット内容
- ミュージックレジスターのデータ
- 登録している Bluetooth® 対応携帯電話の設定
- アドレス帳のデータ
- E メールのデータ
- インターネットのデータ

オープン / クローズ

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキー（▷337 ページ）を収納しています。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコン機能に障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ℹ 2 つのキーを見わけるため、キーのストッパー（▷337 ページ）の色は異なります。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ キーの電池が消耗するとキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ トランクオープナーボタン
⑥ エマージェンシーキー

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランク、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクを開く
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷140､141 ページ）

操作時に表示灯 ② が 1 回点滅します。

ℹ バッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

解錠する

▶ 解錠ボタン ④ を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷52 ページ）が解除されます。

トランクが独立施錠（▷86 ページ）されているときは、解錠ボタン ④ を押してもトランクは解錠されません。

施錠する

▶ 施錠ボタン ③ を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷52 ページ）が待機状態になります。

❗ リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン ⑤ を約 2 秒間押し続けます。

トランクが独立施錠（▷86 ページ）されているときは、トランクオープナーボタン ⑤ を押してもトランクは開きません。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン ④ と施錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯 ② が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ④ を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

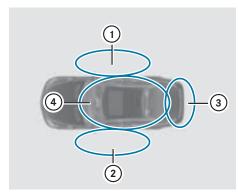
  また、盗難防止警報システム（▷52 ページ）が解除されます。

- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ④ を押すと、助手席ドアとトランクが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

元の設定に戻すには、再度、解錠ボタン ④ と施錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。キーの表示灯 ② が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- キーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

キーレスゴー

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことできます。

i エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、キーレスゴー操作を行なうことはできません。

i エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲にあるとき

ドアハンドルに触れると、車の施錠 / 解錠ができます。

i キーの位置によっては、キーが検知範囲にある側と反対側のドアハンドルに触れることで、車が施錠 / 解錠されることがあります。

キーがトランク側アンテナの検知範囲にあるとき

- トランクハンドルを引くと、トランクのみを解錠して開くことができます。
- トランクのキーレスゴースイッチを押して、車を施錠することができます。

i キーの位置によっては、キーがトランク側アンテナの検知範囲にないときも、トランクハンドルを引くことでトランクのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷88 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷88、142 ページ）。

i ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、それ以外の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動することがあり、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、施錠 / 解錠しないことがあります。

! キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドルを引いてからキーレスゴー操作を行なってください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、キーレスゴー操作を行なうことができます。

i バッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷52 ページ）が解除されます。

トランクが独立施錠（▷86 ページ）されているときは、ドアハンドルの裏側に触れてもトランクは解錠されません。

ℹ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- キーレスゴースイッチを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

解錠時の設定の切り替え

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷52 ページ）が解除されます。

初期設定に戻す

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

ℹ 設定を切り替えたときも、助手席ドアのドアハンドルの裏側に触れたり、トランクハンドルを引くことで、ドアやトランクを解錠することができます。

施錠する

左側ドア
① 施錠操作部

▶ ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

または

② トランクのキーレスゴースイッチ

▶ トランクのキーレスゴースイッチ ② を押します。

トランクが閉じます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、盗難防止警報システム（▷52 ページ）が待機状態になります。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内やトランク内にあるときは、ドアハンドルやトランクのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰが車内に あります" または "ｷｰを認識 できません" と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルの施錠操作部に触れることで施錠できます。

トランクを解錠して開く

▶ トランクハンドルを引きます。

トランクのみが解錠されて開きます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、以下のランプが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドランプ
- フロントフォグランプ
- テールランプ
- ライセンスランプ
- ドアミラーランプ

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **1** にしたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " **車両** " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

ロケイターライティングの設定 ①

▶ メインエリアに " **ロケイターライティング** " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

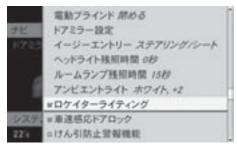
コントローラーを押すたびに " ***ロケイターライティング ON*** " と " ***ロケイターライティング OFF*** " が切り替わります。

" ***ロケイターライティング ON*** "
ロケイターライティングが設定されています。

" ***ロケイターライティング OFF*** "
ロケイターライティングは設定されていません。

ロケイターライティングの設定 ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " **ロケイターライティング** " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

ロケイターライティングが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

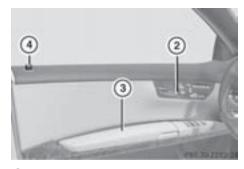
ドアの開閉

① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

車内から開く

▶ ドアレバー ② を引きます。

ドアが開きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ④ が上がって解錠され、ドアが開きます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ℹ ドアウインドウとリアサイドウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウとリアサイドウインドウが少し下降し、閉じると上昇して閉じます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じ方が不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。
- ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供が乗車しているときは特に注意してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。

! ドアポケットを持ってドアを閉じないでください。ドアポケットを損傷するおそれがあります。

! ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーの電圧が低下しているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアサイドウインドウは下降しません。

このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやウインドウ、シール部を損傷するおそれがあります。

i 助手席ドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

i ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、自動的に解錠されます。

i シフトポジションが **R**、**N**、**D** のときに運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " セレクタが走行位置 " と表示されます。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します。

メインエリアが車両設定画面になります。

車速感応ドアロックを設定する ①

▶ メインエリアに **" 車速感応ドアロック "** を表示させて ◎ ・ ◎、コントローラーを押します。

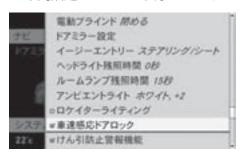
コントローラーを押すたびに、**" 車速感応ドアロック *ON* "** と **" 車速感応ドアロック *OFF* "** が切り替わります。

" 車速感応ドアロック *ON* "
車速感応ドアロックが作動します。

" 車速感応ドアロック *OFF* "
車速感応ドアロックは作動しません。

車速感応ドアロックを設定する ②

▶ アプリケーションエリアの **" 車両 "** を選択して ⬆◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ **" 車速感応ドアロック "** を選択して ◀◎▶・⬆◎⬇、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

車速感応ドアロックが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

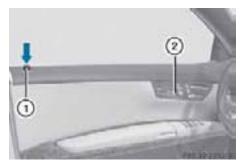
! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときや、シャシーダイナモに載せるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。

車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

ドアごとに解錠 / 施錠する

⚠ 事故のおそれがあります

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せたときは特に注意してください。

①ロックノブ
②ドアレバー

解錠する

▶ ドアレバー ② を手前に引きます。このときドアも開きます。

車両の操作

施錠する

▶ ロックノブ ① を矢印の方向に押し込みます。

ⓘ リモコン操作またはキーレスゴー操作により施錠した後に、車内のドアレバーを引いてドアを開くと、ドアが以下のように解錠されます。

- 施錠してから約 5 秒以内にドアを開く

  すべてのドア、トランク、燃料給油フラップが解錠されます。

- 施錠してから約 5 秒後〜約 10 秒以内にドアを開く

  開いたドアだけが解錠されます。

- 施錠してから約 10 秒以上経過してからドアを開く

  開いたドアだけが解錠され、盗難防止警報システムが作動します。

ドアロックスイッチ

① 解錠スイッチ
② 施錠スイッチ

車内から、すべてのドアとトランクをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ 解錠スイッチ ① を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ ② を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作により施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ℹ ドアロックスイッチで施錠されているときに車内のドアレバーを引いてドアを開くと、他のドアとトランクも解錠されます。

ℹ 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチで解錠 / 施錠すると、他のドアとトランクが解錠 / 施錠されます。

ℹ トランクが独立施錠（▷86 ページ）されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

クロージングサポーター

ロックがかみ合う位置までドアまたはトランクを閉じると、クロージングサポーターが作動し、ドアまたはトランクが自動で閉じます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- クロージングサポーターが作動しているときに、身体などが挟まれないように注意してください。万一、身体などが挟まれそうになったときは、車外のドアハンドルや車内のドアレバー、またはトランクのハンドルを引いてください。クロージングサポーターの作動が停止します。
- ドア側面またはトランクのロック部分に手や指を触れないでください。クロージングサポーターが作動してロック部分が自動的に動き、手や指が挟まれてけがをするおそれがあります。

トランク

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランクルームには乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

! 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられ、トランクが不意に下がるおそれがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! 車が施錠されているときにリモコン操作やキーレスゴー操作、エマージェンシーキーなどでトランクを開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

i トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i 車が施錠されているときは、キーのトランクオープナーボタンを押すとトランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

i 車が施錠されているときも、キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクハンドルを引くと、トランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

車外からのトランクの開閉

トランクを開く

①ハンドル

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

トランクが自動で開きます。

または

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン（▷71ページ）を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

②トランククローザースイッチ
③キーレスゴースイッチ

トランクを閉じる

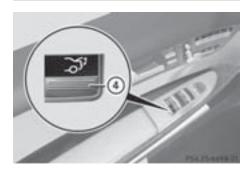
▶ トランククローザースイッチ ② を押します。

トランクが自動で閉じます。

トランクを閉じて車を施錠する

▶ キーレスゴースイッチ ③ を押します。

トランクが自動で閉じて、車が施錠されます。

車内からのトランクの開閉

左ハンドル車
④ トランクスイッチ

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクスイッチ ④ を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランクスイッチ ④ を押し続けます。

押している間、トランクが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

ⓘ トランクが開閉しているときに身体や荷物などと接触すると、トランクの動きが停止し、閉じていたときは自動で開きます。

ⓘ 走行中は、トランクを開閉することはできません。

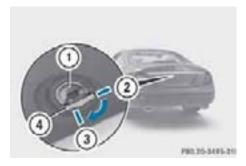
ⓘ 開閉操作を繰り返すと、トランクが一時的に開閉しなくなることがあります。

ⓘ トランクが開閉しているときに以下の操作を行なうと、トランクの動きが停止します。

- トランクのハンドルを引く
- トランククローザースイッチを押す
- トランクのキーレスゴースイッチを押す
- キーのトランクオープナーボタンを押す
- 運転席ドアのトランクスイッチを押す

ⓘ キーが車室内やトランク内にあるときは、トランクのキーレスゴースイッチでトランクを閉じて車を施錠することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ｷｰを認識 できません " または " ｷｰが 車内に あります " と表示されたり、トランクが閉じた後に再度開くことがあります。

ⓘ ドアが完全に閉じていないときは、トランクのキーレスゴースイッチでトランクを閉じることはできません。このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾄﾞｱを閉めてから ﾛｯｸ してください " と表示されます。

トランクの独立施錠

①キーシリンダー
②独立施錠解除位置
③独立施錠位置
④エマージェンシーキー

トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷337 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ④ を独立施錠位置 ③ にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキー ④ を抜きます。

! トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを手動で閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷337 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ④ を独立施錠解除位置 ② にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキー ④ を抜きます。

トランクリッドの開口角度制限

上方に十分な空間のないところでトランクを開くときに、トランクリッドの開口角度をルーフの高さまでに制限することができます。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " **車両** " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

トランクの開口角度を設定する ①

▶ メインエリアに " **トランクリッド開口角度制限** " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

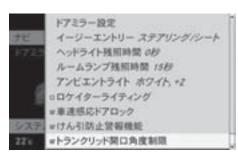
コントローラーを押すたびに " **トランクリッド開口角度制限 *ON*** " と " **トランクリッド開口角度制限 *OFF*** " が切り替わります。

" **トランクリッド開口角度制限 *ON*** "
トランクリッドの開口角度がルーフの高さになります。

" **トランクリッド開口角度制限 *OFF*** "
トランクリッドの開口角度は制限されません。

トランクの開口角度を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " **トランクリッド開口角度制限** " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

トランクリッド開口角度制限が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

イグニッション位置

⚠ 事故のおそれがあります

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

❗ 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車
① キーレスゴースイッチ

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ ① を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

❗ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ℹ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けた直後は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができないことがあります。

ℹ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " ｷｰ を認識 できません " と表示されます。

キーによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車
① キーレスゴースイッチ
② エンジンスイッチ

キーレスゴースイッチ ① を取り外し、エンジンスイッチ ② にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわします。

以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
⓪	**0**：キーを差し込む / 抜く位置
①	**1**：イグニッション位置が **1** になります。
②	**2**：イグニッション位置が **2** になります。
③	**3**：エンジンが始動します。

! エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。

! バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

i キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに ⓪ の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

i エンジンスイッチに異なる車両のキーを差し込んだときもキーをまわすことができる場合がありますが、イグニッション位置は **0** のままになります。

シート

 事故のおそれがあります

運転席シートは、必ず停車しているときに調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

けがのおそれがあります

シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷40 ページ）をご覧ください。

けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、けがをするおそれがあります。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。

シートや物を損傷するおそれがあります。

フロントシートの調整

左側フロントシートのスイッチ

矢印の方向	調整内容
①	ヘッドレストの高さ
②	シートの高さ
③	シートクッションの角度
④	シートクッションの長さ
⑤	シートの前後位置
⑥	バックレストの角度

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印 ① ～ ⑥ の方向に操作します。

 けがのおそれがあります

乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

ⓘ シートを調整しているときは、操作していない調整箇所も自動的に作動することがあります。

ℹ PRE-SAFE が作動すると、助手席シートはエアバッグの作動に対して適正な位置に自動的に調整されます。

ℹ ヘッドレストを取り外すことはできません。

ヘッドレストの角度調整

⑦ ヘッドレスト角度の調整

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレスト下部を持って矢印⑦の方向に動かします。

ℹ 以下のとき、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席のヘッドレストが自動で下がります。

- 助手席に乗員がいないとき
- 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていないとき
- 停車中のとき

助手席に乗員が検知されるか、助手席のシートベルトがバックルに差し込まれると、助手席のヘッドレストは元の位置に戻ります。

助手席コントロール機能

⚠ **けがのおそれがあります**

助手席に乗員がいる場合は、助手席シートはできるだけ後方に動かして、助手席エアバッグとの間隔を十分に確保してください。間隔が狭すぎると、事故などのときに助手席エアバッグが作動する衝撃で、助手席の乗員がけがをするおそれがあります。

! シートの調整をするときは他の乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。

! 子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

左ハンドル車
① 助手席コントロールスイッチ

運転席ドアのスイッチで助手席シートを調整する

▶ 助手席コントロールスイッチ ① を押します。

▶ スイッチの表示灯が点灯します。

※ 右ハンドル車の助手席コントロールスイッチの文字は **"L"** と表記されています。

車両の操作

▶ 運転席ドアのシート調整スイッチやポジションスイッチ、メモリースイッチ、シートヒータースイッチ、シートベンチレータースイッチを操作します。

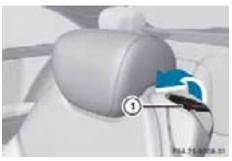
助手席のシート位置やメモリー機能、シートヒーターやシートベンチレーターが操作できます。

▶ 調整が終了したら、再度助手席コントロールスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

! 助手席シートの調整が終了したら、必ずスイッチを押して、スイッチの表示灯を消灯させてください。誤ってシート調整スイッチに触れると助手席シートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。

i 助手席コントロールスイッチを押してから、約 10 秒間操作をしないと、スイッチの表示灯は消灯します。

可倒式バックレスト

① ロック解除レバー

フロントシートのバックレストを前方に倒すことができます。

⚠ けがのおそれがあります

- フロントシートのバックレストを倒したり、戻したときは、シートの前後位置が自動で移動します。他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。

  挟まれそうになったときは、対応する側のシート調整スイッチ（▷90 ページ）やメモリースイッチ、ポジションスイッチ（▷111 ページ）を操作してください。シートはその位置で停止します。

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。ロック解除レバーを引いて、フロントシートのバックレストを操作すると、シートが動き出してけがをするおそれがあります。

! フロントシートの足元やシートの後方に物が無いことを確認してください。移動するシートと物が接触して、シートや物を損傷するおそれがあります。

ⓘ 助手席コントロール機能（▷91ページ）が設定されているときは、運転席側のシート調整スイッチやポジションスイッチを操作すると、移動している助手席シートが停止します。

ⓘ 前方または後方に移動しているフロントシートが挟み込みを検知すると、シートの移動が停止し、シートの位置によっては後方または前方に移動します。

フロントシートのバックレストを倒す

▶ ロック解除レバー ① を矢印の方向に引き上げます。

ヘッドレストが下がります。

▶ ヘッドレストが下がりきったら、ロック解除レバーを引きながら、バックレストを前方に倒します。

フロントシートが前方に移動します。

! バックレストは必ずヘッドレストが下がりきってから前方に倒してください。ルーフ内張りにヘッドレストが干渉して損傷するおそれがあります。

ⓘ シートが前方にあるときは、バックレストを前方に倒しても、シートは前方に移動しません。

フロントシートのバックレストを戻す

▶ フロントシートのバックレストを後方に起こします。

フロントシートの前後位置が自動的に元に戻ります。

▶ バックレストが確実にロックされていることを確認します。

助手席に乗員が座ると、ヘッドレストの高さが自動的に元に戻ります。

⚠ **事故のおそれがあります**

フロントシートのバックレストを戻したときは、バックレストが完全にロックされていることを確認してください。完全にロックされていないと、シートベルトの機能が発揮できなかったり、走行中にバックレストが前方に倒れて車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ⓘ フロントシートが完全にロックされていない状態でドアを閉じ、イグニッション位置を **2** にすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ⓘ シートが完全にロックされていないときは、シート調整スイッチでバックレストの角度とヘッドレストの高さを調整することはできません。

ⓘ バックレストを大きく後方に傾けていたときや、バックレストを前方に倒してからシート調整スイッチを操作したときは、バックレストが元の位置に戻らなくなることがあります。

マルチコントロールシートバック

シートクッションやバックレストの形状やサポートの強さを調整します。

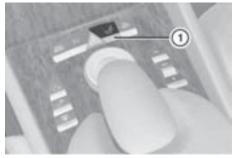
イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

マルチコントロールシートバックでは、以下の調整を行なうことができます。

- シートクッションのサイドサポート（▷95 ページ）
- バックレストのサイドサポート（▷96 ページ）
- ランバーサポート（▷96 ページ）
- バックレストのショルダー部のサポート（▷97 ページ）
- ドライビングダイナミックシート *（▷97 ページ）
- マッサージ機能 *（▷98 ページ）

ℹ マルチコントロールシートバックの調整を行なったときは、シートから作動音がすることがあります。

ℹ PRE-SAFE が作動すると、シートクッションとバックレストのサイドサポートの空気圧が高くなり、サポートが強くなります。

① マルチコントロールシートバックスイッチ

▶ マルチコントロールシートバックスイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにマルチコントロールシートバック調整画面が表示されます。

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

調整するシートを選択する

左ハンドル車

▶ サブメニューエリアで、"**運転席**" または "**助手席**" を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整する項目を選択する

▶ メインエリアでコントローラーをまわすか 〔◎〕、左右にスライドさせます ←◎→。

以下の順番で調整項目が表示されます。

シートクッションのサイドサポート
↓↑
バックレストのサイドサポート
↓↑
ランバーサポート
↓↑
バックレストのショルダー部のサポート
↓↑
ドライビングダイナミックシート
↓↑
マッサージ機能

ℹ シートクッションとバックレストのサイドサポートは、どちらも "**サイド**" と表示されます。それぞれの画面の内容を確認してください。

シートクッションのサイドサポート

左ハンドル車

▶ "***サイド***"（上記画面）を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか 〔◎〕、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

ゲージが上に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎

サポートの強さが設定されます。

バックレストのサイドサポート

左ハンドル車

▶ "*サイド*"（上記画面）を表示させて〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

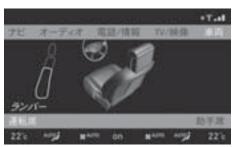
▶ コントローラーをまわすか〔◎〕、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

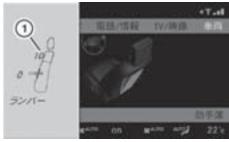
ゲージが上に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎。

サポートの強さが設定されます。

ランバーサポート

左ハンドル車

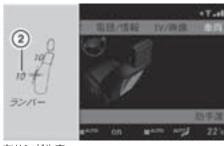
▶ "*ランバー*" を表示させて〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

左ハンドル車

ランバーサポートの上下位置を調整する

▶ コントローラーを上下にスライドさせて ↑◎↓、ランバーサポートの上下位置を調整します。

調整画面の "+" が上下に動きます。

ランバーサポートの上下位置が数字 ① で表示されます。数字が大きくなるほど、サポート位置が高くなります。

左ハンドル車

ランバーサポートの強さを調整する

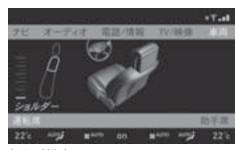
▶ コントローラーを左右にスライドさせて ←◎→、ランバーサポートの強さを調整します。

調整画面の " + " が左右に動きます。

ランバーサポートの強さが数字 ② で表示されます。数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎。

ランバーサポートの強さが設定されます。

バックレストのショルダー部のサポート

左ハンドル車

▶ " ***ショルダー*** " を表示させて ◎ · ←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか ◎、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

ゲージが上に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎。

サポートの強さが設定されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドライビングダイナミックシート *

カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支える機能です。

ドライビングダイナミックシートのサポートのレベルを設定する

▶ 上記の画面で " ***ダイナミックシート*** " を選択して ◎ · ←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか ◎、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

車両の操作

"0"
ドライビングダイナミックシートは作動しません。

"1"
サイドサポートが作動します。

"2"
サイドサポートがより強く作動します。

▶ コントローラーを押します ◎。

サポートのレベルが設定されます。

マッサージ機能 *

バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長時間走行などの疲労を軽減できます。

マッサージのレベルを設定する

▶ 上記の画面で **" パルスモード "** を選択して ◀◎▶・←◎→、コントローラーを押します ◎。

マッサージレベル設定メニューが表示されます。

現在選択されているレベルの左側の " ○ " の中には、" • " が表示されています。

▶ レベルを選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

マッサージのレベルが設定されます。

"0：OFF"
マッサージ機能は作動しません。

"1：弱（スロー）"
エアクッションが膨張と収縮をゆっくり繰り返し、弱めにマッサージします。

"2：強（スロー）"
エアクッションが膨張と収縮をゆっくり繰り返し、強めにマッサージします。

"3：弱（クイック）"
エアクッションが膨張と収縮を早めに繰り返し、弱めにマッサージします。

"4：強（クイック）"
エアクッションが膨張と収縮を早めに繰り返し、強めにマッサージします。

ⓘ マッサージ機能は約 6 ～ 20 分後に自動的に停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアシート

リアヘッドレスト

①ヘッドレスト格納スイッチ

ヘッドレストを格納する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

▶ ヘッドレストスイッチ①を押します。

ヘッドレストが格納されます。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 乗車するときは、必ずヘッドレストを起こし、ロックしていることを確認してください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> ヘッドレストを起こしたり格納するときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。

ℹ 空気圧によりヘッドレストを格納するため、左右のヘッドレストが同時に格納されないことがあります。

ヘッドレストを起こす

▶ ヘッドレストを手で引き起こします。

または

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときにヘッドレストスイッチ①を押し続けます。

ヘッドレストが自動で起きます。

ℹ イグニッション位置が **1** か **2** でヘッドレストが格納されているときに、後席の乗員がシートベルトを着用すると、ヘッドレストが自動で起きます。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

シートベンチレーター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

① シートベンチレータースイッチ

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させせます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフを開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

ⓘ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

ⓘ 運転席ドアの助手席コントロールスイッチ（▷91 ページ）の表示灯が点灯しているときは、シートベンチレータースイッチを押すと助手席のシートベンチレーターが作動します。運転席のシートベンチレーターを作動させるときは、助手席コントロールスイッチの表示灯が消灯していることを確認してください。

シートヒーター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

① シートヒータースイッチ

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 8 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。 ただし、シートベンチレーター（▷100 ページ）を作動させているときは、シートヒーターは自動的には停止しません。
0	停止しています。

! コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑､水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

i 運転席ドアの助手席コントロールスイッチ（▷91 ページ）の表示灯が点灯しているときは、運転席ドアのシートヒータースイッチを押すと助手席のシートヒーターが作動します。運転席のシートヒーターを作動させるときは、助手席コントロールスイッチの表示灯が消灯していることを確認してください。

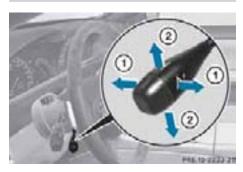
ステアリング

⚠ けがのおそれがあります

- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、運転席エアバッグ収納部の上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリングの調整

左ハンドル車
① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ℹ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度、マルチコントロールバックの設定と併せて記憶させることができます（▷111 ページ）。

イージーエントリー

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に、運転席シートが後方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする。

ステアリングと運転席シートは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態でエンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて **2** にするか、イグニッション位置を **0** にしてから **1** の位置にする

ℹ イージーエントリーを設定しているときは、事故などのときにステアリングが自動的に上方に移動して、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

イージーエントリーの設定

ステアリングのみ、あるいはステアリングと運転席シートを同時に移動する設定を選択できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

イージーエントリーを設定する ①

▶ メインエリアに **" イージーエントリー "** を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

イージーエントリー設定メニューが表示されます。

現在選択されているイージーエントリーの設定の左側には " • " が表示されています。

▶ イージーエントリーの設定を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

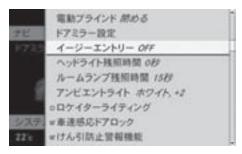
"OFF"
イージーエントリーは作動しません。

" ステアリング "
ステアリングのみが移動します。

" ステアリング / シート "
ステアリングとシートが移動します。

設定した内容がメインエリアに表示されます。

イージーエントリーを設定する ②

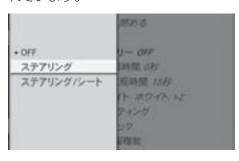
▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " **イージーエントリー** " を選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

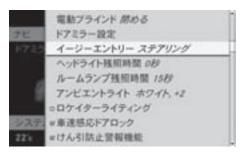
イージーエントリー設定メニューが表示されます。

現在選択されているイージーエントリーの設定の左側には " • " が表示されています。

▶ イージーエントリーの設定を選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

"OFF"
イージーエントリーは作動しません。

" ステアリング "
ステアリングのみが移動します。

" ステアリング / シート "
ステアリングとシートが移動します。

設定した内容が車両設定メニューに表示されます。

⚠ けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってドアを開いたときなどにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

イージーエントリーが作動しているときは、身体が挟まれないように注意してください。シートやステアリングの作動を停止するときは、運転席のシート調整スイッチ、ステアリング調整レバー、運転席ドアのポジションスイッチやメモリースイッチのいずれかを操作してください。

ⓘ イージーエントリーの作動中に走行を開始すると、イージーエントリーは停止します。

ミラー

⚠ 事故のおそれがあります

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

! ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。

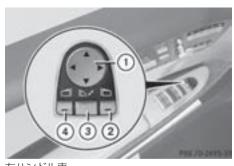
! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

! ドアミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、目や皮膚に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水を湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

i ドアミラーにはヒーターが装備されています。リアデフォッガーが作動しているときや外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

① ドアミラー調整スイッチ
② 助手席側ドアミラー選択スイッチ
③ ドアミラー格納 / 展開スイッチ
④ 運転席側ドアミラー選択スイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ② または ④ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ① を操作してドアミラーの角度を調整します。

i ドアミラー選択スイッチを押してから、約 15 秒間操作をしないと、スイッチの表示灯は消灯します。

i ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置、マルチコントロールシートバックの設定と併せて記憶させることができます(▷111 ページ)。

ドアミラーの格納 / 展開

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、格納 / 展開できます。

ドアミラーを格納する

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ ③ を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、ドアミラー格納 / 展開スイッチ ③ を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

ⓘ 走行速度が約 45km/h 以上のときは、スイッチでドアミラーを格納することはできません。

施錠時のドアミラー格納

車を施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、ドアを開くと展開します。

COMAND システムで設定を行ないます。

ⓘ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、ドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " **車両** " を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します。

メインエリアが車両設定画面になります。

施錠時のドアミラー格納設定 ①

▶ メインエリアに " **ドアミラー設定** " を表示させて ◎・←◎→、コントローラーを押します ◎。

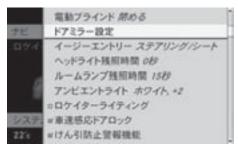
ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ " **ドアロック連動格納** " を選択して ◎・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

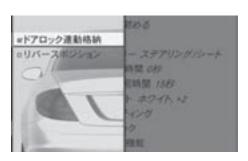
コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

施錠時のドアミラー格納が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

施錠時のドアミラー格納設定 ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " **ドアミラー設定** " を選択して ◎・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ **" ドアロック連動格納 "** を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

施錠時のドアミラー格納が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

自動防眩機能

① センサー

周囲が暗くイグニッション位置が **2** のときに、ルームミラーのセンサー ① が後続車のライトを受けると、自動でルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

⚠ 事故のおそれがあります

電動ブラインド（▷247 ページ）を使用しているときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しないおそれがあります。このときは、ルームミラーの角度を調整して眩惑を防ぎ、十分注意して走行してください。

! ルームミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、目や皮膚に直接触れないよう注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水を湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

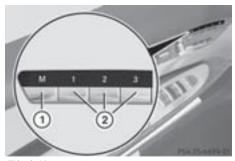
ℹ シフトポジションが **R** のときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

メモリー機能

シート位置の記憶

フロントシートでは、ポジションスイッチにシート位置やマルチコントロールシートバックの設定を記憶させることができます。

また、運転席シートにはステアリングの位置やドアミラーの角度を記憶させることができます。

ℹ 助手席コントロール機能（▷91ページ）により、運転席ドアのスイッチで助手席シートの記憶と呼び出しができます。

運転席ドアのスイッチ
① メモリースイッチ
② ポジションスイッチ

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置やドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度やマルチコントロールシートバックを調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ メモリースイッチ ① を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ ② の "1" ～ "3" のいずれかを押します。

" ピッ " という確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。

記憶させたシート位置の呼び出し

▶ 呼び出したいポジションスイッチ ② の "1" ～ "3" のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

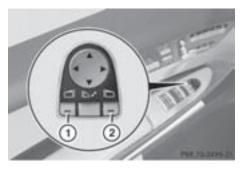
ℹ 安全のため、ポジションスイッチ ② から指を放すとシートは停止します。ただし、マルチコントロールシートバックの設定の呼び出しは停止せず、継続されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

左ハンドル車
①運転席側ドアミラー選択スイッチ
②助手席側ドアミラー選択スイッチ

シフトポジションを **R** にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にすることができます。

イグニッション位置が **2** のときに作動します。

助手席側ドアミラーを記憶させていた角度にする

▶ 助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能が設定されていることを確認します（▷113、114 ページ）。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ シフトポジションを **R** にします。

ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

運転席側のドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯したときは、助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

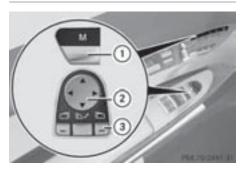
ⓘ 助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能が設定されているときは、シフトポジションを **R** にすると、いずれかのドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

助手席側ドアミラーの角度は次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- シフトポジションを **R** の位置から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチを押して、運転席側ドアミラーを選択したとき

  このときは運転席側のドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

  再度、助手席側ドアミラー選択スイッチを押すと、助手席側ドアミラーは記憶させている角度になり、助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。
- イグニッション位置を **0** か **1** にして、再度イグニッション位置を **2** にしたとき

後退時の助手席側ドアミラー角度を記憶させる

左ハンドル車
① メモリースイッチ
② ドアミラー調整スイッチ
③ 助手席側ドアミラー選択スイッチ

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ③ を押します。

助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

▶ スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ② で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席ドアミラーの角度を調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ ① を押します。

▶ 約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ② をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度が記憶されます。

▶ ドアミラー調整スイッチ ② で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行するときは、ドアミラーを後方が十分確認できるように調整してください。

i 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

i 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能の設定

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " **車両** " を選択して ◎・◎、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

車両の操作

パーキングヘルプ機能を設定する ①

▶ メインエリアに " **ドアミラー設定** " を表示させて ⟲◎⟳・←◎→、コントローラーを押します ◎。

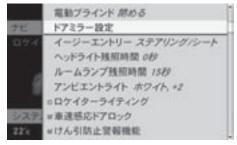
ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ " **リバースポジション** " を選択して ⟲◎⟳・◎↓、コントローラーを押します ◎。

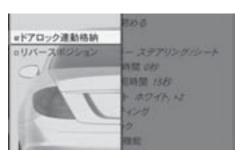
コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

この機能が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

パーキングヘルプ機能を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " **ドアミラー設定** " を選択して ⟲◎⟳・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ **" リバースポジション "** を選択して ◎ ・ ◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

この機能が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更やブレーキをかけたとき、追突したときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷40 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や追突時に致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトについては(▷30 ページ)もご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

シートベルトを着用する

① ベルトアンカー
② プレート
③ バックル
④ 解除ボタン

シートベルトを着用する

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトを肩の中央にかけます。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

また、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっていることを確認します。

また、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっていることを確認します。

必要に応じてシート位置（▷90 ページ）を調整して、ベルトを身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ② を持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

- ヘッドレストの中央が目の高さにある
- バックレストはできるだけ垂直にする
- 背中はバックレストに密着させる
- シートベルトが正しく着用できる
- ペダルが楽に踏み込める
- ステアリングが楽に操作できる

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車
① ランプスイッチ
※右ハンドル車は、車幅灯表示灯 ⑦ とフロントフォグランプ表示灯 ⑧ の位置が逆になります。

	位置	作動内容
②	0	すべてのランプが消灯
③	A	周囲の明るさに応じて、自動的に点灯 / 消灯
④	(車幅灯マーク)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、表示灯 ⑦ が点灯
⑤	(ヘッドランプマーク)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯
⑥	P⇠→	右側のパーキングランプが点灯
	←P⇠	左側のパーキングランプが点灯
⑦	車幅灯表示灯	
⑧	フロントフォグランプ表示灯	
⑨	リアフォグランプ表示灯	

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯できます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ランプスイッチ ① を (ヘッドランプマーク) の位置にします。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ ① を **A** の位置にします。

周囲が暗いとき、イグニッション位置を **1** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。

⚠ 事故のおそれがあります

以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。

- 霧の中を走行するとき
- 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき

⚠ 事故のおそれがあります

ランプスイッチを A から 🔆 の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

❗ ランプスイッチが 🔆 の位置のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴーでイグニッション位置を **0** にしている状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ を 消して ください" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

❗ エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ℹ ヘッドランプが点灯しているときに、イグニッション位置を **2** 以外にすると、ヘッドランプが消灯します。さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

ℹ ランプスイッチが A の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチの位置が 🔆 または 🔆 のときに、ランプスイッチを 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ⑧ が点灯します。

フロントフォグランプ / リアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチの位置が 🔆 または 🔆 のときに、ランプスイッチを 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ⑧ とリアフォグランプ表示灯 ⑨ が点灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

ランプスイッチが A の位置のときは、フォグランプは点灯できません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを 🔆 に合わせてヘッドランプを点灯してください。

❗ フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

パーキングランプは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

イグニッション位置が **0** のとき、またはエンジンスイッチにキーを差していないときに点灯することができます。

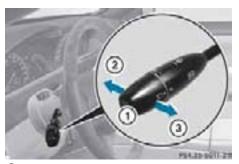
▶ ランプスイッチを P⋚→ に合わせます。

右側のパーキングランプが点灯します。

または

▶ ランプスイッチを ←P⋚ に合わせます。

左側のパーキングランプが点灯します。

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ② の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

パッシングする

▶ コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと ① の位置に戻ります。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

車外ランプ残照時間の設定

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプ、ドアミラー下部のランプ（▷134 ページ）が点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、一定の時間が経過すると消灯します。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊛。

メインエリアが車両設定画面になります。

車外ランプ残照時間の設定 ①

▶ メインエリアに **" ヘッドライト残照時間 "** を表示させて〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊛。

車外ランプ残照時間設定メニューが表示されます。

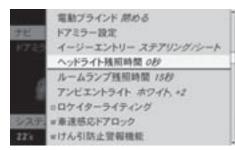
現在選択されている残照時間の左側には、" • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します◎。

"0 秒 " を選択すると、車外ランプは点灯しません。

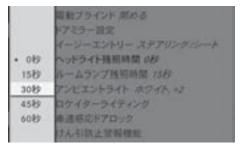
車外ランプ残照時間が設定されます。

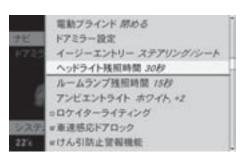
車外ランプ残照時間の設定 ②

▶ アプリケーションエリアの **" 車両 "** を選択して↑◎、コントローラーを押します◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ **" ヘッドライト残照時間 "** を選択して《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します◎。

車外ランプ残照時間設定メニューが表示されます。

現在選択されている残照時間の左側には、" • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します◎。

"0 秒 " を選択すると、車外ランプは点灯しません。

車外ランプ残照時間が設定されます。

車外ランプ残照機能を一時的に解除する

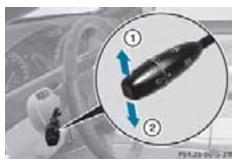
▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

ℹ ランプが消灯するまでの時間は、ドアやトランクを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ℹ エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後に、ランプは消灯します。

ℹ エンジンを停止してから約 60 秒以内であれば、設定した時間が経過してランプが消灯したあとでも、ドアやトランクを開くたびに車外ランプは点灯します。

方向指示

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

左ハンドル車
① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ① の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

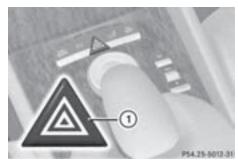
方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ℹ コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

車両の操作

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

① 非常点滅灯スイッチ

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

非常点滅灯スイッチ ① とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ ① を押します。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

i 非常点滅灯を点滅させているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯を消灯させると、再び非常点滅灯に切り替わります。

i エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

i 約 70km/h 以上で走行しているときに急ブレーキを効かせて停止したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。

ヘッドランプウォッシャー

イグニッション位置が **2** で、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャー（▷135 ページ）を約 5 回作動させると、ウォッシャー液が自動的にヘッドランプに向けて噴射されます。

! ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

i イグニッション位置を **1** にするか、車外ランプを消灯すると、ウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

インテリジェントライトシステム

インテリジェントライトシステムは以下の機能から構成されます。

- アクティブライトシステム
- コーナリングランプ
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

インテリジェントライトシステムは、周囲が暗いときに作動します。

この機能の設定と解除については（▷179 ページ）をご覧ください。

アクティブライトシステム

ヘッドランプが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

ⓘ ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ⓘ 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

コーナリングランプ

ヘッドランプが点灯しているとき、走行中に方向指示灯を点滅させたりステアリングを操作すると、コーナリングランプが点灯します。

方向指示灯との連動

▶ 走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させます。

点滅させた側のコーナリングランプが点灯します。

シフトポジションが **R** のときは、コーナリングランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

▶ 走行速度が約 70km/h 以下のときにステアリングを操作します。

操作した側のコーナリングランプが点灯します。

シフトポジションが **R** のときは、ステアリングを操作した側と逆側のコーナリングランプが点灯します。

ℹ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングランプが点灯します。

ℹ コーナリングランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングランプが点灯することがあります。

ℹ 点灯したコーナリングランプは約3分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

以下のときに、ヘッドランプの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約110km/h以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約1km走行したとき
- 走行速度が約130km/h以上になったとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ヘッドランプの照度は、走行速度が約80km/h以上になったときに上がります。

ℹ 走行速度が約80km/h以下になると、ハイウェイモードは停止します。

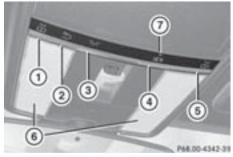
フォグランプ強化機能

ヘッドランプが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。

走行速度が約70km/h以下のときにリアフォグランプを点灯すると作動します。

ℹ 走行速度が約100km/hを超えたとき、またはリアフォグランプを消灯したときは、フォグランプ強化機能が停止します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② リアルームランプスイッチ
③ フロントルームランプスイッチ
④ 点灯モード選択スイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑥ フロントルームランプ
⑦ 点灯モード表示灯

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ スイッチ ④ を押して、点灯モード表示灯 ⑦ **"OFF"** が消灯している状態にします。

以下の操作をするとルームランプが点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、設定した時間が経過すると消灯します（▷130 ページ）。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

i 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠すると、数秒後に自動的に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ スイッチ ④ を押して、点灯モード表示灯 ⑦ **"OFF"** が点灯している状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠する

フロントルームランプの手動点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ③ を押します。

フロントルームランプ ⑥ が点灯 / 消灯します。

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。

また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で施錠した後、解錠します。

または

▶ スイッチ ④ を押します。

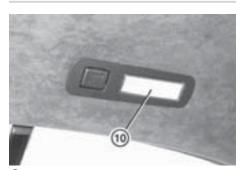
フロント読書灯

⑧ フロント読書灯（左側）
⑨ フロント読書灯（右側）

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ①⑤ を押します。

フロント読書灯 ⑧⑨ が点灯 / 消灯します。

リアルームランプ

⑩ リアルームランプ

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ② を押します。

リアルームランプ ⑩ が点灯 / 消灯します。

ルームランプ残照時間の設定

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのとき、エンジンスイッチからキーを抜いたときに点灯したルームランプの残照時間を設定できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

ルームランプ残照時間を設定する ①

▶ メインエリアに **" ルームランプ残照時間 "** を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

ルームランプ残照時間設定メニューが表示されます。

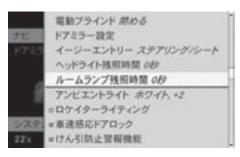
現在、選択されている残照時間の左側には " • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

"0 秒 " を選択すると、ルームランプは点灯しません。

ルームランプ残照時間が設定されます。

ルームランプ残照時間を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの **" 車両 "** を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ **" ルームランプ残照時間 "** を選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

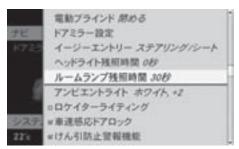
ルームランプ残照時間設定メニューが表示されます。

• 0秒
15秒
30秒
45秒
60秒

電動ブラインド 開める
ドアミラー設定
イージーエントリー ステアリング/シート
ヘッドライト残照時間 0秒
ルームランプ残照時間 0秒
アンビエントライト ホワイト +2
ロケイターライティング
車速感応ドアロック
けん引防止警報機能

現在、選択されている残照時間の左側には " • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

"0 秒 " を選択すると、ルームランプは点灯しません。

ルームランプ残照時間が設定されます。

アンビエントランプ

左ハンドル車
① アンビエントランプ

アンビエントランプの点灯 / 消灯

- ドアを開くと約 5 分間点灯します。

  ドアを閉じると約 10 秒間点灯し、その後約 20 秒間は COMAND システムで設定されている照度で点灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 40 秒後に消灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、COMAND システムで設定されている照度で点灯します。

  イグニッション位置を **2** から **1** または **0** にすると、約 10 秒後に消灯します。

アンビエントランプは、色調と照度の設定ができます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

アンビエントランプの色調 / 照度を設定する ①

▶ メインエリアに **" アンビエントライト "** を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプ設定メニューが表示されます。

アンビエントランプの色調および明るさが設定できます。

▶ アンビエントランプの色調を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプの色調が設定されます。

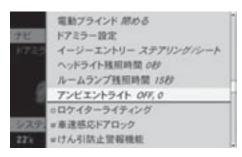
▶ **" 明るさ "** を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプの照度設定メニューが表示されます。

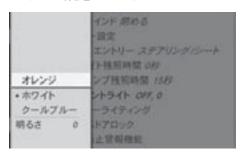
▶ アンビエントランプの照度を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプの照度が設定されます。

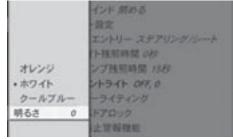
アンビエントランプの色調 / 照度を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " **アンビエントライト** " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプ照度設定メニューが表示されます。

アンビエントランプの色調および明るさが設定できます。

▶ アンビエントランプの色調を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプの色調が設定されます。

▶ " **明るさ** " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプの照度設定メニューが表示されます。

▶ アンビエントランプの照度を選択して ⦅◎⦆・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

アンビエントランプの照度が設定されます。

フットウェルランプ

ダッシュボード下にフットウェルランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- イグニッション位置を **2** にすると低い照度で点灯します。

  イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜くと約 7 秒後に消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。

- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。

  ◇イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを閉じると減光し、約 30 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

ドア下部のランプ

ドア下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアミラー下部のランプ

ドアミラー下部に乗降用のランプがあります。

ドアミラー下部のランプは、ロケイターライティングや車外ランプ残照時間の設定に応じて点灯 / 消灯します。

詳しくは（▷77、122 ページ）をご覧ください。

ワイパー

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動させることができます。

左ハンドル車
① ワイパー作動モードのマーク
② ティップ機能 / ウォッシャー液の噴射

ワイパーを作動させる

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク ① を ••• ～ ═ に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
•••	オートモード I ℹ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
••••	オートモード II オートモード I よりも少ない雨滴量で作動します。 ℹ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
─	低速作動モード
═	高速作動モード

ℹ オートモードのとき、停車時にドアを開くとワイパーは作動を停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが **P** または **N** のときは、ドアを閉じていずれかのシフトポジションに変更したとき
- シフトポジションが **D** または **R** のときは、ドアを閉じたとき

ℹ コンビネーションスイッチが ─ の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ② の方向に軽く押します。

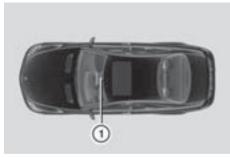
ワイパーが 1 回だけ作動します（ウォッシャー液は噴射しません）。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウォッシャー液を噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ② の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

レインセンサー

① レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサー ① があります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者などに水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。

フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが — や = の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! イグニッション位置が **1** か **2** のときにコンビネーションスイッチを ••• か •••• の位置にすると、フロントウインドウが乾いていても、ワイパーが 1 回作動します。

! ワイパーを使用する必要がないときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動し、フロントウインドウが濡れていないときでもワイパーが作動することがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがフロントウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。

ⓘ ボンネットのロックが解除されているときは、ワイパーは作動しません。

ⓘ ワイパーが作動しないときは、別のワイパー作動モードを選択すると作動することがあります。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ⓘ ウインドウが濡れているときでも、油膜などの汚れを防ぐため必要に応じてウォッシャー液を噴射してください。

パワーウインドウ

パワーウインドウの開閉

⚠ けがや事故のおそれがあります

- ドアウインドウやリアサイドウインドウを開くときは、ウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ウインドウとウインドウフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。引き込まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチやリアサイドウインドウスイッチを操作して、ウインドウを閉じてください。
- ドアウインドウやリアサイドウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチやリアサイドウインドウスイッチを操作してウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。

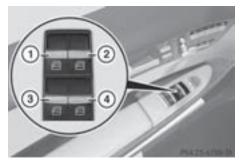
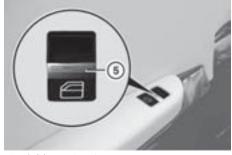
  ◇ 運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  ◇ 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウ、リアサイドウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、後席に乗車させ、リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

パワーウインドウスイッチは各ドアと、リアシート脇のアームレストにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウとリアサイドウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに開閉できます。

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
①左ドアウインドウスイッチ
②右ドアウインドウスイッチ
③左リアサイドウインドウスイッチ
④右リアサイドウインドウスイッチ

リア左側のスイッチ
⑤左リアサイドウインドウスイッチ

ウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

ドアウインドウは、スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、ウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

ℹ ドアウインドウが自動で開閉しているときやリアサイドウインドウが自動で開いているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウとリアサイドウインドウを開閉できます。約 5 分以内にドアを開くと、ウインドウの開閉はできなくなります。

ℹ ドアウインドウを開くと、同じ側のリアサイドウインドウも自動的に少し開きます。ドアウインドウを閉じると、リアサイドウインドウも閉じます。

ℹ ドアウインドウが少しでも開いているときは、同じ側のリアサイドウインドウを完全に閉じることはできません。

ℹ リモコン操作でドアウインドウとリアサイドウインドウを開くことができます（▷140 ページ）。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作でドアウインドウとリアサイドウインドウを閉じることができます（▷141 ページ）。

ℹ エアコンディショナーの内気循環スイッチ（▷219 ページ）の操作に連動して、ドアウインドウとリアサイドウインドウを開閉できます。

ℹ PRE-SAFE（▷39 ページ）が作動したときは、ドアウインドウが自動で閉じ、わずかに開いた状態で停止します。

ℹ 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウやリアサイドウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアシート脇のスイッチで開閉中のドアウインドウやリアサイドウインドウを操作することはできません。

挟み込み防止機能

ドアウインドウとリアサイドウインドウには挟み込み防止機能があります。

スイッチを引き続けてドアウインドウやリアサイドウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、スイッチから手を放すとその位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを引き続けてウインドウを閉じると、ウインドウはより強い力で閉じます。

上記の状態でウインドウが閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すとその位置から少し下降します。さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてウインドウを閉じると、ウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちにドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

⚠ **けがのおそれがあります**

より強い力でウインドウを閉じるときや挟み込み防止機能が作動しない状態でウインドウを閉じるときは、身体を挟まれないように十分注意してください。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを開くことができます。

左ハンドル車
① 発信部
② 解錠ボタン

▶ キーの発信部 ① を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、解錠ボタン ② を押し続けます。

ドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフが開きます。

解錠ボタン ② から指を放すと、作動中のドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウとリアサイドウインドウを開くときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとウインドウフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

i コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

i リモコン操作でドアウインドウなどを開くと、運転席のシートベンチレーターが強で約 5 分間作動します。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作により、車外からドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを閉じることができます。

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

リモコン操作での作動

左ハンドル車
① 表示灯
② 施錠ボタン

▶ キーの発信部 ① を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、施錠ボタン ② を押し続けます。

ドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

施錠ボタン ② から指を放すと、作動中のドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

キーレスゴー操作での作動

左側ドア
③ コンビニエンスクロージング操作部

▶ ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ③ に触れ続けます。

すべてのドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

コンビニエンスクロージング操作部 ③ から指を放すと、作動中のドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

車外からドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフなどを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンまたはコンビニエンスクロージング操作部から指を放してください。

そして、リモコン操作でドアウインドウなどを閉じているときは、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウなどを開いてください。

キーレスゴー操作でドアウインドウなどを閉じているときは、すぐにドアハンドルを引き続けてください。ドアウインドウなどが開きます。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車外から施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じていることを確認してください。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作およびキーレスゴー操作はできません。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

シフト位置

P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
R リバース	後退するときの位置
D ドライブ	走行するときの位置 1 速 ～ 7 速（CL 600 と CL 65 AMG は 1 速～ 5 速）の範囲で自動的に変速します。

キーレスゴーによるエンジンの始動

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

⚠ **けがのおそれがあります**

キーが車内にあるときは、キーレスゴースイッチによりエンジンを始動できます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、" ｷｰを 認識できません " と数秒間表示されます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

キーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが **P** になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! シフトポジションを **R** にするときは、完全に停車してください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪が空転しないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! CL 63 AMG、CL 65 AMG では、エンジン冷却水が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

ⓘ イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、**P** から他のシフトポジションにできます。

ⓘ イグニッション位置が **1** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを **P** から **N** にできます。

ⓘ 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷80 ページ）をご覧ください。

ⓘ パーキングブレーキが効いているときに発進すると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。詳しくは（▷146 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを **D** にします。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

ヒルスタートアシストの作動

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを **P** にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ⓘ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ⓘ ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが **N** のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP が故障して解除されているとき

駐車

⚠ **事故のおそれがあります**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを **P** にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ **火災のおそれがあります**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフを閉じて、車を施錠してください。

車が動き出すのを防ぐため、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが効いていること
- パーキングブレーキが **P** になっていて、エンジンスイッチからキーが抜いてあるかイグニッション位置が **0** になっていること
- 上り坂や下り坂に駐車するときは、前輪が路肩方向に向けていること

パーキングブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

パーキングブレーキを効かせていても、アクセルペダルを踏むとパーキングブレーキは自動的に解除され、車は発進します。周囲の状況を十分確認してから発進してください。

左ハンドル車
① パーキングブレーキスイッチ

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキスイッチ ① を押します。

メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点灯します。

ℹ パーキングブレーキは、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときや、イグニッション位置が **0** のときも効かせることができます。

パーキングブレーキを解除する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パーキングブレーキスイッチ ① を引きます。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、イグニッション位置が **1** のときも、パーキングブレーキスイッチを引いてパーキングブレーキを解除できます。

または

▶ エンジンがかかっていて、シフトポジションが **D** か **R** のときにアクセルペダルを踏みます。

メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が消灯します。

ℹ 以下のときは、アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキは自動的に解除されません。また、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 解除 してください" のメッセージが表示され、メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点滅します。

- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開いているとき、および、その後運転席ドアを閉じたとき
- ボンネットのロックが解除されているとき
- トランクが開いていて、シフトポジションが **R** のとき

ⓘ ホールド機能（▷197 ページ）が作動しているときに、以下の操作をするとパーキングブレーキが自動で効き、メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点灯します。また､ホールド機能も解除されます。

- ボンネットのロックを解除する
- シフトポジションが R のときに、トランクを開く
- トランクが開いているときにシフトポジションを R にする
- ホールド機能を作動させたままにする

また、以下のときはシフトポジションが自動的に P になります。

- エンジンを停止する
- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外す

ⓘ イグニッション位置が **2** 以外のとき（エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、イグニッション位置が **1** か **2** 以外のとき）に、パーキングブレーキを解除しようとすると､マルチファンクションディスプレイに、" ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝで 解除できます " と表示されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席ドアが開いていて運転席の乗員がシートベルトを着用していないとき、および、その後運転席ドアを閉じたときはアクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキは自動的に解除されませんが、以下のときは、アクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが自動的に解除され､車は発進します。

事故につながるおそれがありますので注意してください。

- 運転席ドアを閉じ、シフトポジションを P にしてから再度 D か R にしたとき
- 運転席ドアを閉じてからシートベルトを着用し、その後シートベルトを外したとき

緊急時のパーキングブレーキ操作

緊急時には、パーキングブレーキスイッチでブレーキを効かせることができます。

▶ 走行しているときにパーキングブレーキスイッチ ① を押し続けます。

ブレーキが作動している間、メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点滅します。

また、マルチファンクションディスプレイに " ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 解除 してください " と表示され、警告音も鳴ります。

完全に停車すると､パーキングブレーキが効いている状態になります。

ⓘ パーキングブレーキスイッチを押し続けるに従い、ブレーキの制動力は強くなります。

エンジンを停止するとき

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンが停止するまで、キーレスゴースイッチを押します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にキーレスゴースイッチを約3秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

i 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

i キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを **P** にします。

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

i シフトポジションが **D** か **R** のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。

さらに、この状態でドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが **P** になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションを **D** か **R** から **N** にして、エンジンを停止したときは、ドアを開いてもシフトポジションは **P** になりません。

オートマチックトランスミッション

セレクターレバー

左ハンドル車
① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

シフトポジションを選択する

▶ セレクターレバー ① を操作して、シフトポジションを選択します。

セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

ポジション		操作方法
P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置	▶セレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押します。
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。	▶セレクターレバーを ③ または ④ の方向に軽く操作します。
R リバース	後退するときの位置	▶セレクターレバーを ⑤ の方向にいっぱいまで上げます
D ドライブ	走行するときの位置 1 速 ～ 7 速（CL 600 と CL 65 AMG は 1 速～ 5 速）の範囲で自動的に変速します。	▶セレクターレバーを ⑥ の方向にいっぱいまで下げます。

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

! エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! 約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、一旦停止して、シフトポジションが変更されたことに気付かずに再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

! シフトポジションを P にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪が空転しないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、P から他のシフトポジションにできます。

i イグニッション位置が **1** でブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらに、この状態でドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

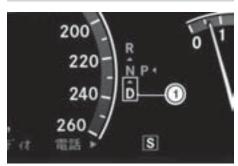
ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションを D か R から N にして、エンジンを停止したときは、ドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

ⓘ シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ からｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷを 踏んでください " と表示されます。

ⓘ 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

ⓘ イグニッション位置が **2** のとき、シフトポジションが P 以外の状態で運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " ｾﾚｸﾀが走行位置 " と表示され、警告音が鳴ります。

ⓘ シフトポジションを R にしたときは、確認音が鳴ります。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブポジションが選択されている状態）

メーターパネルが点灯しているときに、シフトポジション表示 ① が表示されます。

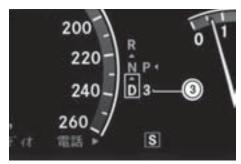
! メーターパネルが故障してシフトポジション表示が表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、シフトされたポジションを確認してから走行してください。なるべくシフトポジションを D にし、走行モードを C か S にして、ティップシフトにしないでください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

走行モード（▷153 ページ）が S モードまたは C モードのときにティップシフトにできます。

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

※ 車種や仕様により、パドルの色や形状は異なります。

③ ギアレンジ表示

ティップシフトにする

▶ シフトポジションが **D** のときに、左側パドル ① を引きます。

ティップシフトになり、選択されたギアレンジがメーターパネルのギアレンジ表示 ③ に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引きます。

低いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示 ③ に表示されます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル ② を引きます。

高いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示 ③ に表示されます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル ② を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ③ が消灯します。

または

▶ セレクターレバーを **D** の方向に操作します。

レンジ	
D	1 速～ 7 速（CL 600 と CL 65 AMG は 1 速～ 5 速）の範囲で変速します。
D6 *	1 速～ 6 速の範囲で変速します。
D5 *	1 速～ 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で変速します。 エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で変速します。 下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。

! メーターパネルが故障してシフトポジションやギアレンジが表示されないときは、ティップシフトを解除して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

i ティップシフトが選択されていないときに右側パドル ② を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

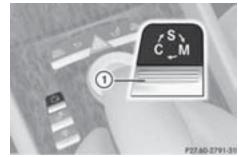
i 加速時にエンジンの許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップが行なわれます。

i ギアレンジ表示 ③ は選択したギアレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。

i 左側パドル ① を引いても、選択したギアレンジが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトダウンされません。

i エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても選択したギアレンジに変わらないことがあります。

走行モード

路面の状況や運転に合わせてオートマチックトランスミッションの走行モードを切り替えることができます。

① 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。

C モード→ S モード→ M モード→ C モードと切り替わります。

② 走行モード表示

メーターパネルが点灯しているときに、走行モード表示 ② が表示されます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 選択した走行モードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合った走行モードを選択してください。

走行モード	作動内容
C モード	快適性と経済性を重視したモードです。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。
M モード	マニュアルでギアシフトできるモードです。

走行モードが C モードのときは、以下のようになります。

- 快適性を重視したエンジン・サスペンション制御になります。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、燃費が向上します。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- スポーツ性を重視したエンジン・サスペンション制御になります。
- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップするため、消費燃料が増加します。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ℹ 車種や仕様により、トランスミッションが暖まっていないときは、走行モードに関わらず、変速特性が自動的に制御されます。

マニュアルギアシフト

ステアリングのパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ 事故のおそれがあります

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。

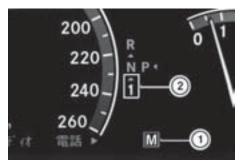
! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪が空転しないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ℹ マニュアルギアシフトでは ESP の機能を解除しないで走行することをお勧めします（▷48 ページ）。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、シフトチェンジされないことがあります。

ℹ 運転者がシフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード表示
② ギア表示

マニュアルギアシフトを選択する

▶ シフトポジションを **D** にします。

▶ 走行モード選択スイッチ（▷153 ページ）を押して、走行モード表示 ① に "M" を表示させます

オートマチックギアシフトはオフになります。

現在選択されているギアがギア表示 ② に表示されます。

ℹ マニュアルギアシフトではギア表示 ② の数字は実際のギアを示しています。シフトアップ / シフトダウンに応じてギア表示 ② の数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ（▷153 ページ）を押して、走行モード表示 ① に "S" または "C" を表示させます。

ℹ マニュアルギアシフトが選択された状態でエンジンを停止してイグニッション位置を **0** にすると、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ギアシフト操作

① 左側パドル（シフトダウン）
② 右側パドル（シフトアップ）

※ 車種や仕様により、パドルの色や形状は異なります。

シフトダウンする

▶ 左側パドル ① を引きます。

操作するたびに 1 段低いギアにシフトダウンします。

シフトアップする

▶ 右側パドル ② を引きます。

操作するたびに 1 段高いギアにシフトアップします。

! CL 63 AMG と CL 65 AMG はエンジン回転数が上限まで近づいても自動的にシフトアップされず、燃料供給がカットされます。エンジン回転数が上限まで近づかないように注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

i 低速で走行したとき、または停車したときは、ギアは自動的に 1 速にシフトされます。

i 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

i 運転者がシフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンされます。

i CL 63 AMG、CL 65 AMG を除く車種では、エンジン回転数が上昇すると、自動的にシフトアップします。

i CL 63 AMG、CL 65 AMG を除く車種では、マニュアルギアシフトでも、キックダウンを行なうことができます。

シフトアップ表示（CL 63 AMG / CL 65 AMG）

① ギア表示
② シフトアップ表示

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイにギア表示 ① とシフトアップ表示 ② "UP" が赤く表示されます。必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、走行速度や外気温度、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージなど車両の状態に関する情報を把握できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき

  イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒後に消灯します。
- 車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯してから約 30 秒後に消灯します。

また、以下のときに点灯して約 30 秒後に消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠したとき
- 運転席ドアを開いたとき
- 開いている運転席ドアを閉じたとき
- ステアリングスイッチの ON または ⮌ を押したとき
- パーキングブレーキスイッチを操作したとき

メーターパネルの照度を調整する

メーターパネルの照度は、周囲が暗く、車外ランプを点灯しているときに調整できます。

左ハンドル車　右ハンドル車
① メーターパネル照度調整ノブ

明るくする

▶ ノブ ① を時計回りにまわします。

暗くする

▶ ノブ ① を反時計回りにまわします。

ℹ 周囲が明るいときは、メーターパネルの照度が自動的に調整されます。手動で照度を調整することはできません。

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

❗ 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン冷却水温度計

エンジンの冷却水温度を表示します。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷306、316 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約 90 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 11 リットル（CL 63 AMG、CL 65 AMG は約 14 リットル）です。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

エンジン警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限されアクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

外気温度表示

外気温度を表示します。

⚠ **事故のおそれがあります**

外温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて外気温度表示に反映されます。

ℹ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイは、車両に関する各種情報や故障／警告メッセージなどを表示するシステムです。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示できます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

ⓘ 画面表示や操作方法などは、予告なく変更される場合があります。

ディスプレイ表示

① マルチファンクションディスプレイのメインメニュー
② マルチファンクションディスプレイの表示エリア

マルチファンクションディスプレイはスピードメーターの内側にあります。

メインメニュー ① の選択項目に応じた内容が、表示エリア ② に表示されます。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作はステアリングスイッチで行ないます。

ステアリングスイッチでは、COMAND システムの一部の操作を行なうこともできます。

詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 走行中にステアリングスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

車両の操作

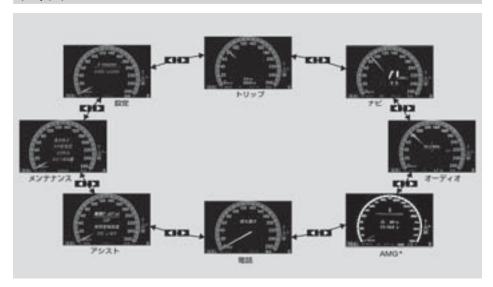
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**音量スイッチ ＋ －** 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 **通話開始 / 終了スイッチ(電話)** 電話の受信 / 保留 / 切断 **ミュートスイッチ** オーディオやナビの音声案内などの消音
③	**音声認識スイッチ** 音声認識の開始
④	**リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ** 一つ前の画面への移動 / 音声認識の中止
⑤	**スクロールスイッチ** ▲ ▼ ▶ ◀ • メインメニューやサブメニューの選択 • オーディオの操作 • 電話帳登録項目の選択 **確定スイッチ OK** • 選択している項目の確定 • 選択している設定の変更

マルチファンクションディスプレイの操作上の特徴は以下の通りです。

- マルチファンクションディスプレイには、メインメニューがあります(▷161 ページ)。
- メインメニューを選択するときは、スクロールスイッチ ⑤ の ◀ または ▶ を押します。

  選択したメインメニューが白色で表示されます。
- マルチファンクションディスプレイの基本画面はオドメーター / トリップメーター表示です。基本画面に戻すときは、リターンスイッチ ④ を 1 回または数回押すか、押して保持します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メインメニュー

各メインメニューの表示項目

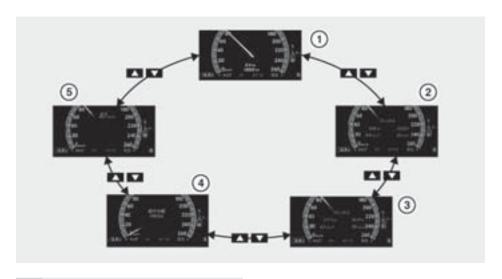
各メインメニューで表示 / 設定できる項目は以下の通りです。

トリップ （▷162 ページ）	基本画面（オドメーター / トリップメーター）、ショートトリップメーター、ロングトリップメーター、瞬間燃費 *・走行可能距離表示、走行速度表示
ナビ （▷166 ページ）	進行方向方位表示、ルート案内の表示
オーディオ （▷166 ページ）	ラジオ局の選局、CD / DVD オーディオ / MP3 / ミュージッククレジスターの選曲、DVD ビデオのチャプター / トラック番号の選択
AMG* （▷168 ページ）	ギア表示、油温表示、電圧表示、レースタイマー、計測結果表示
電話 （▷172 ページ）	電話帳の表示

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アシスト (▷174 ページ)	車間ディスプレイの表示 *、ESP の設定、車間距離警告音の設定 *、パーキングアシストリアビューカメラの起動設定、パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定
メンテナンス (▷176 ページ)	故障 / 警告メッセージの表示、タイヤ空気圧警告システムの表示、メンテナンスインジケーターの表示、エンジンオイル量の点検 *
設定 (▷178 ページ)	ヘッドランプ点灯モードの設定、インテリジェントライトシステムの設定

トリップメニュー

走行に関する車両情報を表示します。

①	基本画面
②	ショートトリップメーター画面
③	ロングトリップメーター画面
④	走行可能距離画面
⑤	走行速度表示画面

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

基本画面（オドメーター / トリップメーター）

① オドメーター
② トリップメーター

オドメーター ① はこれまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーター ② はリセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする

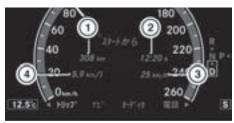
▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ﾄﾘｯﾌﾟ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、基本画面を表示させます。

▶ OK を押します。

画面に " *ﾄﾘｯﾌﾟﾒｰﾀｰ ﾘｾｯﾄ* " と表示されます。

▶ ▼ を押して " *はい* " を選択し、OK を押します。

トリップメーターが 0.0km にリセットされます。

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーター画面を表示させる

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ﾄﾘｯﾌﾟ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ℹ 約 4 時間経過する前に再度イグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、ショートトリップメーターは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

ショートトリップメーターは、手動でもリセットできます。

▶ ショートトリップメーター画面を表示しているときに、ステアリングスイッチの OK を押します。

画面に "*数値 リセット*" と表示されます。

▶ ▼ を押して "*はい*" を選択し、OK を押します。

ショートトリップメーターがリセットされます。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーター画面を表示させる

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"トリップ" を選択します。

▼ または ▲ を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面を表示しているときに、ステアリングスイッチの OK を押します。

画面に "*数値 リセット*" と表示されます。

▶ ▼ を押して "*はい*" を選択し、OK を押します。

ロングトリップメーターがリセットされます。

ⓘ リセット後、ロングトリップメーターは、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

瞬間燃費 *・走行可能距離表示画面

① 瞬間燃費
② 走行可能距離

瞬間燃費 ① は、そのときの瞬間燃費を km/l で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

走行可能距離 ② は、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示できます。

瞬間燃費・走行可能距離表示画面を表示させる

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、" ﾄﾘｯﾌﾟ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、瞬間燃費・走行可能距離表示画面を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

i 燃料残量が少ないときは、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

走行速度表示画面

① 走行速度表示

走行中の速度を表示します。

走行速度表示画面を表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ﾄﾘｯﾌﾟ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、走行速度表示画面を表示させます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ナビメニュー

① 進行方向の方位表示

COMAND システムのナビ機能でルート案内を行なっているときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、進行方向の方位 ① が表示されます。

ナビメニューを表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"ﾅﾋﾞ" を選択します。

ナビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

オーディオメニュー

ラジオ局の選局、CD / DVD オーディオ / MP3 / ミュージックレジスターの選曲、DVD ビデオのチャプター / トラック番号の選択などができます。

ℹ COMAND システムをテレビにしているときは、"TV" と表示されます。

また、ステアリングスイッチでのテレビの操作はできません。

ℹ オーディオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ラジオ局を選局する

① 放送局の周波数
② プリセット番号、FM1 / AM 表示

▶ COMAND システムで **"FM"** または **"AM"** のいずれかを選択します（▷別冊）。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"ｵｰﾃﾞｨｵ" を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次に受信した放送局で停止します。

受信している放送局がプリセットされているときは、① にはプリセット番号が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

音楽を選曲する

① トラック番号 / 曲名
② CD / DVD チェンジャーのスロット番号

▶ COMAND システムで **"CD"、"DVD オーディオ "、"MP3"、" ミュージックレジスター "** のいずれかを選択します（▷ 別冊）。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のトラックが再生されます。

ℹ 再生中のメディアに文字データが含まれている場合は、① には曲名が表示されます。

DVD ビデオのシーンを選択する

① チャプター / トラック番号
② CD / DVD チェンジャーのスロット番号

▶ COMAND システムで **"DVD ビデオ "** を選択します（▷ 別冊）。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

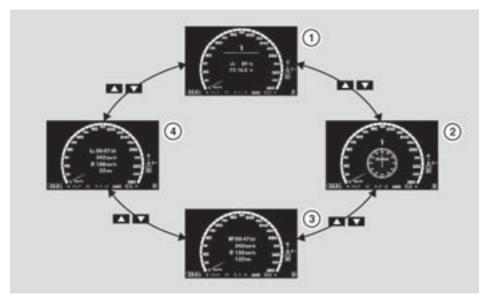
▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のチャプター / トラックが再生されます。

車両の操作

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG メニュー *

車両の状態を確認したり、サーキットコースなどでラップタイムを計測・記録できます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

①	ギア・油温・電圧表示画面
②	レースタイマー画面
③	計測結果表示画面（全ラップ）
④	計測結果表示画面（ラップ別）

ギア・油温・電圧表示画面

ギア位置、油温、電圧のそれぞれの状態を表示できます。

① ギア表示
② 油温表示
③ 電圧表示

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア・油温・電圧表示画面を表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"AMG" を選択します。

ギア・油温・電圧表示画面が表示されます。

ギア表示 ① は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示できます。

油温表示 ② は、エンジンオイルの油温を表示します。

電圧表示 ③ は、バッテリーの電圧を表示します。

! 油温が青色に表示されているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約 80℃未満になっています）。このときは必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

i パークトロニック（▷201 ページ）が作動しているときは、ギア表示 ① は表示されません。

i イグニッション位置が **1** のときは、油温は表示されません。このときは "- - - -" が表示されます。

ギア・レースタイマー画面

ギア・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

P54.32-3982-31

① ギア表示
② レースタイマー
③ 計測タイム
④ ラップタイム表示

ギア・レースタイマー画面を表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"AMG" を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、ギア・レースタイマー画面を選択します。

i ギア・レースタイマー画面を表示させているときは、＋ または － を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイム計測を開始する

▶ ＋ を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に ＋ を押します。

タイム計測が停止します。

ℹ タイム計測を停止しているときに ＋ を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ℹ タイム計測中に、停車してイグニッション位置を **0** か **1** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜くと、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動して ＋ を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に － を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

ℹ スプリットタイムを表示しているときに再度 － を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに － を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:00００ に戻ります。

ℹ 消去したタイムが最速ラップタイムのときは、2 番目のラップタイムが最速ラップタイムに繰り上がります。

ラップタイムを記録する

最大 16 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム

▶ タイム計測中に － を押します。

ℹ このときから次のラップのタイム計測が開始されます。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 － を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

ℹ 2 件以上のラップタイムが記録されているときは、最速ラップタイム③が表示されます。

ℹ ラップタイムが 16 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、16 件目のラップタイムだけを消去するか、記録したラップタイムをすべて消去してください。

全てのラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、 − を約 3 秒間押し続けます。

表示が 00:00₀₀ に戻ります。

▶ ＋ を押します。

全てのラップタイムが消去され、新たにタイム計測が開始されます。

または

▶ タイム計測が停止しているときに OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race Timer" と表示されます。

▶ ▼ を押して "Yes" を選択し、 OK を押します。

表示が 00:00₀₀ に戻ります。

▶ ＋ を押します。

全てのラップタイムが消去され、新たにタイム計測が開始されます。

ℹ ラップタイムは個別に消去できません。

全ラップの計測結果を確認する

ラップタイムが記録されているときは、全ラップの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）
① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの走行距離
④ 計測した全ラップの平均速度

※ 上記は、車両の機能を説明するためのイラストです。公道では、法定速度や制限速度を遵守してください。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"AMG" を選択します。

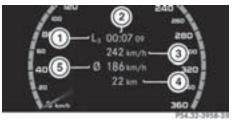
▶ ▼ または ▲ を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を選択します。

ℹ タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

車両の操作

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップごとの計測結果を確認する

2 周以上のラップタイムが記録されているときは、ラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）
① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップの平均速度

※ 上記は、車両の機能を説明するためのイラストです。公道では、法定速度や制限速度を遵守してください。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"AMG" を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

ℹ 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示 ① が点滅します。

ℹ タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

電話メニュー

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

電話機能の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

待機状態にする

マルチファンクションディスプレイに電話メニューを表示しているときは、電話機能に関する情報を表示できます。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します（▷ 別冊）。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" 電話 " を選択します。

マルチファンクションディスプレイに " *待ち受け* " と表示されます。

電話メニューをオフにする

▶ ファンクションスイッチの ON/OFF スイッチ（▷61 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに " スタンバイ " と表示され、COMAND システムの電源と電話メニューがオフになります。

着信した電話を受ける

▶ 着信呼び出し中にステアリングスイッチの を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に を押します。

電話帳から電話をかける

COMAND システムに登録した電話帳データを呼び出して、電話をかけることができます。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" 電話 " を選択します。

▶ OK、▼ または ▲ を押して、マルチファンクションディスプレイにリストを表示します。

▶ ▼ または ▲ を押して、電話帳データを検索します。

▶ 目的の電話帳データを選択したら、 または OK を押します。

電話が発信されます。

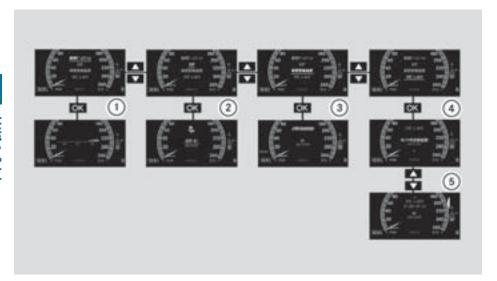
ℹ 電話帳の登録データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに ▼ または ▲ を押して電話帳データを選択し または OK を押して発信します。

ℹ ▼ または ▲ を約 2 秒以上押し続けると、電話帳データのスクロールが速くなります。

さらに ▼ または ▲ を押し続けると、電話帳登録項目の読みがなのあいうえお順にスクロールします。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アシストメニュー

運転装置に関する設定を行なうことができます。

①	車間ディスプレイ *
②	ESP 設定画面
③	車間距離警告音設定画面 *
④	パーキングアシストリアビューカメラの起動設定画面
⑤	パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定画面

車間ディスプレイ *

ディストロニック装備車は、先行車との距離などを表示できます。

詳しくは（▷185 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ESP 設定画面

ESP の機能を解除 / 設定できます 。

詳しくは（▷51 ページ）をご覧ください。

車間距離警告音設定画面 *

ディストロニック装備車は、車間距離警告音を設定できます。

詳しくは（▷192 ページ）をご覧ください。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定画面

シフトポジションを **R** にしたとき、パーキングアシストリアビューカメラが COMAND ディスプレイに自動的に表示される機能を設定できます。

詳しくは（▷213 ページ）をご覧ください。

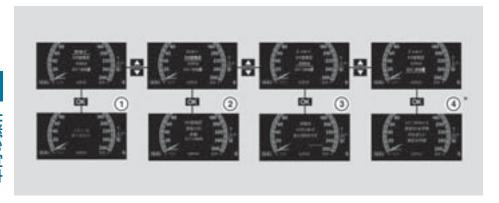
パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定画面

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイドを設定できます。

詳しくは（▷213 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスメニュー

故障の有無やメーカー指定点検整備時期などの車両の状態を確認できます。

①	故障表示画面
②	タイヤ空気圧警告システム画面
③	メンテナンスインジケーター画面
④	エンジンオイル量点検画面 *

故障表示画面

車両に故障や異常が発生したとき、車の状況がメッセージで表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷300 ページ）をご覧ください。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

マルチファンクションディスプレイに "0 ﾒｯｾｰｼﾞ " と表示されているときは、故障や異常はありません。

i マルチファンクションディスプレイに "0 ﾒｯｾｰｼﾞ " と表示されているときに OK を押すと、" ﾒｯｾｰｼﾞ はありません " と表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

自動表示機能

イグニッション位置が **2** のときやエンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージ画面が自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージ画面が約 5 秒間隔で順番に表示されます。

メッセージを消すときは、ステアリングスイッチの OK または ↩ を押して、故障 / 警告メッセージ画面を順番に表示させます。すべて表示されると、故障 / 警告メッセージは消えます。

故障 / 警告メッセージ画面を手動で表示させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

故障件数が数字で表示されます。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、故障 / 警告メッセージ画面を順番に表示させます。故障表示画面に戻すときは、ステアリングスイッチの ↩ を押します。

ℹ イグニッション位置を **0** にして、次にイグニッション位置を **1** か **2** にすると、故障メモリに記憶された故障 / 警告メッセージは消去されます。

タイヤ空気圧警告システム画面

タイヤ空気圧警告システムを再起動できます。

詳しくは（▷275 ページ）をご覧ください。

メンテナンスインジケーター画面

次回のメーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

詳しくは（▷286 ページ）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンオイル量点検画面 *

エンジンオイルの量を点検し、表示します。

詳しくは（▷264 ページ）をご覧ください。

設定メニュー

車の使用状況に合わせて車両の設定を変更できます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードを設定できます。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" 設定 " を選択します。

▶ " ﾃﾞｲﾀｲﾑﾗｲﾄ " を選択します。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	内容
ｵﾌ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードを選択してください。
ｵﾝ	常時点灯モードです。 エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

! 設定が常時点灯モードのときは、安全のためエンジンがかかっているときに設定を変更することはできません。このときはマルチファンクションディスプレイに " エンジンオフ時のみ " と表示されます。

i 常時点灯モードは、走行中の昼間点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

i 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

インテリジェントライトシステム設定画面

インテリジェントライトシステムの設定ができます。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"設定" を選択します。

▶ ▼ を押して、"ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄ" を選択します。

▶ OK を押します。

画面に "ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄ ｼｽﾃﾑ" と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	内容
ｵﾌ	インテリジェントライトシステムが作動します。
ｵﾝ	インテリジェントライトシステムは作動しません。

詳しくは（▷126 ページ）をご覧ください。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

クルーズコントロール / ディストロニック * / 可変スピードリミッター

走行速度を制御する機能です。

ホールド機能

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、停車した状態を維持できます。

ABC

サスペンションを調整して、走行安定性を高めます。

パークトロニック

車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

パーキングアシストリアビューカメラ

車両後方の映像を COMAND ディスプレイに表示し、ガイドラインや音声案内で後退操作を補助します。

ナイトビューアシスト

夜間走行時の視認性を向上します。

ABS、BAS、アダプティブブレーキランプ、ESP、EBV、アダプティブブレーキについては、走行安全装備（▷46 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約 30km/h 以上です。

⚠ **事故のおそれがあります**

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ **事故のおそれがあります**

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
- 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
- 降雨時や雪道、凍結路などの滑りやすい路面
- 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷305 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では、速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

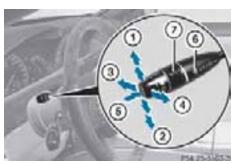
! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

可変スピードリミッター（▷194 ページ）と同じレバーを使用します。

左ハンドル車
① ～ ⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯
⑦ ダイヤル

ⓘ 車種や仕様により、レバーにダイヤル⑦が装備されますが、機能しません。

レバーの表示灯 ⑥ が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯 ⑥ が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ⑥ が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯 ⑥ が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを ① か ② の方向に操作します。

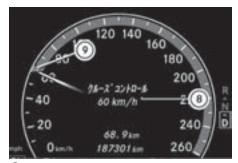
そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ④ の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⑧ 設定速度
⑨ クルーズコントロールインジケーター

スピードメーターの設定速度部分にクルーズコントロールインジケーター ⑨ が表示され、設定速度より上の速度部分が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ " と設定速度 ⑧ が数秒間表示されます。

ℹ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度で走行を再開します。

ℹ 以下のときは、クルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに数秒間 " クルーズコントロール " と表示され、"---km/h" が点滅します。

- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキを効かせているとき
- シフトポジションが **D** 以外のとき
- マルチファンクションディスプレイで ESP の機能を解除しているとき
- 走行速度が約 30km/h 以下のとき

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを ① の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

ℹ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを ② の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

ℹ レバーを ② の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを ③ の方向に軽く押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを ⑤ の方向に押したとき

  レバーの表示灯 ⑥ が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールの設定を解除すると、クルーズコントロールインジケーター ⑨ が消灯し、スピードメーターのすべての速度部分が点灯します。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ クルーズコントロールは以下のとき自動的に解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- ESP が作動したとき
- マルチファンクションディスプレイで ESP の機能を解除したとき

このとき警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙｵﾌ " と数秒間表示されます。

また、パーキングブレーキスイッチでブレーキを効かせたときも自動的に解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

クルーズコントロールはシフトポジションを **N** にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを **N** にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ディストロニック *

ディストロニックは、設定した速度を自動的に維持して走行するクルーズコントロール機能に、センサーによる車間距離感知機能と車間距離警報、自動ブレーキ機能を組み合わせたシステムです。

先行車がいるときは、設定した車間距離を維持するように、速度を調整しながら走行します。

設定できる速度は約 30km/h から約 200km/h の間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ⓘ 前方に車両がいないときは、ディストロニックはクルーズコントロール（▷180 ページ）と同じ働きをします。

⚠ 事故のおそれがあります

ディストロニックは先行車への追突を回避するような自動操縦システムではありません。

⚠ 事故のおそれがあります

ディストロニックは、歩行者や停車中の車、対向車や道路を横切る車などには反応しません。

⚠ 事故のおそれがあります

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、ディストロニック使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ディストロニックによるブレーキは最大制動力の約 20%程度のため、運転者はこのシステムだけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のような場合はディストロニックを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 急な下り坂､急カーブ､曲がりくねった道路を走行する場合
- ETC ゲートを通過する場合
- 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路を走行する場合
- 濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面を走行する場合
- 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

⚠ 事故のおそれがあります

みぞれやひょうなどの悪天候下ではディストロニックを使用しないでください。先行車との車間距離を正確に計測できず、事故を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ディストロニックは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイにディストロニックに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷302、303 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では、速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

車間ディスプレイ

マルチファンクションディスプレイに車間ディスプレイを表示させると、先行車との距離などを表示できます。

ℹ 車間ディスプレイは、ディストロニックを解除しているときも表示できます。

ℹ 道路や交通の状況により、先行車との距離を正確に表示できないことがあります。

車間ディスプレイを表示させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ ▶ を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから "ｱｼｽﾄ" を選択します。

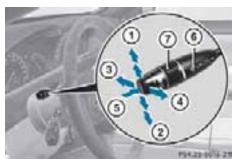
▶ ステアリングスイッチの ▲ ▼ を押して、"車間ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ" を選択して、ステアリングスイッチの OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに車間ディスプレイが表示されます。

ディストロニックを設定していないとき
① 車間距離警告音表示
② 先行車（先行車を感知した場合）
③ 先行車と自車とのおよその車間距離
④ 先行車と自車との設定した車間距離
⑤ 自車

ℹ マルチファンクションディスプレイから車間ディスプレイを消去するときは、ステアリングスイッチの ◀ ▶ を押して、他のメインメニューを選択します。

ディストロニックの使いかた

可変スピードリミッター（▷194 ページ）と同じレバーを使用します。

左ハンドル車
① ～ ⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯
⑦ 車間距離設定ダイヤル

レバーの表示灯 ⑥ が消灯しているときに、ディストロニックを操作できます。

レバーの表示灯 ⑥ が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ⑥ が消灯し、ディストロニックを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックを設定する

▶ レバーの表示灯 ⑥ が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したときに、レバーを ① か ② の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ④ の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

⚠ 事故のおそれがあります

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

先行車がいるときは、設定した車間距離（▷190 ページ）を維持するように、速度を調整しながら走行します。

スピードメーターの設定速度部分にディストロニックインジケーター ⑧ が表示されます。

⑧ ディストロニックインジケーター

また、マルチファンクションディスプレイに " ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ " と設定速度が数秒間表示されます。

マルチファンクションディスプレイに車間ディスプレイを表示していないときは、車間ディスプレイが数秒間表示されます。

ℹ ディストロニックは以下のときにには設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに数秒間 " ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ " と表示され、"---km/h" が点滅します。

- 走行速度が約 30km/h 以下、または約 200km/h 以上のとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- マルチファンクションディスプレイで ESP の機能を解除しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- シフトポジションが **P**、**N**、**R** のとき
- パーキングブレーキを効かせているとき

また、エンジンを始動してから約 2 分間経過していないときは、設定できないことがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ① の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ② の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ② の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

i レバーを ② の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いたり、足元に物を置かないでください。足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げて事故を起こすおそれがあります。

! 設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度と車間距離に到達するために車が加速します。

i 速度が設定されたときは、スピードメーターの設定速度部分にディストロニックインジケーター ⑧ が表示されます。

また、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ" と設定速度が数秒間表示されます。

マルチファンクションディスプレイに車間ディスプレイを表示していないときは、車間ディスプレイが数秒間表示されます。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

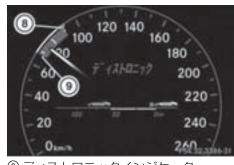
アクセルペダルから足を放すと、設定速度に戻ります。

ℹ ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ制御待機中 " と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

先行車を感知したとき

前方を走行している車を感知すると、マルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイに先行車の表示が現れ、自車の走行速度より遅い速度で走行しているときは、車間距離が詰まるにつれ、先行車の表示が左から右へ移動します。

速度に応じた設定車間距離に達すると、ディストロニックで先行車に追従走行します。

また、スピードメーターのディストロニックインジケーター ⑧ と先行車の走行速度 ⑨ の間の速度部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ " と表示されます。

⑧ ディストロニックインジケーター
⑨ 先行車の走行速度

ディストロニックを解除する

▶ レバーを ③ の方向に軽く押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを ⑤ の方向（▷186 ページ）に押したとき

  レバーの表示灯 ⑥ が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックが解除されると、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｵﾌ " と数秒間表示されます。また、ディストロニックインジケーターが消灯します。

ℹ ディストロニックを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された設定速度は消去されます。

ℹ ディストロニックは以下のときに自動的に解除されます。

- 走行速度が約 25km/h 以下になったとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- ESP が作動したとき
- マルチファンクションディスプレイで ESP を解除したとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｵﾌ" と数秒間表示されます。

また、パーキングブレーキスイッチでブレーキを効かせたときも自動的に解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

以下のようなときはディストロニックを解除してください。

- 自車の設定速度よりも低い速度で走行している先行車への追従走行から、車線を変更するとき
- 合流車線や分岐車線を走行するとき

これらの場合にディストロニックを作動させていると、設定した速度まで自動的に加速・減速を行ない、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

ディストロニックはシフトポジションを **N** にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを **N** にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

車間距離の設定

車間距離を設定する

走行しているとき、先行車との車間距離を 1 秒から 2 秒の範囲で設定できます。

車間距離の 1 秒間とは、ある速度のとき 1 秒間で走行する距離のことで、約 100km/h で走行しているときの 1 秒の車間距離は約 28m になります。

マルチファンクションディスプレイにディストロニック画面が表示されたときは、設定した車間距離も表示されます。

左ハンドル車
⑦ 車間距離設定ダイヤル
⑩ 車間距離を短くする
⑪ 車間距離を長くする

車間距離を短くする

▶ ダイヤル ⑦ を ⑩ の方向にまわします。

車間距離を長くする

▶ ダイヤル ⑦ を ⑪ の方向にまわします。

走行速度と車間距離の関係

走行速度（km/h）	設定できる車間距離（m）
40	11 ～ 22
60	17 ～ 33
80	22 ～ 44
100	28 ～ 56

※ 車間距離はおよその距離です。

! 走行中は、十分な車間距離を保って運転してください。

車間距離の警告

先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告が行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

事故のおそれがあります

- 走行中に車間距離警告が行なわれたときは、大幅な減速が必要になります。必ずブレーキペダルを踏んで減速してください。ブレーキペダルを踏まないと、先行車や前方の障害物に衝突するおそれがあります。
- 車間距離警告が頻繁に行なわれるようなときは、ディストロニックを使用しないでください。
- 周囲の状況によっては、先行車がいても車間距離警告が行なわれなかったり、先行車がいないときに車間距離警告が行なわれることがあります。運転者は車間距離警告だけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

i 道路幅の狭い道やカーブなどを走行しているときは、車道脇に設置された静止物やガードレールのリフレクターなどを感知して、警告が行なわれることがあります。

i ディストロニックが自動的にブレーキを効かせたときは、ブレーキランプも点灯します。

車間距離警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は、先行車に近付きすぎたときや他車が割り込んできたとき、または前方に静止している障害物があるときなど、先行車との車間距離が短くなり、大幅な減速が必要なときに点灯します。

また、車間距離警告音を設定しているときは警告音も鳴り、運転者にブレーキ操作を促します。

車間距離警告音の設定

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ ▶ を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから "ｱｼｽﾄ" を選択します。

▶ ステアリングスイッチの ▲ ▼ を押して、"*車間警報装置*" を選択して、ステアリングスイッチの OK を押します。

⑫ 車間距離警告音表示

▶ ステアリングスイッチの OK を押すたびに、"*ｵﾝ*" と "*ｵﾌ*" が切り替わります。

表示	内容
ｵﾝ	マルチファンクションディスプレイに車間距離警告音表示 ⑫ が点灯します。 先行車に近付くと、車間距離警告音が鳴ります。
ｵﾌ	先行車に近付いても、車間距離警告音は鳴りません。

ℹ ディストロニックを解除しているときでも、先行車との車間距離の測定は引き続き行なわれ、先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告を行ないます。

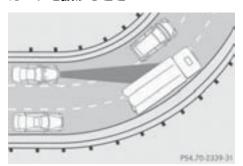
ただし、車間距離警告音を解除しているときは警告音は鳴りません。

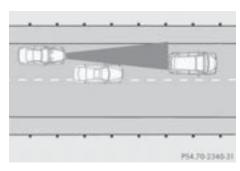
ℹ 道路や交通の状況により、ディストロニックが先行車との距離を正確に認識できない場合があります。

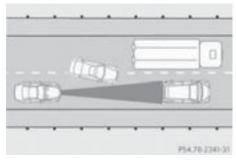
ディストロニックを使用して走行するときの注意

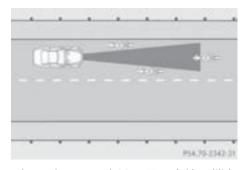
ディストロニックを使用するときに、特に注意が必要な道路と交通の状況を、以下に記載しています。

このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニックが先行車を感知できなかったり、感知が早すぎることがあります。その結果、車が加速したり、ブレーキを効かせることがあります。

異なるライン上を走行しているとき

ディストロニックは、同一車線でも異なるライン上を走行している先行車を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

先行車との間に割り込みがあったとき

前方に割り込んできた車がディストロニックの感知範囲内に入らないことがあります。その結果、割り込んできた車に接近しすぎることがあります。

先行車の横幅が狭いとき

ディストロニックは、同一車線の端を走行している横幅の狭い先行車（オートバイなど）を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏んでいても、設定した速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は30km/hから210km/hまたは250km/hの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度では走行できません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 車種や仕様により設定できる制限速度が異なる場合があります。

⚠ 事故のおそれがあります

走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。

⚠ 事故のおそれがあります

可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷303、305ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

クルーズコントロール（▷180 ページ）と同じレバーを使用します。

左ハンドル車
① ～ ⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯
⑦ ダイヤル

ℹ ディストロニック非装備車のレバーにダイヤル⑦が装備されることがありますが、機能しません。

レバーの表示灯 ⑥ が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯 ⑥ が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ⑥ が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーの表示灯 ⑥ が点灯していることを確認します。

消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ レバーを ① または ② の方向に操作します。

- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 速度が記憶されていないときで、走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている設定速度が走行速度より低いときは、記憶されている設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

スピードメーターの設定速度部分に可変スピードリミッターインジケーター ⑧ が表示され、設定速度より下の速度部分が点灯します。

⑧ 可変スピードリミッターインジケーター
⑨ 設定速度

また、マルチファンクションディスプレイに " 制限速度 " と設定速度 ⑨ が数秒間表示されます。

ℹ キックダウンしているときは、可変スピードリミッターは設定できません。

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ① の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ② の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ② の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ③ の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ⑥ が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを解除すると、可変スピードリミッターインジケーター ⑧ が消灯し、スピードメーターのすべての速度部分が点灯します。

ⓘ 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ⓘ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

ホールド機能

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面で、停車した状態を維持できます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、停車した状態を維持できません。ホールド機能を使用しないでください。
- ホールド機能使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを効かせ、シフトポジションを **P** にしてください。
- ホールド機能はパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- ホールド機能が作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がペダルなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。
- ホールド機能は、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

! ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引などで車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

ホールド機能を作動させる

▶ 以下のときに、ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

- シフトポジションが D 、N 、R のいずれかのとき
- エンジンがかかっていて停車しているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

メーターパネルに HOLD が表示されます。

メーターパネルに HOLD が表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動して、ブレーキペダルから足を放しても車は停止したままになります。

! 以下のときはホールド機能を作動させることはできません。

- ボンネットのロックが解除されているとき
- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開いているとき
- トランクが開いていて、シフトポジションが R のとき

i ホールド機能が作動しているときは、ブレーキペダルが引き込まれたままになります。

ホールド機能を解除する

以下のいずれかの操作をすると、ホールド機能は解除され、メーターパネルの HOLD が消灯します。

- シフトポジションが D または R で、アクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキを効かせたとき

i ホールド機能を作動させたままにすると、ブレーキシステムへの負荷を軽減するために、自動的にホールド機能が解除され、パーキングブレーキが効きます。

i ホールド機能が解除されると、ブレーキペダルが手前に戻ります。

! パーキングブレーキを効かせてホールド機能を解除したときは、シフトポジションを P にして確実に停車してください。

! シフトポジションを P にしてホールド機能を解除したときは、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

! ホールド機能は、以下のいずれかの操作を行なったときも解除されます。

- ボンネットのロックを解除したとき
- シフトポジションが R にのときは、トランクを開いたとき

これらのときは自動的にパーキングブレーキが効きますが、シフトポジションを P にして確実に停車してください。

- エンジンを停止したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき

これらのときは自動的にパーキングブレーキが効き、シフトポジションが P になります。

! ホールド機能を解除したときは、車の動きに十分注意してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

以下のときは、ホールド機能が解除され、車が動きだすおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- エンジンを停止したとき
- システムまたは電力供給に異常 (バッテリーあがりなど) があるとき
- バッテリーの接続が断たれたとき
- エンジンルームの電気システムやヒューズなどが変更されたとき

ABC

ABC（アクティブ･ボディ･コントロール）は、走行速度や路面状況、運転スタイルなどに応じてサスペンションを自動的に制御し、走行安定性を高める装置です。

車高の自動調整

車高は走行速度に応じて自動的に調整されます。

走行速度が上がると、車高が最大約 10mm 下がり、走行安定性の向上と燃料消費の軽減を図ります。

走行速度が下がると、標準の車高に戻ります。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンを停止すると車高が自動的に下がることがあります。

エンジンを停止するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいたり物がないことを確認してください。身体や物が挟まれるおそれがあります。また、車体の下方に十分な空間があることを確認してください。

! 駐車するときに車の下や周りに縁石や突起物などがないことを確認してください。エンジンを停止して車高が下がったときに接触し、車を損傷するおそれがあります。

車高の手動調整

悪路を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときは、車高を上げることができます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

左ハンドル車
① 車高調整スイッチ
② 表示灯

車高を上げる

▶ 車高調整スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

標準より高い車高になります。

車高を元に戻す

▶ 再度、車高調整スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

標準の車高レベルに戻ります。

⚠ けがのおそれがあります

車高調整スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

! 安全のため、車高の調整は停車中に行なってください。

! 連続して車高の調整を行なわないでください。ポンプの保護機能により、作動が停止することがあります。

i エンジンを停止しても、選択した車高レベルは記憶されます。

i エンジンルーム内の温度が極端に上がると、車高が自動的に上下することがありますが、走行を開始すると、車高は正常に戻ります。

サスペンションの自動制御

ABC は、以下のような状況に応じて各輪ごとにサスペンションを自動的に制御し、走行安定性や快適性を高めます。

- 運転者の運転スタイル
- 路面の凹凸などの状況
- 乗車人数や積載荷物の量

サスペンションモードの手動選択

サスペンションの特性を、スポーツモードとコンフォートモードに切り替えることができます。

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ℹ エンジンを停止しても、設定したモードは記憶されます。

スポーツモードにする

スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、ステアリング操作時の路面追従性が向上します。カーブが連続する道路などを走行するときに、スポーツモードにしてください。

▶ エンジンがかかっているときに、サスペンションモード選択スイッチ ① を押して、スイッチの表示灯 ② を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイに数秒間 "ABC Active Body Control SPORT" と表示されます。

※ 車種や仕様により、"AIRMATIC SPORT" と表示されることがあります。

コンフォートモードにする

コンフォートモードでは、快適性を重視したサスペンション制御になります。直線の多い道路や高速道路を走行するとき、より快適性を向上させたいときに、コンフォートモードにしてください。

▶ エンジンがかかっているときに、サスペンションモード選択スイッチ ① を押して、スイッチの表示灯 ② を消灯させます。

マルチファンクションディスプレイに数秒間 "ABC Active Body Control COMFORT" と表示されます。

※ 車種や仕様により、"AIRMATIC COMFORT" と表示されることがあります。

パークトロニック

パークトロニックは、フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

⚠ **事故のおそれがあります**

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

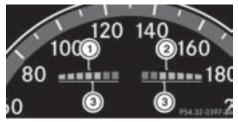
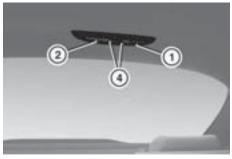
① フロントセンサー

② リアセンサー

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは正しく作動しないことがあります。このときは赤色インジケーターが点灯します。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃（▷292 ページ）をしてください。

インジケーター / 作動表示灯

フロントのインジケーターはメーターパネル内に、リアのインジケーターはルーフ後方にあります。

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
④ 作動表示灯

フロント、リアともに右側インジケーター ② は車の右側を、左側インジケーター ① は車の左側を感知した状況を表示します。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチ（▷205 ページ）の表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に、リアの作動表示灯とすべてのインジケーターが一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** のとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯 ③ が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯 ③④ が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

ⓘ パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。

ⓘ パークトロニックは、速度が約 18km/h 以下のときに作動します。速度が約 18km/h 以上になると作動を停止します。

ⓘ エンジンがかかっていないときやシフトポジションが N のときは、パーキングブレーキが効いているとパークトロニックは作動しません。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲（▷204 ページ）に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

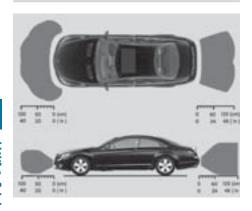
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーター 5 つに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側

	センサー感知範囲
センター部	約 100cm ～ 20cm
コーナー部	約 60cm ～ 20cm

リアバンパー側

	センサー感知範囲
センター部	約 120cm ～ 20cm
コーナー部	約 80cm ～ 20cm

! バンパーから約 20cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

パークトロニックの機能を解除できます。

左ハンドル車
① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のとき、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

! システムが故障するとパークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯し、警告音が鳴って機能が解除されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i パークトロニックオフスイッチで機能を解除しても、次にイグニッション位置を **2** にしたとき、パークトロニックは自動的に作動します。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ けがのおそれがあります

後退操作を行なうときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。絶対に COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。
- システムの特性上、COMAND ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。
- リアバンパーの至近距離や下方にある物は映し出されないため、運転者は COMAND ディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のときは、パーキングアシストリアビューカメラが正常に作動しなかったり、機能が制限されるおそれがあります。

- トランクが完全に閉じていないとき
- 激しい雨や雪が降っているとき、霧のとき
- カメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
- 夜間や暗い場所にいるとき
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入ったときやカメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき（ガレージから出し入れするときなど）
- カメラが曇ったり、水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラに泥や汚れが付着したとき
- カメラやカメラの周囲に損傷があるとき
- 車の後部を損傷したときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの点検および調整を行なってください。

上記のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラを使用して後退操作を行なわないでください。人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすおそれがあります。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 乗員人数や荷物の積載量が多く車両が沈み込んだり傾いたりしている場合は、画面に表示されているガイドラインに誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! トランクを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦または直線でない道路

! 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。

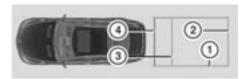
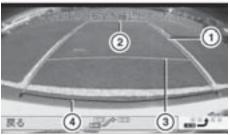
! カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。

! ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

カメラ ① はトランクハンドルの横に装備されています。

① カメラ

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車の映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

i トランクが開いているときにシフトポジションを R にしたときや、パーキングアシストリアビューカメラが作動しているときにトランクを開いたときは、パーキングアシストリアビューカメラは作動しません。このときは COMAND ディスプレイに " トランクが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

ⓘ シフトポジションを R から D にしたときは、数秒間パーキングアシストリアビューカメラの映像が COMAND ディスプレイに表示されます。

ⓘ 後退駐車または縦列駐車をしているときに、COMAND システムの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、障害物が 0.25m ガイドライン ④ を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン ④ まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

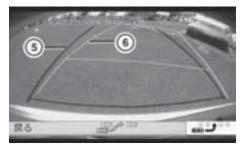
! 路面に接していない障害物や上方の空間にある障害物はガイドライン内になくても接触する可能性があります。十分に注意してください。

後退駐車モード

駐車場の駐車スペースに後退するときなどに補助をするモードです。

ステアリングをまわしていないとき
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

0.25m④、1.0m③、4.0m② の ガ イ ドラインは、それぞれ車の後端からのおよその距離を示します。

予想進路ガイドライン ① は、車が後退するときの予想進路を示します。

ステアリングをまわしているとき
⑤ 直進ガイドライン（青色）
⑥ 予想進路ガイドライン（黄色）

直進ガイドライン ⑤ は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン ⑥ は、そのときのステアリングの角度で車が後退するときの予想進路を示します。

後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

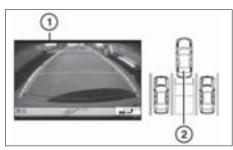
COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

▶ が表示されていないときは、 を選択して ◎ ・ ◎→、コントローラーを押します。

後退駐車時のガイドラインが表示されます。

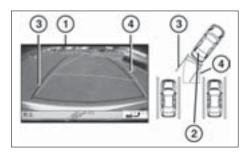
i " 戻る " を選択して ◎ ・ ←◎、コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① COMAND ディスプレイの表示例
② ① が表示されているときの自車位置

▶ 周囲に注意しながら、まっすぐ後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら、後退駐車する

① COMAND ディスプレイの表示例
② ① が表示されているときの自車位置
③ 直進ガイドライン（青色）
④ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ 予想進路ガイドライン ④ が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

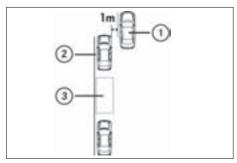
▶ 直進ガイドライン ③ が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン ④ の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両 ② から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両 ② の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

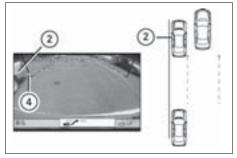
ステアリングは直進状態にします。

i 駐車スペース ③ の前方に駐車車両 ② がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ シフトポジションを R にします。

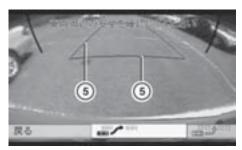
▶ [アイコン] が表示されていないときは、[アイコン] を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します ◎。

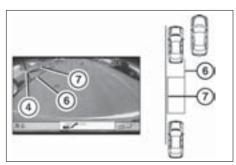
COMAND ディスプレイに後方の映像と、縦列駐車時のガイドラインが表示されます。

i " 戻る " を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押すと ◎、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

② 駐車スペース前方の駐車車両
④ 垂直ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン ④ が、駐車スペース前方の駐車車両 ② の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン ④ が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン ④ が駐車車両 ② の後端から外れていると、正しい位置に駐車できません。

⑤ 駐車位置ガイドライン

停車すると、数秒後に駐車位置ガイドライン ⑤ が表示されます。

④ 垂直ガイドライン
⑥ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑦ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥ が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑥ が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ 内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは **" ガイドできませんステアリングを戻してください "** と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン ④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ が消えます。

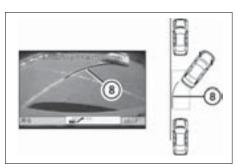
ℹ 周囲の安全を確認しながら、ゆっくり後退してください。

i 以下のときはガイドが中止されます。

- シフトポジションを R 以外の位置にしたとき
- " **戻る** "、または を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、COMAND ディスプレイに " **ガイドできません** " または " **ガイドできませんステアリングがずれました** " と表示されます。

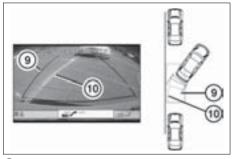
! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑧ ステアリング角度ガイドライン

ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン ⑧ が表示されます。

▶ 縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン ⑧ が合うまでステアリングをまわさないで、そのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン ⑧ が正しい位置に合ったら、停車します。

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン ⑨ と予想進路ガイドライン ⑩ が表示されます。

⑨ 直進ガイドライン（青色）
⑩ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ 予想進路ガイドライン ⑩ が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ ▶ を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " アシスト " を選択します。

▶ ステアリングスイッチの OK を押します。

ステアリングスイッチの ▲ ▼ を押して、"リアビューカメラ" を選択して、ステアリングスイッチの OK を押します。

▶ ステアリングスイッチの OK を押すたびに、"*R シフト時自動起動* " と " *オフ* " が切り替わります。

表示	作動内容
R シフト時自動起動	シフトポジションを **R** にすると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が自動的に表示されます。
オフ	パーキングアシストリアビューカメラの映像は表示されません。

ℹ 工場出荷時は "*R シフト時自動起動* " に設定されています。

ℹ イグニッション位置を **0** にしても、設定内容は記憶されています。

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイドをオフにできます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ ▶ を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " アシスト " を選択します。

▶ ステアリングスイッチの OK を押します。

ステアリングスイッチの ▲ ▼ を押して、"リアビューカメラ" を選択して、ステアリングスイッチの OK を押します。

▶ ステアリングスイッチの ▼ を押して、"ﾘｱﾋﾞｭｰｶﾒﾗ ﾎﾞｲｽｶﾞｲﾀﾞﾝｽ" を選択します。

▶ ステアリングスイッチの OK を押すたびに、"ｵﾝ" と "ｵﾌ" が切り替わります。

表示	作動内容
ｵﾝ	音声ガイドが行なわれます。
ｵﾌ	音声ガイドは行なわれません。

ⓘ パーキングアシストリアビューカメラの起動設定をオフにしているときは、音声ガイドの設定はできません。

ⓘ 音声ガイドの音量は、ステアリングスイッチの ＋ －、またはファンクションスイッチの音量調整ダイヤル（▷61 ページ）で調整できます。

ナイトビューアシスト

ナイトビューアシストは、赤外線照射ランプ（▷339 ページ）から照射された赤外線の反射光をナイトビューアシストカメラが映像化して、マルチファンクションディスプレイに映し出すシステムです。

対向車のランプの眩惑などの影響を受けにくいため、道路状況や障害物、前方の歩行者などを確認して走行できます。

⚠ 事故のおそれがあります

ナイトビューアシストは、夜間の運転操作を補助するシステムです。ナイトビューアシスト使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

運転中は常に周囲の交通状況に注意し、ナイトビューアシストの映像のみを見て運転しないでください。

⚠ 事故のおそれがあります

ナイトビューアシストは、夜間にカーブの少ない道路を走行するときに使用することを想定したものです。坂道や急カーブ、曲がりくねった道路ではナイトビューアシストを使用しないでください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ナイトビューアシストの作動時は、目に見えない強い光線がヘッドランプから照射されます。停車時にはこの光線は照射されませんが、安全のため、ヘッドランプをのぞき込まないでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

以下のような状況下では、ナイトビューアシストの映像が不鮮明になる場合があります。注意して運転してください。

- エンジン始動直後
- 降雨時や降雪時、濃霧時などの悪天候のとき
- フロントウインドウや赤外線照射ランプ周辺のヘッドランプが曇っていたり、氷や雪、泥や汚れなどが付着しているとき
- バッテリー電圧が低下しているとき

! ナイトビューアシストの画像の全部または一部が、暗くなったり、不鮮明になる場合があります。運転するときは、周囲の状況を直接確認してください。

! 車の周囲にある人や物はナイトビューアシストの映像に映りません。運転するときは、周囲の状況を直接確認してください。

! ナイトビューアシストの作動時は、必要以上にメーターパネルを明るくしないでください。周囲の状況が見えにくくなる場合があります。

! 急なカーブや坂道では、映像を表示できない場合があります。

! 看板の文字や道路案内板の情報などは、映像に映りにくい場合があります。

! 街灯などの光で明るいところでは、映像が眩しく映る場合があります。

! 天候や道路の状況により、映像の見え方が変化することがあります。

i 赤外線は人の目には見えないため、対向車を眩惑することはありません。

ナイトビューアシストカメラの位置

① ナイトビューアシストカメラ

ナイトビューアシストカメラ ① はフロントウインドウ上部にあります。

ナイトビューアシストの作動

左ハンドル車
① ナイトビューアシストスイッチ

※ 右ハンドル車のナイトビューアシストスイッチは、ランプスイッチの右側にあります。

ナイトビューアシストを作動させる

▶ ナイトビューアシストスイッチ ① を上または下に操作します。

ナイトビューアシストは、以下の条件がすべて満たされたときに作動します。

- 周囲が暗いとき
- イグニッション位置が **2** のとき
- ランプスイッチが **A** または **ヘッドランプ** でヘッドランプが点灯しているとき
- シフトポジションが **R** 以外のとき

! 赤外線は走行速度が約 10km/h 以上になると照射されます。走行速度が約 10km/h 以下のときも画像は表示されますが、赤外線が照射されているときの画像に比べると暗くなります。

ナイトビューアシストを停止する

▶ 再度、ナイトビューアシストスイッチ ① を上または下に操作します。

ⓘ 周囲が明るいときにナイトビューアシストスイッチを操作すると、マルチファンクションディスプレイに " ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 使用は暗い場合 のみ " と表示されます。

ⓘ 周囲が暗く、ヘッドランプが点灯していないときにナイトビューアシストスイッチを操作すると、マルチファンクションディスプレイに " ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ ﾗｲﾄ 確実に点灯 " と表示されます。

ⓘ シフトポジションが **R** のときにナイトビューアシストスイッチを操作すると、マルチファンクションディスプレイに " ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ R ﾚﾝｼﾞ 以外にｼﾌﾄ " と表示されます。

ナイトビューアシストの映像

① ナイトビューアシストの映像
② スピードメーター

ナイトビューアシストを作動させると、マルチファンクションディスプレイに映像が表示されます。

マルチファンクションディスプレイ下部には、スピードメーター ② が表示されます。

ナイトビューアシストを作動させているときは、マルチファンクションディスプレイの表示を見ることはできません。

ただし、シフトポジション表示や一部の警告灯などは表示されます。

ナイトビューアシストを作動しているときにメーターパネルの明るさを調整すると、ナイトビューアシストの映像の明るさが調整されます。

フロントウインドウの曇りや汚れ

ナイトビューアシストカメラ前方のフロントウインドウの内側または外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストの映像が不鮮明になります。

フロントウインドウの曇りを取る

▶ エアコンディショナーの設定を確認し、カメラのカバーを開きます。

フロントウインドウ内側の汚れを取る

▶ カメラのカバーを開いて、フロントウインドウを清掃します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ 事故のおそれがあります

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとスライディングルーフを開くことができます（▷140 ページ）。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

i ウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

コントロールパネルでの操作

エアコンディショナーの基本的な操作は、センターコンソールのコントロールパネルで行ないます。

さらに詳細な設定は、COMAND システムで行ないます。

①	AUTO スイッチ（左側）
②	送風温度調整スイッチ（左側）
③	送風量調整スイッチ（左側）
④	デフロスタースイッチ
⑤	内気循環スイッチ
⑥	オフスイッチ
⑦	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑧	リアデフォッガースイッチ
⑨	送風量調整スイッチ（右側）
⑩	送風温度調整スイッチ（右側）
⑪	AUTO スイッチ（右側）

COMAND システムでの操作

COMAND システムでは以下の操作を行なうことができます。

- 送風温度の調整（▷221 ページ）
- 送風量の調整（▷222 ページ）
- 送風口の選択（▷224 ページ）
- AC モードの設定 / 解除（▷228 ページ）
- 運転席連動モードの設定 / 解除（▷232 ページ）
- 足元への送風温度の調整（▷233 ページ）
- 送風モードの設定（▷234 ページ）

COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリア

COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリアには、エアコンディショナーの作動状況が表示されています。

ⓐ	送風温度インジケーター（左側）
ⓑ	送風口インジケーター（左側）
ⓒ	送風量インジケーター（左側）
ⓓ	モードインジケーター
ⓔ	送風量インジケーター（右側）
ⓕ	送風口インジケーター（右側）
ⓖ	送風温度インジケーター（右側）

通常の使いかた（AUTO モード）

① AUTO スイッチ（左側）
② 送風温度調整スイッチ（左側）
⑥ オフスイッチ
⑩ 送風温度調整スイッチ（右側）
⑪ AUTO スイッチ（右側）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ ①⑪ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が点灯し、COMAND ディスプレイの送風口インジケーターⓑⓕと送風量インジケーターⓒⓔに **"AUTO"** と表示されます。

または

▶ オフスイッチ ⑥ を上または下に操作するか、COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓの **"off"** を選択して ◎⬇、コントローラーを押します ◎。

エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量や送風口を手動で操作すると、操作した側の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

送風温度の調整

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ 冷却水温度が低いときは、設定した温度の送風が行なわれないことがあります。

ℹ 送風温度の設定を高く、または低くしても、送風量が上がるとは限りません。

コントロールパネルでの操作

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ ②⑩ を上に操作します。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ ②⑩ を下に操作します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときは、設定温度に合わせて、送風口の組み合わせと送風量、送風温度が自動的に調整されます。

ℹ AUTO モードのとき、送風温度調整スイッチで低い温度に設定すると、状況によりモードインジケーターⓓに **"MAX COOL on"** と表示されることがあります。

COMAND システムでの操作

▶ エアコンディショナーエリアで、送風温度インジケーターⓐⓖを選択して【◎】・←◎→、コントローラーを押します ◎。

送風温度調整画面が表示されます。

▶ 送風温度を選択して【◎】・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

送風温度が設定されます。

ⓘ 左側または右側の送風温度を LO または HI に設定すると、もう一方の席側も同様の内容に設定されます。

その後、設定した席側の送風温度を変更すると、もう一方の席側は元の送風温度に戻ります。もう一方の席側の送風温度を変更すると、設定した席側の送風温度が LO のときは 16℃に、HI のときは 28℃になります。

エアコンディショナーの停止

⑥ オフスイッチ

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ⑥ を上または下に操作します。

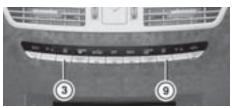
スイッチの表示灯が点灯し、COMAND ディスプレイのモードインジケーターⓓに **"off"** が表示されます。

再度、オフスイッチ ⑥ を上または下に操作すると、スイッチの表示灯が消灯し、停止前の設定で作動します。

ⓘ ウインドウやスライディングルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

コントロールパネルでの操作

③ 送風量調整スイッチ（左側）
⑨ 送風量調整スイッチ（右側）

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ ③⑨ を上に操作します。

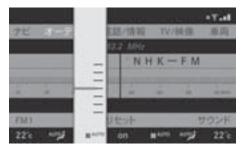
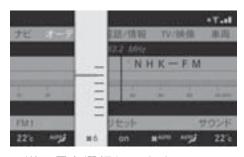
COMAND ディスプレイの送風量インジケーターⓒⓔの数字が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ ③⑨ を下に操作します。

COMAND ディスプレイの送風量インジケーターⓒⓔの数字が減ります。

COMAND システムでの操作

▶ エアコンディショナーエリアで、送風量インジケーターⓒⓔを選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

送風量調整画面が表示されます。

▶ 送風量を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

送風量が設定されます。

ℹ 左側または右側の送風量を 7 に設定すると、もう一方の席側も 7 に設定されます。その後、設定した席側のスイッチで送風量を変更すると、もう一方の席側は元の送風量に戻ります。もう一方の席側のスイッチで送風量を変更すると、設定した席側の送風量は 6 になります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量を手動で調整すると、調整した側の送風量の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。再度、AUTO モードにするときは、AUTO スイッチを操作します。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

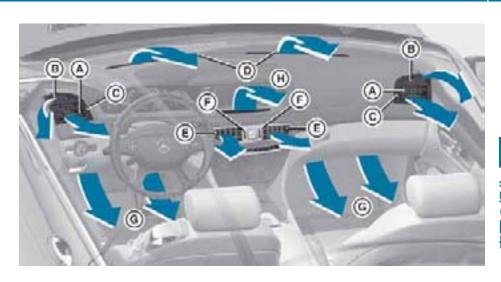
送風口の選択は COMAND システムで行ないます。

送風口を選択する

▶ エアコンディショナーエリアで送風口インジケーターⓑⓕを選択して〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

送風口選択画面が表示されます。

▶ 送風したい送風口の矢印を表示させて〔◎〕、コントローラーを押します ◎。

選択した送風口に設定されます。

送風口インジケーター	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口Ⓓ、サイド送風口Ⓐ、ドアウインドウ送風口Ⓑ
	フロントウインドウ送風口Ⓓ、サイド送風口Ⓐ、ドアウインドウ送風口Ⓑ、中央送風口Ⓔ、中央上部送風口Ⓗ
	中央送風口Ⓔ、中央上部送風口Ⓗ、サイド送風口Ⓐ
	中央送風口Ⓔ、中央上部送風口Ⓗ、サイド送風口Ⓐ、足元送風口Ⓖ
	足元送風口Ⓖ

ⓘ 送風口インジケーターに複数の矢印を表示させると、組み合わせた送風口から送風ができます。

ⓘ 送風口インジケーターの矢印の大きさは、各送風口から送風される割合を表しています。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口を手動で選択すると、送風口の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、AUTO モードにするときは、AUTO スイッチを操作します。

送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓔ、中央上部送風口Ⓗを開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒸⒻを上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒸⒻを下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒸⒻを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ⓘ 中央送風口と中央上部送風口の開閉ダイヤルは共通です。

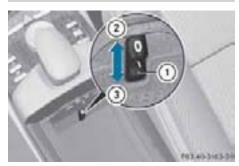
送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓔは風向きを調整できます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、中央送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

前席アームレスト下段の小物入れの送風口

① 送風口開閉ダイヤル
（送風口を閉じた状態）
② 送風口を開く
③ 送風口を閉じる

送風口を開く

▶ ダイヤル ① を矢印 ② の方向にまわします。

送風口を閉じる

▶ ダイヤル ① を矢印 ③ の方向にまわします。

! エアコンディショナーの送風温度を高くしたり、デフロスターモードにするときは、下段の小物入れの送風口を閉じてください。小物入れ内部が高温になり、ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っていると、爆発したり、溶けて変形するおそれがあります。

ⓘ 下段の小物入れの送風量は、エアコンディショナーの送風量や送風口の選択により変化します。

ⓘ 送風温度は中央送風口からの送風温度とほぼ同じです。

グローブボックス送風口

左ハンドル車
① 開閉ダイヤル
② 送風口を開く
③ 送風口を閉じる

グローブボックス内に送風することができます。

グローブボックス送風口を開く

▶ 開閉ダイヤル ① をまわして、送風口を ② の位置にします。

グローブボックス送風口を閉じる

▶ 開閉ダイヤル ① をまわして、送風口を ③ の位置にします。

ℹ 送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

ℹ グローブボックス内には、外気または冷気が送風されます。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス内の送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AC モードの設定 / 解除は COMAND システムで行ないます。

! ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに行なわれます。

環 境

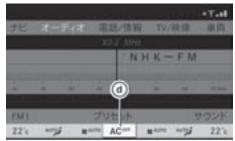
AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

AC モードを設定 / 解除する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで "AC OFF" を選択して 〔◎〕・↑◎、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

AC モードが解除されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

▶ コントローラーを左か右に操作します ←◎→。

AC モードが解除されているときは、モードインジケーターⓓに "AC OFF" と表示されます。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

ⓘ エアコンディショナーの冷媒が減っているときは、除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

デフロスターモード

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

④ デフロスタースイッチ

ℹ フロントウインドウやドアウインドウの内側が曇っているときは、曇りが取れるまでデフロスターモードを解除しないでください。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ ④ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が点灯し、COMAND ディスプレイのモードインジケーターⓓに " 🝖 " が表示されます。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口を中心に送風されます。

ℹ サイド送風口が開いていることを確認してください（▷226 ページ）。

- 内気循環モードに設定していたときは、内気循環モードが解除されます。
- AC モードを解除していたときは、AC モードに設定されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ ④ を上または下に操作します。

または

▶ COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリアに表示されている " 🝖 " を選択して ◎⬇、コントローラーを押します ◎。

スイッチの表示灯とモードインジケーターの " 🝖 " が消灯し、以前の設定に戻ります。

ただし、デフロスターモードにする前に内気循環モードに設定していたときは内気循環モードが解除され、AC モードを解除していたときは AC モードに設定されます。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ウインドウの外側が曇るとき

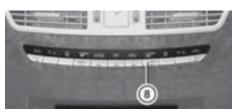
▶ ワイパーを作動させます。

▶ AUTO モードに設定します（▷135 ページ）。

ℹ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

⑧ リアデフォッガースイッチ

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ ⑧ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ ⑧ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、一定の時間が経過すると自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

i 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

i バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

i 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ウインドウやスライディングルーフを自動で開閉できます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 外気温度が低いときや、ウインドウやスライディングルーフが閉じているときは、内気循環モードに設定するとウインドウが曇りやすくなります。内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。

⑤ 内気循環スイッチ

内気循環モードに設定する

▶ 外気導入モードのときに、内気循環スイッチ ⑤ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ ⑤ を 2 秒以上操作し続けると、操作している間、開いているウインドウとスライディングルーフが閉じます。

⚠ **けがのおそれがあります**

内気循環スイッチでウインドウやスライディングルーフを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように自動的に外気導入をはじめます。

外気温度が 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに、内気循環スイッチ ⑤ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ ⑤ を 2 秒以上操作し続けると、操作している間、ウインドウとスライディングルーフが開き、前回開いていた位置になります。

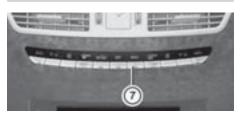
⚠ **けがのおそれがあります**

内気循環スイッチでウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ⓘ 内気循環モードのときに、AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ⓘ 内気循環スイッチで閉じたウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたウインドウやスライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して、前回開いていた位置まで開くことはできません。

ⓘ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

余熱ヒーター・ベンチレーション

⑦ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ

エンジンを停止した後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑦ を上または下に操作します 。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度､余熱ヒーター･ベンチレーションスイッチ ⑦ を上または下に操作します。

スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ℹ 冷却水温度が低いときは、暖気が送風されないことがあります。

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

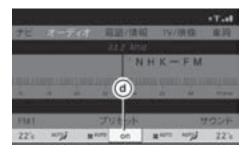
ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

運転席連動モード

助手席のエアコンディショナーの設定を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席の設定も同時に変更されます。

運転席連動モードの設定は COMAND システムで行ないます。

運転席連動モードを設定 / 解除する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して ◎・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで " **運転席連動** " を選択して ⟨◎⟩・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

運転席連動モードが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

ℹ 助手席の設定を変更したときは、運転席連動モードは自動的に解除されます。

足元への送風温度の調整

足元への送風温度を独立して調整できます。

足元暖房の調整は COMAND システムで行ないます。

ℹ 設定温度や送風温度レベルにより、冷風が送風されることもあります。

足元への送風温度を調整する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して ⟨◎⟩・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで " **足元暖房** " を選択して ⟨◎⟩・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

▶ 送風温度レベルを選択して ⟬◎⟭・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

車内の設定温度を基準にして、－ 2 ～＋ 2 まで設定できます。

足元暖房が設定されます。

送風モードの設定

エアコンディショナーを AUTO モードで作動させたときの送風のしかたを以下のように設定できます。

" 集中 "

主に送風されている送風口からの送風がさらに強調されます。

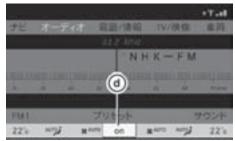
" 標準 "

標準の設定です。

" 拡散 "

主に送風されている送風口以外の送風口からの送風の割合を高めます。

ⓘ 車内が非常に高温になっているときは、選択した送風モードが一時的に解除されることがあります。

送風モードを設定する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して ⟬◎⟭・←◎→、コントローラーを押します ◎。

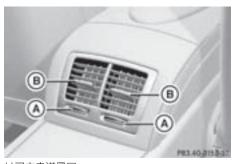
▶ サブメニューで **" 送風調整 "** を選択して ⟬◎⟭・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

現在選択されている送風モードの左側には " • " が表示されています。

▶ 送風モードを選択して ◀◎▶・▲◎▼、コントローラーを押します ◎。

送風モードが設定されます。

リア送風口

リア中央送風口

リア中央送風口

Ⓐ 送風口開閉ダイヤル

Ⓑ 風向調整ノブ

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒶを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 各送風口の風向調整ノブⒷを上下左右に動かします。

ℹ フロントシートの下にリア足元送風口があります。

ℹ リア送風口からの送風温度と送風口選択は、対応する前席左右のエアコンディショナーの設定に連動します。

ℹ フロントの送風口から暖気を送風しているときも、リア中央送風口からは暖気が送風されないことがあります。このときは、必要に応じてリア中央送風口を閉じてください。

スライディングルーフ

⚠ **けがのおそれがあります**

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

! スライディングルーフの開口部から、角の尖ったものを出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

i リモコン操作でスライディングルーフを開くことができます（▷140 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作でスライディングルーフを閉じることができます（▷141 ページ）。

i スライディングルーフが自動で作動しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i PRE-SAFE（▷39 ページ）が作動すると、スライディングルーフはわずかに開いた状態まで自動的に閉じます。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを操作できます。約 5 分以内にドアを開くと、スライディングルーフの操作はできなくなります。

i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i エアコンディショナーの内気循環スイッチ（▷230 ページ）の操作に連動して、スライディングルーフを開閉できます。

スライディングルーフを開閉する

① スライディングルーフスイッチ
② 開く
③ チルトアップ
④ 閉じる / チルトダウン

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディンググルーフを開く

▶ スライディンググルーフスイッチ ① を ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じている場合は連動して開きます。

② の方向にいっぱいまで操作すると、前回開いていた位置まで自動で開きます。

さらに ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スライディンググルーフを閉じる

▶ スライディンググルーフスイッチ ① を ④ の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

④ の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

スライディンググルーフをチルトアップ / チルトダウンする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディンググルーフをチルトアップする

▶ スライディンググルーフスイッチ ① を ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

ⓘ スライディンググルーフが開いているときにスイッチを ③ の方向にいっぱいに操作すると、スライディンググルーフは閉じ、チルトアップした状態になります。

スライディンググルーフをチルトダウンする

▶ スライディンググルーフスイッチ ① を ④ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

④ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

挟み込み防止機能

スライディンググルーフには挟み込み防止機能があります。

スイッチを操作し続けてスライディンググルーフを閉じたりチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、スライディンググルーフはただちに停止して、その位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを操作し続けてスライディンググルーフを閉じたりチルトダウンさせると、スライディンググルーフはより強い力で閉じたりチルトダウンします。

上記の状態でスライディンググルーフが閉じたりチルトダウンしているときに、挟み込みなどの抵抗があると、スライディンググルーフはただちに停止して、その位置から少し開きます。さらに、この状態からただちにスイッチを操作し続けてスライディンググルーフを閉じたりチルトダウンさせると、スライディンググルーフは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じたりチルトダウンします。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じたりチルトダウンさせるときは十分注意してください。

自動でスライディングルーフを閉じたりチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフはただちに停止して、その位置から少し開きます。

! スライディングルーフを閉じたりチルトダウンするときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。

閉じているスライディングルーフが途中で停止したとき

閉じているスライディングルーフが途中で停止したときは、以下の方法でスライディングルーフを閉じます。

▶ スライディングルーフが停止したら、ただちにスイッチを再度④の方向（▷237 ページ）に軽く操作し続けます。

挟み込み防止機能の感度が弱い状態でスライディングルーフが閉じます。

それでも、スライディングルーフが途中で停止する場合は、以下の操作を行なってください。

▶ スライディングルーフが停止したら、ただちにスイッチを再度④の方向（▷237 ページ）に軽く操作し続けます。

挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 挟み込み防止機能の感度が弱い状態や、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは、身体が挟まれないように注意してください。致命的なけがをするおそれがあります。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高いとき、または低いとき
- 約 6 時間経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

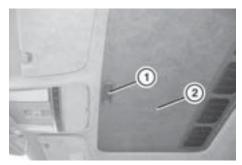
! 自動チルトアップ機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。

! イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。

! スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が働き、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。その後自動チルトアップ機能は解除されます。

! 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じることがあります。

ⓘ レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。

サンシェード

① グリップ
② サンシェード

サンシェードを開閉する

▶ グリップ ① を持って開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

! スライディングルーフが開いているときに、サンシェード ② とルーフ内張りとの間に身体が挟まれないように注意してください。

ⓘ スライディングルーフが開いているときは、サンシェード ② を閉じることはできません。

スライディングルーフのリセット

以下のときは、スライディングルーフが自動で全開しないことがあります。スライディングルーフのリセット作業を行なってください。

- バッテリーの交換や電圧低下などで電源が断たれたとき
- スライディングルーフがスムーズに作動しないとき
- スライディングルーフを修理したとき

スライディングルーフをリセットする

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチを ③ の方向（▷237 ページ）に操作し続けてスライディングルーフを完全にチルトアップさせ、そのまま約 1 秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で全開 / 全閉することを確認します。

スライディングルーフが自動で全開 / 全閉しないときは、再度リセット作業を行なってください。

! スライディングルーフが自動で全開 / 全閉しないときは、必ずリセット作業を行なってください。

スイッチを繰り返し軽く操作してスライディングルーフを全開 / 全閉すると、スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフのリセット作業ができないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

荷物の積み方 / 小物入れ

小物入れ

⚠ **けがのおそれがあります**

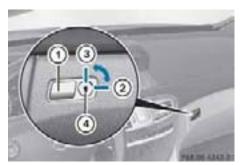
走行中は、小物入れなどのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れなどのカバーが閉じなくなるような物を小物入れに入れないでください。小物入れのカバーや収納物が損傷するおそれがあります。

! 小物入れなどには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車
① ボタン
② 施錠
③ 解錠
④ キーシリンダー

グローブボックスを開く

▶ ボタン ① を押します。

グローブボックスを閉じる

▶ カバーを押してロックします。

ℹ グローブボックス内部に ETC 車載器を装備しています。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

グローブボックスを施錠する

▶ キーシリンダー ④ にエマージェンシーキーを差し込んで、水平位置 ② にまわします。

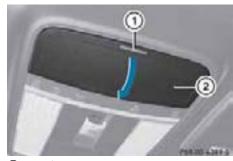
確実に施錠されていることを確認します。

グローブボックスを解錠する

▶ エマージェンシーキーをまわして垂直位置 ③ にします。

! 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

ℹ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

サングラスケース

① マーク
② カバー

サングラスケースのカバーを開く

▶ マーク ① を押します。

カバー ② が開きます。

! 走行中はカバーを閉じてください

前席アームレストの小物入れ

① ボタン（上段用）
② 開く方向（上段）
③ ボタン（下段用）
④ 開く方向（下段）

前席アームレスト上段の小物入れのカバーを開く

▶ ボタン ① を押して、カバーを右または左の方向 ② に開きます。

前席アームレスト下段の小物入れを開く

▶ ボタン ③ を押して、アームレスト全体を ④ の方向に引き上げます。

ℹ 前席アームレスト下段の小物入れを開くと、内部の照明が点灯します。

携帯電話の接続

前席アームレスト上段の小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信などができます。

電話の操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

! 携帯電話をコネクターに無理に取り付けないでください。携帯電話やコネクターを損傷するおそれがあります。

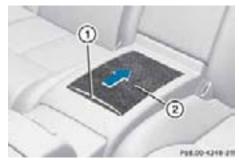
後席アームレストの小物入れ

① レバー
② カバー

小物入れのカバーを開く

▶ レバー ① を引いて、カバー ② を矢印の方向に開きます。

! カバー ② が確実に閉じていることを確認してアームレストを収納してください。次にアームレストを使用しようとしたときに、カバー ② が引っかかって損傷するおそれがあります。

後席間の小物入れ

① ノブ
② カバー

小物入れのカバーを開く

▶ ノブ ① を持ち、カバー ② を矢印の方向に開きます。

後席中央の小物入れ

① レバー
② カバー

小物入れのカバーを開く

▶ レバー ① を引いて、カバー ② を矢印の方向に開きます

フロントシート下部の小物入れ *

① ハンドル
② カバー

小物入れのカバーを開く

▶ ハンドル ① を上方に引いて、カバー ② を矢印の方向に開きます。

! 重い荷物は収納しないでください。

! 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

カップホルダー

⚠ **けがのおそれがあります**

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が飛び出して、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。また、火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソールのカップホルダー

① マーク
② つまみ

カップホルダーを使用する

▶ マーク ① を押します。

カバーが開きます。

カップホルダーを閉じる

▶ カバーを押してロックさせます。

カップホルダーを取り外す

▶ カップホルダー中央のつまみ ② を両側からつまんで引き上げます。

ℹ カップホルダーを取り付けるときは、" ▲ FRONT" が前方にくるようにしてください。

リアアームレストのカップホルダー

① カップホルダー

カップホルダーを使用する

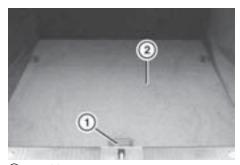
▶ カップホルダー ① を押します。

カップホルダーが開きます。

カップホルダーを閉じる

▶ カップホルダーを押して、ロックさせます。

トランク内の収納

トランクフロアボード

① ハンドル
② トランクフロアボード

トランクフロアボードを開く

▶ ハンドル ① を起こし、トランクフロアボード ② を引き上げます。

▶ トランクフロアボード ② を支えながら、ハンドル ① をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

① ハンドル
② トランクフロアボード
③ ラゲッジトレイ

! ハンドル ① をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルやシール部を損傷します。

ラゲッジトレイ *

① ラゲッジトレイ

トランクフロアボードの下にはラゲッジトレイ ① があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ラゲッジトレイの下には、車載工具や応急用スペアタイヤなどがあります (▷298 ページ)。

トランクフック

① ストラップ
② フック

トランクルームの上部に、バッグなどをかけるフックがあります。

トランクフックを使用する

▶ ストラップ ① を引いて、フック ② を下げます。

! 重い物や割れやすい物、鋭利な物などをフックにかけないでください。

室内装備

サンバイザー

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① サンバイザー
② バニティミラーカバー
③ 照明
④ フック
⑤ カードクリップ

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー ① を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー ① を下げます。

▶ サンバイザーをフック ④ から外し、横にまわします。

使用後は、サンバイザーを元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ② を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティーミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー ① を下げます。

▶ バニティミラーカバー ② を上方に開きます。

照明 ③ が点灯します。

i サンバイザー ① をフック ④ から外すと、照明 ③ は点灯しません。

i バニティミラーの横にカードクリップ ⑤ を備えています。

電動ブラインド

電動ブラインドは、ファンクションスイッチまたは COMAND システムで操作します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

! ブラインドが作動する範囲に、物を置かないでください。ブラインドや物を損傷するおそれがあります。

! ブラインドを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスイッチや COMAND コントローラーを操作してブラインドを開いてください。

! リアウインドウにアクセサリーなどを装着しないでください。ブラインドを作動させたときにブラインドやアクセサリーなどを損傷するおそれがあります。

i 外気温度が約 − 20℃以下のときは、ブラインドは作動しません。

ファンクションスイッチでの操作

① 電動ブラインドスイッチ

ブラインドを開閉する

▶ スイッチ ① を押します。

ブラインドが自動で開閉します。

ⓘ ブラインドが自動で開閉している時にスイッチを押すと、反対方向に作動します。

COMAND システムでの操作

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで **" 車両 "** を選択して ⟲◎⟳ · ←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

ブラインドを開閉する ①

▶ 開いているブラインドを閉じるときは、メインエリアに **" 電動ブラインド閉める "** を表示させて ⟲◎⟳ · ←◎→、コントローラーを押します ◎。

ブラインドが自動で閉じ、**" 電動ブラインド開ける "** と表示されます。

▶ 閉じているブラインドを開くときは、メインエリアに **" 電動ブラインド開ける "** を表示させて ⟲◎⟳ · ←◎→、コントローラーを押します ◎。

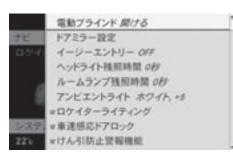
ブラインドが自動で開き、**" 電動ブラインド閉める "** と表示されます。

ブラインドを開閉する ②

▶ アプリケーションエリアの " **車両** " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ⊙。

車両設定メニューが表示されます。

▶ 開いているブラインドを閉じるときは、" **電動ブラインド閉める** " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

ブラインドが自動で閉じ、" **電動ブラインド開ける** " と表示されます。

▶ 閉じているブラインドを開くときは、" **電動ブラインド開ける** " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

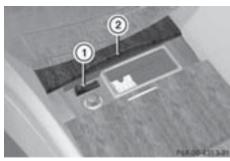
ブラインドが自動で開き、" **電動ブラインド閉める** " と表示されます。

灰皿

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

! 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

① ノブ
② カバー

灰皿カバーを開く

▶ カバー ② を前方に押します。

閉じるときは、カバー ② を前方に軽く押します。

灰皿を取り外す

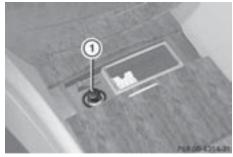
▶ ノブ ① を左側にスライドさせます。

灰皿のロックが解除されます。

▶ 灰皿を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を押し込んで、ロックさせます。

ライター

① ライター

ライターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ライター ① を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

▶ ライター ① を引き抜きます。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ けがのおそれがあります

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。また、ライターが過熱して火災が発生するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

12V 電源ソケット

グローブボックス内の 12V 電源ソケット

左ハンドル車
① ソケットカバー

トランク内の 12V 電源ソケット

① ソケットカバー

グローブボックス内とトランク内に12V 電源ソケットを装備しています。

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー ① を開き、電気製品の電源コネクターを差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

! 最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

アシストグリップ

ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

⚠ **けがのおそれがあります**

アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがあります。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

コートフック

リアサイドウインドウの上方にコートフックがあります。

① コートフック（右側）

コートフックを使用する

▶ コートフックの ① の部分を押します。

コートフックが下方に開きます。

⚠ **けがのおそれがあります**

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

慣らし運転

⚠ 事故のおそれがあります

ブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D1、D2、D3 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ CL 63 AMG と CL 65 AMG は、最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 火災や爆発のおそれがあります

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

⚠ 健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

①燃料給油フラップ
②キャップ
③ホルダー
④タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作やキーレスゴー操作による車の解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油フラップを開く

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の部分を押します。

キャップを外す

▶ キャップ ② を反時計回りに少しまわしてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして外します。

▶ 外したキャップ ② を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー ③ に置きます。

キャップを取り付ける

▶ キャップ ② を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

キャップがロックする音が聞こえます。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ ① を押します。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ④ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷274 ページ）をご覧ください。

ℹ リモコン操作やキーレスゴー操作で燃料給油フラップが解錠されないときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ℹ 燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には給油口の位置を示す ⛽ が表示されています。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料に使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

 けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

 けがのおそれがあります

イグニッション位置が **0** のときや、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときでも冷却水の温度が高いときは、エンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

 けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください（▷135 ページ）。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

左ハンドル車
① ボンネットロック解除レバー

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します（▷135 ページ）。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ロック解除ノブ ② を矢印の方向に押しながら、ボンネットを開きます。

ボンネットを閉じる

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、約 20cm の高さから手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

i ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ボンネットを垂直に開く

③ ロックレバー

垂直位置まで開く

▶ 開いているボンネットを少し押し下げながら、向かって右側のヒンジにあるロックレバー ③ を矢印の方向に押してロックを解除します。

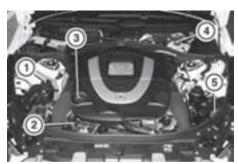
▶ 同様に、向かって左側のヒンジにあるロックレバーを押してロックを解除します。

※ 車種や仕様により、向かって左側のヒンジにはロックレバーはありません。

▶ ボンネットを垂直の位置に開きます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し押し上げながら、向かって右側のヒンジにあるロックレバー ③ を押し、ロックを解除してボンネットを閉じます。

エンジンルーム

CL 550（左ハンドル車）

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	267
②	エンジンオイル レベルゲージ	263
③	エンジンオイル フィラーキャップ	266
④	ブレーキ液 リザーブタンク	269
⑤	ウォッシャー液 リザーブタンク	270

※ 右ハンドル車の ④ は左右対称の位置にあります。

CL 600

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	267
②	エンジンオイル フィラーキャップ	266
③	ブレーキ液 リザーブタンク	269
④	ウォッシャー液 リザーブタンク	270

CL 63 AMG

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	267
②	エンジンオイル レベルゲージ	263
③	エンジンオイル フィラーキャップ	266
④	ブレーキ液 リザーブタンク	269
⑤	ウォッシャー液 リザーブタンク	270

CL 65 AMG

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	267
②	エンジンオイル フィラーキャップ	266
③	ブレーキ液 リザーブタンク	269
④	ウォッシャー液 リザーブタンク	270

! CL 600 / CL 65 AMG は、エンジン上部後方にあるキャップ ⑥ を絶対に開かないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

CL 65 AMG

i CL 600 / CL 65 AMG には、エンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面（▷178 ページ）で点検し、必要に応じて規定のオイル量を補給してください。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いていたり、イグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

⚠ **火傷やけがのおそれがあります**

エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。

日常の取り扱い

! ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所で行なってください。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんを使用して洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 適切な工具を使用してください。

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

V ベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。亀裂や損傷がないか点検してください。

環 境

環境保護のため、油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンオイル

! エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱くなっているときにエンジンオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! エンジンやエンジンオイルが熱くなっているときは、身体に触れないように注意してください。火傷をするおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷318 ページ）をご覧ください。

! 運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

CL 550 / CL 63 AMG

CL 550
① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検します。

▶ 安全で水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約 5 分間待ちます。

エンジンオイルが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）② と下限（min）③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

ℹ エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は約 2 リットルです。

ℹ 慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

ℹ CL 600 / CL 65 AMG には、エンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面で点検し、必要に応じて規定のオイル量を補給してください。

CL 600 / CL 65 AMG

マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面でエンジンオイル量を点検します。

ℹ CL 550 / CL 63 AMG は、エンジンオイル量点検画面は表示されません。エンジンオイルレベルゲージ（▷263 ページ）でエンジンオイル量を点検し、必要に応じて規定のオイル量を補給してください。

▶ 安全で水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約 5 分間待ちます。

エンジンオイルが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分以上待ちます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ ▲ または ▼ を押して、" *ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量* " を選択します。

▶ OK を押します。

画面に " *ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ測定中 正しい測定は 車両水平時のみ可能* " と表示されます。

ℹ エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに " もう少し待ってから ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量を 測定してください " と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに " ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量 測定するには ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｵﾝ " と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

点検結果に応じて、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイル量が不足しています。

表示される数値に従ってエンジンオイルを補給してください。

ⓘ 補給するエンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。

ⓘ エンジンオイルの補給については（▷266 ページ）をご覧ください。

このときは、エンジンオイル量が多すぎます。

走行しないで、エンジンオイル量を適正にしてください。

! エンジンオイル量が多すぎると、エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

このときは、エンジンオイル量が安定していません。

約 5 分ほど待ち、エンジンオイル量が安定してから点検をやり直してください。

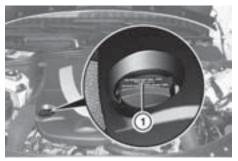
エンジンオイルが温まっていない場合は、約 30 分ほど待ってから点検をやり直してください。

! エンジンがかかっているときに、マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷318 ページ）をご覧ください。

ⓘ エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに " ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量 ｴﾝｼﾞﾝ停止時のみ 測定できます " と表示されます。

エンジンオイルの補給

 環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

CL 550
① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。入れすぎたエンジンオイルは抜き取ってください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

- 冷却水の水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷316 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

冷却水の量の点検

① キャップ
② リザーブタンク
③ バー

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくりと約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク ② 内のバー ③ の上面に達していれば適量です。

i 冷却水の水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

! 冷却水の減りかたが著しいときはただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の補給

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくりと約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のような症状があらわれます

- 冷却水温度が約 120 度以上を示している
- 冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が出ている

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(▷316 ページ)をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 火災のおそれがあります

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、十分に冷えるまで車から離れてください。エンジンルームの中に漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や冷却水が吹き出して火傷をするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているとき、エンジンファンが停止しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足していたら補給します(▷267 ページ)。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ 事故のおそれがあります

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷309 ページ）、ブレーキ警告灯（▷323 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 火傷や火災のおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷309 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液量の点検

左ハンドル車
① ブレーキ液リザーブタンク
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク ① のレベルインジケーター上限（MAX）② と下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

※ 右ハンドル車のブレーキ液リザーブタンクは、エンジンルームに向かって左側にあります。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! 補給はエンジンが冷えてから行なってください。エンジンや排気系部品などにブレーキ液が付着すると、火災が発生するおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

ウォッシャー液の補給

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

▶ リザーブタンクのキャップ ① を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷319 ページ）をご覧ください。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。専用以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷274 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性や燃費に悪影響をおよぼしたり、騒音が発生するおそれがあります。また、重い荷物を積載しているときやスノーチェーンを装着しているときに、タイヤがフェンダー内側やサスペンションに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは走行しないでください。濡れた路面では特に、アクアプレーニング現象が発生しやすくなります。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン (別冊「整備手帳」参照) が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧測定装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷していると、走行しているときに振動や騒音が発生したり、ステアリングがどちらか一方に取られるなど不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石や路面の段差、凹凸物などを乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にして速度を落として乗り越えてください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

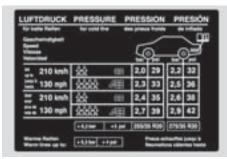
- タイヤを清掃するときは、高圧式スプレーガンなどを使用しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、アクアプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar(≒ kg/cm²)」と「psi」で示しています。

> ⚠ **事故や火災のおそれがあります**
>
> - 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
> - タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷したりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

> **環　境**
>
> 定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧については（▷378 ページ）をご覧ください。

i "up to 210km/h" の表示があるときは、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

日常の取り扱い

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積んでいるとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷274 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、メインメニューから " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ ▲ または ▼ を押して、" ﾀｲﾔ空気圧 " を選択します。

▶ OK を押します。

画面に " ﾀｲﾔ空気圧 警告ｼｽﾃﾑ 作動 OK ﾎﾞﾀﾝで再起動 " と表示されます。

ⓘ 画面に " ﾀｲﾔ空気圧 警告ｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｵﾝで 作動できます " と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ OK を押します。

画面に " ﾀｲﾔ空気圧は 正常ですか？ " と表示されます。

▶ ▼ を押して、" はい " を選択し、OK を押します。

画面に " ﾀｲﾔ空気圧 警告ｼｽﾃﾑ 再始動 しました " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

再起動を中断する

▶ ステアリングスイッチの ⮌ を押します。

または

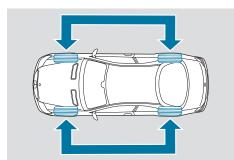
▶ 画面に " ﾀｲﾔ空気圧は 正常ですか？ " と表示されているときに、" ｷｬﾝｾﾙ " を選択し、OK を押します。

タイヤローテーション

⚠ **事故のおそれがあります**

- タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると走行安定性や車両操縦性が確保できません。
- ホイールボルトの締め付けトルクは 15kg-m（150Nm）です。タイヤローテーションを行なったあとは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です（▷279、280、378 ページ）。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

※ ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを傷付けないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウやスライディングルーフ、自動開閉トランクリッドなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

> ⚠ **中毒のおそれがあります**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

外気温度が約 7℃以下のときや雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください（▷378 ページ）。

⚠ 事故のおそれがあります

ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。タイヤがグリップを失い、事故を起こすおそれがあります。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、走行安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

! スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック * は使用しないでください。

! ウィンタータイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず左右の後輪に装着してください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーン装着時は、約50km/h 以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時は、ESP の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

! スノーチェーン装着時は、車高調整スイッチで車高を上げて走行してください（▷200 ページ）。標準の車高ではスノーチェーンが車体に接触し、損傷するおそれがあります。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの着脱は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行時の注意

エンジン

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ **火災のおそれがあります**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **火災のおそれがあります**

ブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

! ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 高速道路の走行時などブレーキを効かせずに長時間走行しているときや、水たまりの通過後、洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは後続車に注意しながら速度を落として走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷309 ページ）をご覧ください。

! ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

クルーズコントロールやディストロニック *、可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液の量が減っています。安全な場所に停車し、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

CL 63 AMG、CL 65 AMG のブレーキの注意事項

CL 63 AMG 、CL 65 AMG の高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズが発生することがあります。

また、CL 63 AMG 、CL 65 AMG のブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、低速でシフトポジションを交互に **D** と **R** にすることにより、ぬかるみから脱出できる場合があります。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は、約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。

  そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐停車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が侵入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して、事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック * を使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス･ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- Daimler AG 指定の点検整備

  Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1 年および 2 年点検整備

  1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときに、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備実施日の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーター画面を消したいときは、ステアリングスイッチの ⮌ を押します。

手動で表示させる

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、メインメニューから " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ ▲ または ▼ を押して、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ OK を押します。

次回のメーカー指定点検整備実施時期が表示されます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には "A" から "H" までのアルファベットが表示されます。

- **点検整備実施前の表示例**

  " 次回のﾒﾝﾃﾅﾝｽ # まで あと XX 日です "

  " 次回ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # は XX km 走行後です "

- **点検整備実施時期になったときの表示例**

  " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # 期限が切れます "

- **点検整備実施時期を過ぎたときの表示例**

  " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ 期限を XX 日超えています "

  " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ 期限を XX km 超えています "

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を期限までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

i ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i メンテナンスインジケーターが表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、メルセデス·ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 中毒や火災のおそれがあります

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。

- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にはステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。
- アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 洗車をするときはマフラーやその周辺に注意してください。マフラーやその周辺に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。

- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類のレンズは樹脂製です。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。

自動洗車機の使用

⚠ 事故のおそれがあります

自動洗車機を使用するときは、必ずホールド機能を解除してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は、使用しないでください。ドアやスライディングルーフなどから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 余熱ヒーター・ベンチレーションが停止していることを確認してください。
- ワイパーの作動モードを停止の位置にしてください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサー、ディストロニックセンサーのカバー *、パーキングアシストリアビューカメラには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーやカメラ、塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは、ノンブラシ式の自動洗車機を使用してください。また、車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 高温のワックス処理を行なう自動洗車機は使用しないでください。

ランプ類の手入れ

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

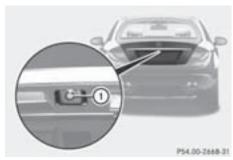
* オプションや仕様により、異なる装備です。

センサーの手入れ

- パークトロニックセンサー（▷201ページ）やディストロニックセンサーのカバー * を清掃するときは、流水または水とかシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。
- ディストロニックセンサーのカバー * を清掃するときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

! パークトロニックセンサー、ディストロニックセンサーのカバー * を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーやディストロニックセンサーのカバー * には、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

① パーキングアシストリアビューカメラ

▶ きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マフラーの手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

清掃するときは、プラスチック部品の端部やシート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウッドトリムなどの部分は、水で湿らせた柔らかい布を使用して拭き取ります。頑固な汚れには少量の石けん水を使用します。

  また、有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しないでください。ウッドトリムなどを損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ナイトビューアシストの映像が不鮮明なとき

ナイトビューアシストカメラ前方のフロントウインドウの内側または外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストの映像が不鮮明になります。

フロントウインドウ内側の汚れを取る

▶ グリップ ② をつまんで、カバー ① を矢印の方向に開きます。

① カバー
② クリップ

③ レンズ

▶ 湿らせた布などで、レンズ ③ 前面のウインドウを清掃します。

! カメラのレンズを拭かないでください。レンズが汚れているときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! ウインドウクリーナーなどを使用するときは、カメラのレンズにかからないように注意してください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **火災や爆発のおそれがあります**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを **N** にして、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを **N** にできないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに装備しています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

① 停止表示板
② ロックノブ

停止表示板はトランクリッドの裏側に収納されています。

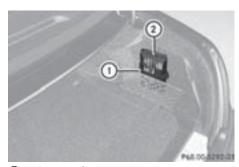
▶ ロックノブ ② を矢印の方向にまわして、停止表示板 ① を取り外します。

停止表示板の組み立て

① スタンド
② 反射板
③ フック

▶ 左右のスタンド ① を拡げて地面に立てます。

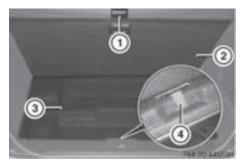
▶ 反射板 ② を引き出し、頂点のフック ③ をかみ合わせます。

救急セット

① ストラップ
② 救急セット

救急セットはトランクルーム内右側の収納ネットに収納されています。

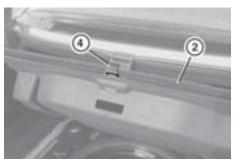
ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

車載工具

車載工具はトランク内のトランクフロアボード下に収納されています。

① ハンドル
② トランクフロアボード
③ ラゲッジトレイ *
④ フック

▶ ハンドル ① を起こし、トランクフロアボード ② を引き上げます。

▶ トランクフロアボード ② を支えながら、ハンドル ① の上端部をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

! ハンドル ① の上端部をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルを損傷します。

② トランクフロアボード
④ フック

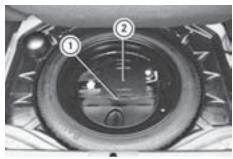
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ラゲッジトレイ ③* を引き上げ、フック ④ をトランクフロアボード ② の縁にかけます。

! ラゲッジトレイ * に重い物を収納しているときは、取り出してからラゲッジトレイ * をかけてください。重みで落下するおそれがあります。

! フック ④ の角でけがをしないように注意してください。

※ 車種や仕様により、ラゲッジトレイは装備されません。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

① ノブ
② カバー

車載工具やジャッキなどは、応急用スペアタイヤに取り付けられたトレイに収納されています。

車載工具には以下のものが収納されています。

- ホイールレンチ
- ガイドボルト
- けん引フック
- ヒューズ配置表（英文）
- 手袋

車載工具とともに、輪止めとジャッキが収納されています。

車載工具を取り出す

▶ ノブ ① を押しながらカバー ② を開きます。

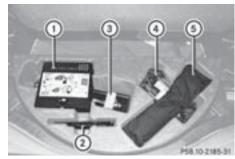
応急用スペアタイヤを取り出す

③ ホルダー
④ 応急用スペアタイヤ

▶ ホルダー ③ を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ ④ を取り出します。

※ 車種や仕様により、ホルダーの形状が異なります。

タイヤフィットが車載されている車種

① 電動エアポンプ
② 輪止め
③ ジャッキ
④ タイヤフィット
⑤ 車載工具

輪止め

輪止めは、図の順番で組み立てます。

! 輪止めを使用するときは、図 ④ の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

⚠ 事故のおそれがあります

表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障 / 警告メッセージの表示機能は運転者を支援するシステムです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。

メッセージの色は白色、黄色、赤色で表示され、重要度の高いメッセージは赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示された場合は、本書の指示に従ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ℹ 故障 / 警告メッセージを手動で表示させることができます（▷177ページ）。

故障 / 警告メッセージを消す

重要度の低いメッセージは、数秒後に自動的に消えます。自動的に消えないメッセージは、ステアリングのスイッチでメッセージを消すまで表示され続けます。

重要度の高いメッセージは、故障や異常が解消するまで、メッセージが消えない場合があります。

メッセージを消す

▶ ステアリングの OK または ↩ を押します。

メッセージが消え、故障内容が記憶されます。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABC	故障 停車してください	車高が下がりすぎている。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 数秒後に車高調整が終わり、メッセージは消えます。
		メッセージが消えないときは、ABC のシステムからオイルが漏れている。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
		メッセージが消えないときは、ABC が故障している。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。 フロントフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABC	車高が あがります お待ち ください	停車時の車高が下がりすぎている。 ▶ 走行しないでください。 ▶ 車高が上がり切るまで待ってください。 車高調整が終われば、メッセージは消えます。
ABC	故障	ABC の機能の一部が制限され、車両操縦性に影響する可能性がある。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ ﾊﾞｯﾃﾘ	**故障（白色で表示）**	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ ﾊﾞｯﾃﾘ	**故障（赤色で表示）**	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーがあがっている。 電気システムに異常がある場合は、オートマチックトランスミッションを変速できない可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	**- - - km/h**	ディストロニックの作動条件を満たしていない。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 ▶ シフトポジションを D にしてください。 ▶ 周囲の状況に問題がなければ、約 30km/h 以上の速度で走行し、ディストロニックを設定してください。 ▶ ESP を待機状態にしてください。
		システムが作動可能な温度の範囲を超えている。 ▶ システムが作動可能な温度になるまで待ってください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	**制御待機中**	アクセルペダルを踏んで速度を上げたため、ディストロニックによる速度の調整ができない。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	**現在使用できません** **取扱説明書** **参照**	以下のことが原因でディストロニックが解除され、一時的に作動停止している。 • フロントグリルのディストロニックカバーが汚れている。 • 豪雨や雪などのため機能が解除されている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の干渉などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • レーダーセンサーシステムが車両や信号機などの静止物を長時間にわたり検知していない。 • システムが作動可能な温度になっていない。 以下のときは、メッセージが消え、ディストロニックが再び作動できる状態になります。 • 走行中に汚れなどが落ちたとき。 • センサーが再び完全に機能していることを、システムが検知したとき。 • システムが作動可能な温度になったとき。 **メッセージが消えないとき** ▶ フロントグリルのディストロニックカバーを清掃してください（▷292 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	**故障**	ディストロニックが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸと 可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀ	**故障**	ディストロニックまたは可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
停止時のみ	**P ﾚﾝｼﾞ にｼﾌﾄ**	約 10km/h 以上で走行しているときにシフトポジションを P にしようとした。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。
ｾﾚｸﾀが **走行位置**		シフトポジションが R 、 N または D のときに運転席ドアを開いた。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。
ｼﾌﾄﾁｪﾝｼﾞ せず	**工場で点検！**	シフトポジションを変更できない。 **シフトポジションが D のとき** ▶ シフトポジションを D から動かさないようにして、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 または **シフトポジションが N 、 R 、 P のいずれかのとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
HOLD	**ｵﾌ**	車が横滑りをしているため、ホールド機能が解除されている。 ▶ 安全な状況で、再度ホールド機能を作動させてください。
ﾁｬｲﾙﾄﾞ ｼｰﾄ	**位置が違います** **取扱説明書** **参照**	⚠ **けがのおそれがあります** **チャイルドセーフティシート検知システム装備車** センサー付き純正チャイルドセーフティシートが不適切な位置に装着されている。 ▶ チャイルドセーフティシートを正しい位置に装着してください。
		⚠ **けがのおそれがあります** **チャイルドセーフティシート検知システム装備車** チャイルドセーフティシート検知システムのセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾌﾟﾚｾｰﾌ	**故障** **取扱説明書** **参照**	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE が故障している。 エアバッグなど、その他の乗員安全装置には異常がない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔ空気圧 警告ｼｽﾃﾑ	空気圧点検後 再起動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
	故障	タイヤ空気圧警告システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔ空気圧	ﾀｲﾔを 点検 してください	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の安全を確認し、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを修理するか、交換してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整し、またはタイヤを交換した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷275 ページ）。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	故障	クルーズコントロールが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙと 可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀ	故障	クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - - km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。 ▶ ESP を待機状態にしてください。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。
		システムが過熱している。 ▶ システムが冷えるまで待ってください。
P ﾚﾝｼﾞ からｼﾌﾄ	ﾌﾞﾚｰｷを 踏んでください	▶ ブレーキペダルを踏んだ状態で、セレクターレバーを操作してください。
ｴﾝｼﾞﾝ始動	P または N に ｼﾌﾄ	シフトポジションが D か R のときにエンジンを始動しようとしている。 ▶ シフトポジションを P か N にしてください。

イラストメッセージ

 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
	トランクが開いたまま走行している。 ▶ トランクを閉じてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行速度が約 6km/h を超えた。 ▶ ドアを閉じてください。
	オルタネーターか車の電気システムが故障している。 バッテリーが充電されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。ただしエンジンを停止しないでください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ 回転している部分に十分注意しながら、V ベルトが切れていないか目視で点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ! 走行しないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトに問題がないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下であることを確認してください（▷23 ページ）。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進と停止を繰り返すような運転は避けてください。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行して点検を受けてください。
	ABS と ESP **故障** **取扱説明書** **参照**	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ABS と ESP **現在使用できません** **取扱説明書** **参照**	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、一時的に作動しない状態になっている。システムの自己診断が終了していない。加えてメーターパネルの と 、 も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ メッセージが消えるまで、約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。
		⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、一時的に作動しない状態になっている。バッテリーの電圧が低下している可能性がある。加えてメーターパネルの と 、 も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

<table>
<tr><th colspan="2">ディスプレイ表示</th><th>考えられる原因および症状 / ▶ 対応</th></tr>
<tr><td>[ESP表示]</td><td>故障
取扱説明書
参照
または
ｼｽﾃﾑ 故障</td><td>⚠ 事故のおそれがあります
ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、故障のため作動しない状態になっている。加えてメーターパネルの [ESP表示] と [ESP OFF表示] も点灯している。
▶ 注意して走行してください。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">[ESP表示]</td><td rowspan="3">現在使用できません
取扱説明書
参照</td><td>⚠ 事故のおそれがあります
ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、一時的に作動しない状態になっている。システムの自己診断が終了していない。
ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。加えてメーターパネルの [ESP表示] と [ESP OFF表示] も点灯している。
▶ メッセージが消えるまで、約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。</td></tr>
<tr><td>⚠ 事故のおそれがあります
ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、電圧低下のため作動しない状態になっている。バッテリーが充電されていない可能性がある。
ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。
▶ 注意して走行してください。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td>メーターパネルの [ESP表示] が点滅している。
⚠ 事故のおそれがあります
ETS の機能が解除されている。
▶ メッセージが消え、メーターパネルの [ESP表示] も消灯するまで、ブレーキを冷やしてください。
ETS は再び待機状態になります。</td></tr>
</table>

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾌﾞﾚｰｷ液ﾚﾍﾞﾙ **点検して** **ください**	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	EBV、ABS、 **ESP 故障** **取扱説明書** **参照**	⚠ **事故のおそれがあります** EBV、ABS、ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、故障のため作動しない状態になっている。 さらに、メーターパネルの と 、 、 も点灯し、警告音が鳴った。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ **摩耗** **点検してください**	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ **解除** **してください**	赤色の パーキングブレーキ表示灯が点滅し、警告音が鳴った。 パーキングブレーキを効かせた状態で走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 または ▶ 慎重に走り出してください。
		赤色の パーキングブレーキ表示灯が点滅し、警告音が鳴った。 **緊急時のパーキングブレーキ操作をしたとき** ▶ 緊急時のパーキングブレーキ操作を終えたら、パーキングブレーキスイッチから手を放してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ **解除** **してください**	赤色の パーキングブレーキ表示灯が点滅するとともに、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯し、警告音が鳴った。 パーキングブレーキの故障により、制動力が制限されている。 **走行しているとき** ▶ パーキングブレーキを解除してください。 **停車しているとき** ▶ イグニッション位置を **0** にし、再度イグニッション位置を **2** にしてください。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 **メッセージが消えないとき** ▶ シフトポジションを **P** にしてください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷299 ージ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ **取扱説明書** **参照**	黄色の パーキングブレーキ警告灯が点灯している。また、赤色のパーキングブレーキ表示灯が点灯する。 パーキングブレーキが故障している。 **パーキングブレーキを解除する** ▶ パーキングブレーキスイッチを引いてください。 または ▶ 慎重に走り出してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 **パーキングブレーキを効かせる** ▶ イグニッション位置を **0** にします。 ▶ メッセージが消えるまでパーキングブレーキスイッチを約 10 秒以上押してください。 **メッセージが消えないとき** ▶ シフトポジションを **P** にしてください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷299 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ **取扱説明書** **参照**	赤色の パーキングブレーキ表示灯が点滅している。 パーキングブレーキへの電力供給が断たれた。 ▶ パーキングブレーキスイッチを引いてください。 または ▶ 慎重に走り出してください。 または ▶ メッセージが消えるまでパーキングブレーキスイッチを引いてください。
		赤色の パーキングブレーキ表示灯が点滅するとともに、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯し、警告音が鳴った。 パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッション位置を **0** にし、再度イグニッション位置を **2** にします。 ▶ パーキングブレーキを効かせるか解除します。 または ▶ 慎重に走り出してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		黄色の パーキングブレーキ警告灯が点灯する。また、パーキングブレーキを効かせたときや解除したときに、赤色のパーキングブレーキ表示灯が約 10 秒間点滅し、その後、消灯するか点灯し続ける。 過電圧または電圧不足のため、パーキングブレーキが故障している。 ▶ 慎重に走り出してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 **過電圧または電圧不足のとき** ▶ バッテリーの充電やエンジンの再始動などにより、電圧を正常に戻してください。 ▶ イグニッション位置を **0** にし、再度イグニッション位置を **2** にしてから、パーキングブレーキを効かせるか解除します。 **パーキングブレーキが解除できないとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(P)	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 取扱説明書 参照	黄色の (P) パーキングブレーキ警告灯が点灯する。また、パーキングブレーキを効かせたときや解除したときに、赤色のパーキングブレーキ表示灯が約 10 秒間点滅し、その後、消灯するか点灯し続ける。 システムが過熱している可能性がある。 ▶ システムが冷えるまで待ってください。このときは、パーキングブレーキを効かせたり解除しないでください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷299 ページ）。 ▶ システムが冷えた後にイグニッション位置を **0** にし、再度イグニッション位置を **2** にしてから、パーキングブレーキを効かせるか解除します。
(P)	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 故障	黄色の (P) パーキングブレーキ警告灯が点灯する。また、パーキングブレーキを効かせたときや解除したときに、赤色のパーキングブレーキ表示灯が約 10 秒間点滅し、その後、消灯するか点灯し続ける。 パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッション位置を **0** にし、再度イグニッション位置を **2** にしてから、パーキングブレーキを効かせてください。 **パーキングブレーキが効かないとき** ▶ シフトポジションを P にします。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷299 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(P)	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ で 解除できます	赤色の (P) パーキングブレーキ表示灯が点滅している。 エンジンスイッチにキーを差し込んでいないとき、またはイグニッション位置が **0** のときにパーキングブレーキを解除しようとしている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。 または ▶ キーレスゴーで、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状／▶ 対応
	停車してください 車高が 低すぎます	⚠ **事故のおそれがあります** 車高調整システムが故障している。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車して、車高調整スイッチを押してください。故障内容によっては、これにより車高が上がることがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		車高が下がりすぎている。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 数秒後に車高調整が終わり、メッセージは消えます。
	車高 あがります お待ち ください	停車時の車高が下がりすぎている。 ▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってください。 走行に適した車高になります。
	故障	⚠ **事故のおそれがあります** 機能の一部が制限され、操縦安定性に影響する可能性がある。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	SRS ｼｽﾃﾑ 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾛﾝﾄ左 故障 工場で点検 または ﾌﾛﾝﾄ右 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 前席左側または前席右側の乗員保護装置が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾘｱ左 **故障** **工場で点検** または **ﾘｱ右** **故障** **工場で点検**	⚠ **けがのおそれがあります** 後席左側または後席右側の乗員保護装置が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	左ｳｲﾝﾄﾞｳﾊﾞｯｸﾞ **故障** **工場で点検** または **右ｳｲﾝﾄﾞｳﾊﾞｯｸﾞ** **故障** **工場で点検**	⚠ **けがのおそれがあります** 左側または右側のウインドウバッグが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ が違います	エンジンスイッチに違う車のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを差し込んでください。
	ｷｰ の電池を **交換** **してください**	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください。
	ｷｰ を 交換 **してください**	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ 読み込み中 **お待ち下さい**	システムがキーの認識を行なっている。 ▶ メッセージが消えるまで待ってください。
	ｽﾀｰﾄ ﾎﾞﾀﾝを **外し** **ｷｰ を入れて** **ください**	キーレスゴーが一時的に機能していないか故障している。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでエンジンを始動します。
	ｷｰ が **車内に** **あります**	キーレスゴーで施錠するときに、システムが車内にキーがあると判断している。 ▶ 車内にあるキーを取り出してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｷｰ を 認識 できません （白色で表示）	車外から解錠 / 施錠するときにシステムがキーを認識できない。 ▶ キーを探してください。 **キーが認識されないとき** ▶ 解錠するときはエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷334 ページ）。 ▶ 施錠するときは「車両の施錠」（▷335 ページ）をご覧ください。
		キーが車内にあるときにシステムがキーを認識できない。 ▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。 **キーが認識されないとき** ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外してください（▷89 ページ）。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
	ｷｰ を 認識できません （赤色で表示）	エンジンがかかっているときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ キーを探してください。
		エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外してください（▷89 ページ）。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
		システムがキーを認識できない。 ▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。 **キーが認識されないとき** ▶ エンジンスイッチのキーレスゴースイッチを取り外してください（▷89 ページ）。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
	ﾄﾞｱを閉めてから ﾛｯｸ してください	いずれかのドアが開いている。 ▶ すべてのドアを閉じ、再度施錠操作を行なってください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	冷却水を点検してください 取扱説明書参照	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水を補給してください（▷267 ページ）。補給時の注意に従ってください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。
	冷却水 停車して ｴﾝｼﾞﾝ を停止	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。 ▶ ラジエターグリルに雪や泥などが付着していないか確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください（▷158 ページ）。
		V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、ただちに安全な場所に停車して、V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください（▷158 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	左 ﾛｰﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ (ロービーム) が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でランプを交換してください。
	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ 故障	アクティブライトシステムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ 故障	ランプセンサーが故障している。 ランプが常時点灯モードで点灯する。 ▶ マルチファンクションディスプレイのヘッドランプ点灯モード設定画面（▷178 ページ）で、常時点灯モードをオフにしてください。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾗｲﾄ を 消して ください	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
	ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 故障	ナイトビューアシストに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 現在使用できません	ナイトビューアシスト用カメラの温度が高すぎる。 ▶ マルチファンクションディスプレイに " ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ再び使用できます " と表示されるまで待ってください。 以下の方法でカメラを冷やすこともできます。 ▶ ナイトビューアシスト用カメラのカバーを開いてください。 ▶ エアコンディショナーの送風が上を向くように調整してください。
	ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ ﾗｲﾄ 確実に 点灯	ナイトビューアシストの作動条件を満たしていない。 ▶ ランプスイッチを A か ≣D の位置にしてください。
	ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ R ﾚﾝｼﾞ 以外に ｼﾌﾄ	ナイトビューアシストの作動条件を満たしていない。 ▶ シフトポジションを P N D のいずれかにしてください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ ﾗｲﾄ確実に点灯 R ﾚﾝｼﾞ 以外に ｼﾌﾄ	ナイトビューアシストの作動条件を満たしていない。 ▶ ランプスイッチを A か の位置にしてください。 ▶ シフトポジションを P N D のいずれかにしてください。
	ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 使用は暗い場合 のみ	周囲が明るいときにナイトビューアシストを作動させようとしている。 ナイトビューアシストは、周囲が暗いときにのみ作動させることができます。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ量 減少 停車して ｴﾝｼﾞﾝ を停止	エンジンオイル量が不足している。エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルを補給し、エンジンオイル量を点検してください（▷263 ～ 266 ページ）。
	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ を 1 ﾘｯﾀｰ 補充して下さい	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷266 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ を 抜いて下さい	エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。 ▶ 適正量になるまで、エンジンオイルを抜いてください。エンジンオイルを廃棄するときは規則に従ってください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ量 測定 不可能	エンジンオイル量計測システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	給油の際に ｵｲﾙ量を点検	エンジンオイル量が限界まで下がっている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷266 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	左ﾌﾛﾝﾄﾊﾞｯｸﾚｽﾄ ﾛｯｸされて いません または **右ﾌﾛﾝﾄﾊﾞｯｸﾚｽﾄ ﾛｯｸされて いません**	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席シート、または助手席シートのバックレストがロックされていない。 シートベルトが機能しない。 ▶ バックレストをロックしてください。
		燃料残量がほとんどない ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｳｫｯｼｬ 液を 補充 してください	ウォッシャー液量が残り約 1 リットルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷270 ページ）。

トラブルの原因と対応

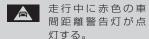
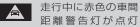
⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートベンチレーターが短時間で自動的に停止する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。
シートヒーターが短時間で自動的に停止する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。
COMAND システムで "AC OFF" 機能が解除できない。	故障のため、エアコンディショナーの機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガーが短時間で自動的に停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。
チャイルドセーフティシート検知システム装備車： メーターパネル横の助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。	助手席シートにセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席シートにセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着していないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 ▶ 助手席のシート座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード **助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままのとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。BAS、ESP、EBV、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷307 ページ）。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車との車間距離が短すぎる。 ▶ 車間距離を長くとってください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車に急激に近付いている。 ▶ ただちにブレーキペダルを踏める準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ディストロニックが走行線上に静止した障害物を検知している。 この場合はディストロニックの自動ブレーキ機能は作動しない。 ▶ ただちにブレーキペダルを踏める準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。
OFF エンジンがかかっているときに黄色の ESP 表示灯と ESP オフ表示灯、赤色のブレーキ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** EBV に異常がある。ABS、BAS、ESP、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷307 ～ 309 ページ）。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯とESPオフ表示灯、ABS警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** EBVが故障している。ABS、BAS、ESP、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷307 ～ 309 ページ）。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯とESPオフ表示灯、ABS警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABSとESPが故障している。BAS、ESP、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷307 ～ 309 ページ）。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色のESP表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESP、またはトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニックが自動的に解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESPの機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。
エンジンがかかっているときに黄色のESPオフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESPの機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESPを待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯とESPオフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP、BAS、PRE-SAFE、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプが、故障のため作動しない状態になっている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷307 ～ 309 ページ）。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
赤色のパーキングブレーキ表示灯が点滅しているか、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯している。または、両方の表示灯と警告灯が点滅 / 点灯している。	⚠ **事故のおそれがあります** パーキングブレーキが一時的に機能しないか故障している。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷309 ～ 312 ページ）。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください（▷309 ページ）。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を積んでいる。 ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報システムが作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアまたはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアを開くか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ 盗難防止警報システムを停止してください（▷53 ページ）。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷300 ページ～）。
	パーキングブレーキを効かせた状態で走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **1** にして運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを **0** の位置にしてください。
	走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯している。 先行車に急激に近付いているか、ディストロニックが走行線上に静止した障害物を検知している。 ▶ ただちにブレーキペダルを踏める準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。
エンジンを始動すると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。
速度が約 25km/h 以上になったときに警告音が鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料給油システム、または燃料タンクが損傷している。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度が分からない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料給油システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない	燃料給油フラップが解錠されていない。 ▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 • 燃料供給に異常がある可能性がある。 • バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。 ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を繰り返してください（▷88 ページ）。ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷356 ページ）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが非常に高温になっている。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ エンジンを始動してください。 **エンジンが始動しないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの作動が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある可能性がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください（▷267 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行して点検を受けてください。 ▶ このときは、山道の走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進と停止を繰り返すような運転は避けてください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアにできる場合があります。 ▶ 安全な場所に停車してください。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを **D** にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを **R** にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 ▶ 問題が解決しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷292 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷203 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプの内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、フロントウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（▷135 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウォッシャー液がフロントウインドウに正しく噴射されない。	ウォッシャー液の噴射位置が正しく調整されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でウォッシャーノズルを調整してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウやリアサイドウインドウを閉じることができない。	ドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まったり、詰まったりしている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合 ▶ ドアウインドウまたはリアサイドウインドウが閉じるまで、パワーウインドウスイッチを引きます。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷107 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷336 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ 解錠するときはエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷334 ページ）。 ▶ 施錠するときは「車両の施錠」をご覧ください（▷335 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴーで解錠 / 施錠できない。	長い時間キーレスゴーで解錠しなかったため、キーレスゴーの機能が停止している。 ▶ ドアハンドルを 2 回引いて、キーをエンジンスイッチに差し込んでください。
	キーレスゴーに異常がある。 ▶ キーの先端を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離からリモコン操作で解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ 施錠するときは「車両の施錠」をご覧ください（▷335 ページ）。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ キーを差し込んでから約 30 秒以内にエンジンを始動してください。 ▶ 始動操作を繰り返してください（▷144 ページ）。 **それでもエンジンが始動しないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷356 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。キーは車内にある。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ナイトビューアシスト

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ナイトビューアシストの画質が悪い。	フロントウインドウにワイパーの拭き残しによる汚れが付着している。 ▶ ワイパーブレードを交換してください。
	洗車後にフロントウインドウに汚れが付着している。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。
	飛び石などにより、ナイトビューアシストカメラ前方のフロントウインドウが損傷している。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ フロントウインドウの内側の曇りを取ってください。
	フロントウインドウが凍結している。 ▶ フロントウインドウの氷を取り除いてください。
	フロントウインドウの内側に汚れが付着している。 ロントウインドウの内側を清掃してください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーを損傷するおそれがある。 ▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作で車を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠できます。

車を施錠してから約 10 秒以上経過した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲にあるときはドアハンドルに触れる
- キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクのハンドルを引くか、トランクのキーレスゴースイッチを押す
- キーが車室内またはトランク内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

  ただし、キーがトランク内にあるときは、位置によっては警報を停止することはできません。

キーからエマージェンシーキーを取り出す

① エマージェンシーキー
② ストッパー

▶ ストッパー ② を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ① を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作により車を解錠できないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠することができます。

左ハンドル車

右ハンドル車
① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
② 解錠の位置

ℹ 助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

解錠する

▶ エマージェンシーキー（▷334 ページ）を運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②にまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいに引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

❗ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランク、燃料給油フラップは解錠されません。

ℹ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いた後、エンジンスイッチにキーを差し込むと、燃料給油フラップが解錠されます。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ 運転席ドアを閉じた状態で、助手席シートに乗車します。

▶ 運転席ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 助手席ドアから車を降ります。

▶ キーが車内に残っていないことを確認します。

▶ 助手席ドアのロックノブを押し込み、ドアを閉じます。

▶ トランクが施錠されていないときは、トランクを独立施錠（▷86 ページ）してください。

❗ キーの閉じ込みに注意してください。

トランクの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作によりトランクを開いたり、解錠できないときは、エマージェンシーキー（▷334ページ）で解錠して開きます。

! トランクを開くときは、上方や後方に十分な空間があることを確認してください。

① キーシリンダー

▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキーを差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを反時計回りに停止するまでまわします。

トランクが解錠し、開きます。

i エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

i エマージェンシーキーでトランクを解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。エマージェンシーキーをトランク内に放置していると取り出せなくなります。

キーの電池交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、リモコン操作ができない場合は、電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ **けがのおそれがあります**

電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

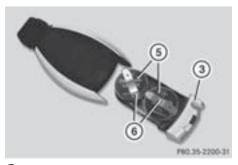
キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

電池交換の手順

① エマージェンシーキー
② ストッパー

▶ ストッパー ② を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ① を矢印の方向に抜きます。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー ① を凹部 ④ に差し込み、矢印の方向に引きながら電池ケース ③ を引き抜きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池 ⑤ を外し、新しい電池と交換します。

電池は 2 個とも⊕を上にして、電極板 ⑥ の間に取り付けます。

▶ 電池ケース ③ を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー ① をキーに収納します。

ℹ リチウム電池（CR2025）を 2 個使用しています。

ℹ 電池を交換するときは 2 個同時に交換してください。

ℹ 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプが点灯しない場合やすぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷317 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

けがのおそれがあります

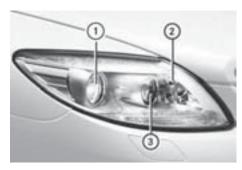
- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。その他の電球の交換についても、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヘッドランプ

①	ヘッドランプ（上向き）	H7 55 W
②	コーナリングランプ	H7 55 W
③	赤外線照射ランプ *	H11 55 W

ワイパーブレードの交換

⚠ **事故のおそれがあります**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! 損傷を避けるため、ワイパーアームを起こすときは、ワイパーブレードのゴムに触れないようにしてください。

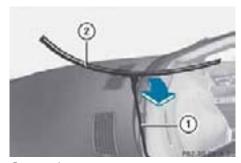
ワイパーブレードを取り外す

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを ━ の位置にして、ワイパーを作動させます。

▶ ワイパーが作動している途中で、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーを途中で停止させます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーを抜きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

① ワイパーアーム
② ワイパーブレード

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

! ワイパーアームを起こすときにボンネットと接触するときは、ワイパーを停止する位置が不適切です。ボンネットを損傷するおそれがありますので、再度ワイパーを作動させ、適切な位置でワイパーを停止させてください。

▶ ワイパーブレード ② を図の位置にまわします。

▶ ワイパーブレード ② を矢印の方向に動かし、ワイパーアーム ① の固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、取り付けたときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 事故のおそれがあります

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。

タイヤの修理およびタイヤ交換の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にします。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

! 車速感応ドアロック（▷80 ページ）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

i 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

i 応急用スペアタイヤを装着したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

応急用スペアタイヤが車載されている場合

⚠ **事故のおそれがあります**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。また、ESP の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

タイヤ交換の準備

▶ 輪止め、ホイールレンチ、ジャッキ、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト * を準備します（▷298 ページ）。

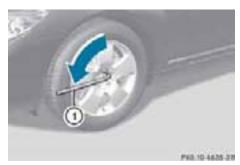
! 応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤは各車専用です。他車のものは使用しないでください。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

i 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪下り側に輪止めをします。

ジャッキアップ

① ホイールレンチ

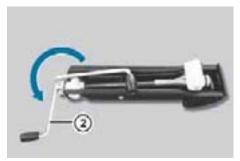
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

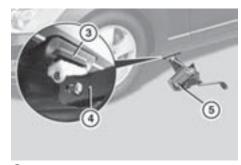
この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。

以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

② ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル ② を矢印の方向にまわして起こします。

※ ジャッキの色や形状が異なる場合があります。

③ ジャッキサポート
④ ジャッキアーム
⑤ ジャッキ

▶ ジャッキ ⑤ のジャッキアーム ④ のの先端をジャッキサポート ③ の位置に合わせます。

i ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

! ジャッキサポート以外の位置でジャッキアップしないでください。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるようにしてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するようにしてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

! ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

▶ ジャッキハンドルを矢印の方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

⚠ けがのおそれがあります

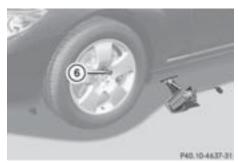
車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。

ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

▶ ジャッキハンドルを矢印の方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

! ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

! ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約 3cm 以内にしてください。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

⑥ ガイドボルト

▶ そのネジ穴に車載工具のガイドボルト ⑥ をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりはタイヤ空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

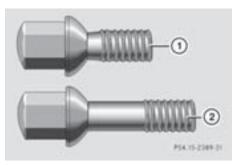
ホイールボルト

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、タイヤが外れて事故を起こすおそれがあります。

! ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

! ホイールハブのネジ穴を損傷したときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

CL 550、CL 600

① 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
② 標準タイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト①（短いホイールボルト）を用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤに添付されているか、車載工具（▷298 ページ）に収納されています。

① 応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

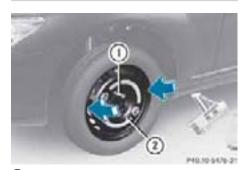
⚠ **事故のおそれがあります**

標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。

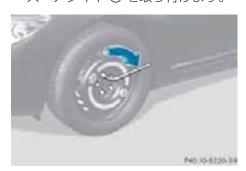
ホイールを確実に取り付けることができず、ブレーキシステムを損傷したり、走行中に車輪が外れて事故を起こすおそれがあります。

CL 63 AMG、CL 65 AMG

応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは車載されていません。標準タイヤを取り付けているホイールボルト②で、応急用スペアタイヤを取り付けてください。

応急用スペアタイヤの取り付け

① ガイドボルト
② 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤ ② のホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト ① に合わせて応急用スペアタイヤ ② を取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付け、対角線の順番に軽く締め付けます。

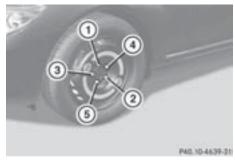
▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

⚠ けがのおそれがあります

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番に従い、ホイールレンチでホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクは 15 kg-m（150Nm）です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 取り外したタイヤはトランク内に収納してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

タイヤフィットが車載されている車種

応急用スペアタイヤが車載されていない車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷341 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。

  ◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合

  ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合

  ◇ ホイールに損傷がある場合

  ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

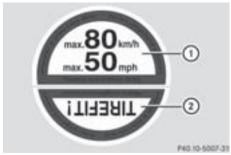
タイヤフィットの準備

⚠ **けがのおそれがあります**

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

① 最高速度のステッカー
② タイヤフィットのステッカー

▶ タイヤフィットに付属の最高速度のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィットのステッカー②を貼ります。

⚠ **けがのおそれがあります**

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

① タイヤフィット
② フラップ
③ 凹部
④ 電源スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ エアホース
⑦ バルブ

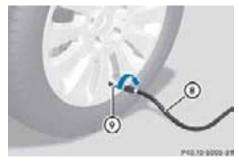
※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

⑧ タイヤフィットのホース
⑨ タイヤのバルブ

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

⑩ 空気圧調整バルブ
⑪ 空気圧ゲージ

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ⑤をライターソケット（▷250 ページ）または 12V 電源ソケット（▷251 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ⓘ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ タイヤに空気を入れ直します。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑨からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑪でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 事故のおそれがあります

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

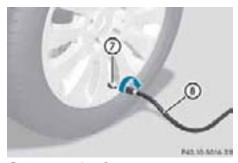
① タイヤフィット
② 凹部
③ 電源スイッチ
④ 電源プラグ
⑤ エアホース
⑥ バルブ

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。

▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

⑦ タイヤのバルブ
⑧ タイヤフィットのホース

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ④をライターソケット（▷250 ページ）または 12V 電源ソケット（▷251 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

i 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ タイヤに空気を入れ直します。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ④を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑦からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

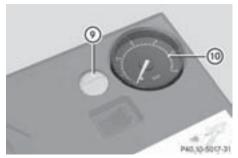
▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑤を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **事故のおそれがあります**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⑨ 空気圧調整ボタン
⑩ 空気圧ゲージ

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ⑩の横にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとに新品と交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

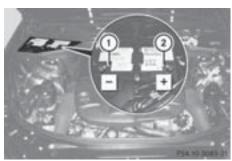
バッテリーの点検や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

バッテリーは、エンジンルーム内助手席側にあります。

左ハンドル車
① ⊖端子
② ⊕端子

i エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。駐車時はエンジンスイッチからキーを抜いてください。

i バッテリーの電圧が低下して、リモコン操作やキーレスゴー操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します(▷334 ページ)。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 爆発のおそれがあります

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

ℹ バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ℹ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- スライディングルーフのリセット
- COMAND システムの再設定

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンと触媒が暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

始動の方法

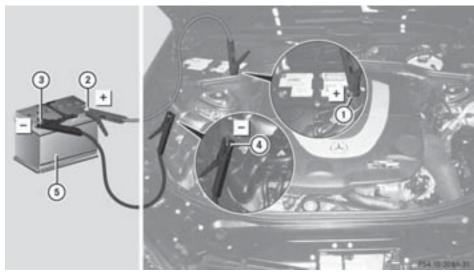
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

始動の方法

左ハンドル車
① 自車の [+] 端子
② 救援車の [+] 端子
③ 救援車の [−] 端子
④ 自車の [−] 端子
⑤ 救援車のバッテリー

※ 右ハンドル車のバッテリーは、エンジンルームに向かって右側にあります。

▶ 自車の [+] 端子のカバーを外します。

▶ 自車のバッテリーの [+] 端子 ① に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー ⑤ の [+] 端子 ② に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの [−] 端子 ③ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの [−] 端子 ④ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 自車のバッテリーの [−] 端子 ④ →救援車のバッテリーの [−] 端子 ③ →自車のバッテリーの [+] 端子 ① →救援車のバッテリーの [+] 端子 ② の順序でケーブルの接続を外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ **事故のおそれがあります**

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。
- ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! パーキングブレーキを解除してください。解除できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、キーレスゴースイッチを取り外してエンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **2** にしてからシフトポジションを **N** にします。そして、イグニッション位置を **0** にして、キーは抜かないでください。

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に移送してください。

! オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、プロペラシャフトを外してけん引してください。

! けん引されるときは、シフトポジションを **N** にしてください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! けん引される前に、バッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。イグニッション位置を **2** にすることができないため、シフトポジションを **P** 以外にできなくなります。また、エンジンが停止していると、ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

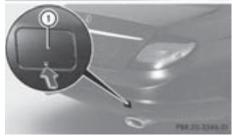
! エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているときは、キーレスゴースイッチを取り外して、キーを差し込んでください。

! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷80 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中はロープをたるませないように、前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

けん引フックの取り付け

取り付け位置（フロント / リア）

① カバー

▶ カバー ① の矢印の部分を押します。

▶ カバー ① を外します。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷298 ページ）から、けん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ けん引フック取り付け部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを **N** にします。

! 距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。

! フロントをつり上げてけん引するときやダイナモメーターでパーキングブレーキの検査を行なうときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているときは、キーレスゴースイッチを取り外して、キーを差し込んでください。

けん引フックを取り外す

▶ 車載工具(▷298 ページ)からホイールレンチを取り出します。

▶ ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックとホイールレンチを車載工具に収納します。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションやメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ヒューズ

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズ一覧は（▷364 ページ）をご覧ください。

⚠ **火災のおそれがあります**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装備が作動しないとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

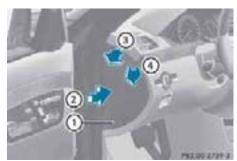
ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- ダッシュボード左右両端
- エンジンルーム内運転席側 / 助手席側
- 後席アームレスト奥

ダッシュボード横のヒューズボックス

ヒューズボックスはダッシュボードの左右両端にあります。

! ドライバーなどの先のとがったものを使用してカバーを開かないでください。ダッシュボードを損傷するおそれがあります。

左ハンドル車
① ダッシュボード左側のカバー

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ 左側または右側のドアを開きます。

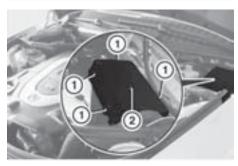
▶ カバー ① を矢印 ② の方向に押します。

カバー ① の上部が少し開きます。

▶ カバー ① の上部 ③④ のすき間に手を入れ、カバーを手前に引いて開きます。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

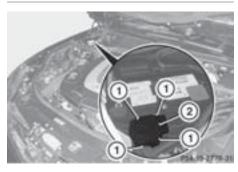
▶ カバーを押し込んで固定します。

ヒューズボックス（エンジンルーム内運転席側）

左ハンドル車
① ネジ
② カバー

カバーを外すときは、六角レンチが必要です。

ヒューズを交換するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ 右ハンドル車のエンジンルーム内のヒューズボックスは、左ハンドル車と左右対称の位置にあります。

ヒューズボックス（エンジンルーム内助手席側）

左ハンドル車
① 固定部
② カバー

ヒューズボックスのカバーを外す

▶ ボンネットを開きます。

▶ 固定部 ① を外側に開きながら外します。

▶ カバー ② を取り外します。

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときは、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー ② を元の位置に合わせます。

▶ カバー ② を下方に押して取り付けます。

▶ ボンネットを閉じます。

! ヒューズボックスのカバーは必ず正しく取り付けてください。水分やホコリがヒューズに付着して、ヒューズを損傷するおそれがあります。

後席アームレスト奥のヒューズボックス

① レバー
② 小物入れのカバー

▶ リアアームレストを引き出します。

▶ レバー ① を引いて、小物入れのカバー ② を開きます。

③ ドライバーなど
④ ヒューズボックスのカバー

▶ ドライバーなど ③ をすき間に差し込み、ヒューズボックスのカバー ④ を開きます。

▶ ヒューズボックスのカバーを上方に取り外します。

! ヒューズボックスのカバーを開閉するときは、カバーの端などを損傷しないよう注意してください。

ヒューズを交換する

▶ キーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ ヒューズ一覧を参考に点灯しないランプや作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

i ヒューズ配置表は、車載工具内（▷298 ページ）にあります。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス（エンジンルーム内助手席側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
7	40A	ABS/BAS/ESP/アダプティブブレーキ
8	25A	ABS/BAS/ESP/アダプティブブレーキ
9	20A	イグニッションロック
10	—	未使用

ヒューズボックス（エンジンルーム内運転席側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	10A	エンジン制御 / エンジン緊急停止
21	20A	エンジン制御 / エンジン緊急停止
22	15A	エンジン制御
23	20A	エンジン制御
24	25A	エンジン制御

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
25	7.5A	メーターパネル / ナイトビューアシスト
26	10A	アクティブライトシステム / ヘッドランプ光軸調整
27	10A	アクティブライトシステム / ヘッドランプ光軸調整
28	7.5A	オートマチックトランスミッション
29	5A	オプション
30	7.5A	エンジン制御 / 燃料ポンプ
31	—	未使用
32	—	未使用
33	—	未使用
34	—	未使用
35	5A	パーキングブレーキ
36	10A	診断ソケット
37	7.5A	イグニッションロック / キーレスゴー
38	7.5A	オプション
39	7.5A	メーターパネル / ナイトビューアシスト
40	7.5A	ABS/BAS/ESP/ アダプティブブレーキ / アンビエントランプ /ABC/ パークトロニック / ランプスイッチ / 盗難防止警報システム / 非常点滅灯 / リアデフォッガー / ナイトビューアシスト / ヘッドレストリリース（後席）/ 電動ブラインド / エアコンディショナー
41	30A	ワイパー
42	30A	ワイパー
43	15A	ライター
44	—	未使用
45	—	未使用
46	15A	ABC
47	15A	ステアリング調整
48	15A	ステアリング調整
49	10A	ディストロニック / 方向指示灯 / オートマチックトランスミッション / ヘッドランプ（上向き）/ ワイパー / ステアリング調整 / ステアリングスイッチ
50	15A	エアコンディショナー
51	5A	オプション
52a	—	未使用
52b	15A	ホーン
53	—	未使用
54	40A	エアコンディショナー
55	60A	エンジン制御
56	40A	オプション
57	30A	ワイパーリセスヒーター
60	—	未使用
61	7.5A	エアバッグシステム
62	5A	ナイトビューアシスト
63	—	未使用
64	—	未使用
65	15A	12V 電源ソケット（グローブボックス内）
66	7.5A	ディストロニック

ヒューズボックス（ダッシュボード右側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
70	40A	方向指示灯 / ドアミラー / シートヒーター / マルチコントロールシートバック / セントラルロック / アンビエントランプ / ルームランプ / パワーウインドウ / トランクリッド開閉 / シート調整 / シートベンチレーター / ドア下部ランプ / キーレスゴー
71	15A	キーレスゴー
72	—	未使用

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
73	5A	COMAND システム / パーキングアシストリアビューカメラ / 電話 /VICS
74	30A	トランクリッド開閉
75	—	未使用
76	—	未使用
77	—	未使用
78	25A	オプション
79	7.5A	盗難防止警報システム
80	40A	方向指示灯 / ドアミラー / シートヒーター / マルチコントロールシートバック / セントラルロック / アンビエントランプ / ルームランプ / リモートトランクリリース / シート調整 / シートベンチレーター / ドア下部ランプ / リアウインドウ・ブラインド / パワーウインドウ / トランクリッド開閉
81	30A	セントラルロック / アンビエントランプ / ルームランプ / パワーウインドウ（後席） / ドア下部ランプ / 電動ブラインド
82	30A	セントラルロック / アンビエントランプ / ルームランプ / パワーウインドウ（後席） / ドア下部ランプ / 電動ブラインド
83	30A	オートマチックトランスミッション
84	—	未使用
85	—	オプション
86	—	未使用
87	—	未使用
88	—	未使用
89	—	未使用
90	—	未使用
91	—	未使用

ヒューズボックス（ダッシュボード左側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
92	40A	シートヒーター / シート調整 / シートベンチレーター / マルチコントロールシートバック / ドライビングダイナミックシート
93	7.5A	エアバッグシステム
94	—	未使用
95	—	未使用
96	—	未使用
97	—	未使用
98	—	未使用
99	—	未使用
100	—	未使用
101	—	未使用
102	40A	シートヒーター / シート調整 / シートベンチレーター / マルチコントロールシートバック / ドライビングダイナミックシート
103	7.5A	ABS/BAS/ESP/ アダプティブブレーキ
104	40A	COMAND システム
105	—	未使用
106	1A	ETC/COMAND システム
107	—	未使用
108	—	未使用
109	—	未使用
110	—	未使用
111	—	未使用
112	—	未使用
113	—	未使用

ヒューズボックス（後席アームレスト奥）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
115	50A	リアデフォッガー
116	10A	低温ポンプ
117	15A	オプション
118	15A または 30A	燃料ポンプ
119	7.5A	COMAND システム / パーキングアシストリアビューカメラ /COMAND ディスプレイ / エアコンディショナー / オートマチックトランスミッション / ドライビングダイナミックシート
120	—	未使用
121	10A	COMAND システム
122	7.5A	COMAND システム / パーキングアシストリアビューカメラ /COMAND ディスプレイ
123	40A	PRE-SAFE
124	40A	PRE-SAFE
125	5A	オプション
126	25A	ドアミラー / 自動防眩機能 / ルームミラー / 読書灯 / レインセンサー / ライトセンサー / バニティミラー照明 / ルームランプ / ドア下部ランプ / スライディングルーフ
127	30A	マルチコントロールシートバック / ドライビングダイナミックシート
128	25A	燃料ポンプ
129	7.5A	電話
130	30A	パーキングブレーキ
131	7.5A	COMAND システム / トランクリッド開閉 / キーレスゴー /VICS
133	—	未使用
134	15A	12V 電源ソケット（トランク内）
135	—	未使用
136	—	未使用
137	—	未使用
138	5A	COMAND システム
139	15A	オプション
140	15A	オプション
141	5A	パーキングアシストリアビューカメラ
142	7.5A	パークトロニック
143	—	未使用
144	—	未使用
145	—	未使用
146	—	未使用
147	—	未使用
148	—	未使用
149	—	未使用
150	7.5A	COMAND システム
151	—	未使用
152	—	未使用

ℹ 仕様・装備などの違いにより、ヒューズが異なることがあります。

ℹ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

（2009-04-01・A221 584 18 83）

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外の部品を使用しないでください。

事故や故障の原因になります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーのコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

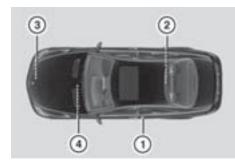
ⓘ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ビークルプレートの位置

左ハンドル車
① ニューカープレート
② 車台番号
③ オプションコードプレート
④ エンジン番号

ニューカープレート

① ニューカープレート

いずれかのドア開口部の車体側に車台番号やカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

② 車台番号

後席アームレスト後方のカバーの下のフレームに、車台番号 ② が打刻されています。

オプションコードプレート

③ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを示すプレート ③ が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロック右側後方上部（CL 550 はエンジンブロック後方上部）にエンジン番号 ④ が打刻されています。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **けがのおそれがあります**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

! 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

i ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）のオイル量を点検する必要はありません。ABC のオイルの漏れを見つけたり、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

燃料

燃料タンク容量

⚠ **爆発のおそれがあります**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量	約 90 ℓ
警告灯点灯時の残量（CL 550、CL 600）	約 11 ℓ
警告灯点灯時の残量（CL 63 AMG、CL 65 AMG）	約 14 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。ガソリンに軽油が混じると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

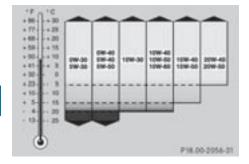
! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
CL 550	約 8.5 ℓ
CL 600	約 9.0 ℓ
CL 63 AMG	約 8.75 ℓ
CL 65 AMG	約 9.0 ℓ

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください（▷267 ページ）。

⚠ 火災のおそれがあります

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

事故のおそれがあります

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

火傷のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。発火して火傷をするおそれがあります。

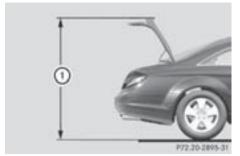
バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	95Ah

積載荷物の制限重量

車種	トランクルーム
全車	100 kg

トランクを開いたときの高さ

① トランクを開いたときの高さ

トランクをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	約 1754 ～ 1755mm

※ 車種や仕様により、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷274 ページ）。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質
CL 550	255/45R18	8.5 J × 18	43mm	軽合金
CL 550 AMG スポーツパッケージ	前輪 255/40R19 後輪 275/40R19	前輪 8.5 J × 19 後輪 9.5 J × 19	43mm	軽合金
CL 600	前輪 255/45R18 後輪 275/45R18	前輪 8.5 J × 18 後輪 9.5 J × 18	43mm	軽合金
CL 63 AMG	前輪 255/40R19 後輪 275/40R19	前輪 8.5 J × 19 後輪 9.5 J × 19	43mm	軽合金
CL 65 AMG	前輪 255/35R20 後輪 275/35R20	前輪 8.5 J × 20 後輪 9.5 J × 20	43mm	軽合金

! CL 550 AMG スポーツパッケージ、CL 600、CL 63 AMG、CL 65 AMG の標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

! 前後のタイヤサイズが異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

i 燃料給油フラップの裏側にタイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
17 インチアルミホイール	235/55R17	8 J × 17	43mm
19 インチアルミホイール	255/40R19	8.5 J × 19	43mm
20 インチアルミホイール	255/35R20	8.5 J × 20	43mm

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CL 550	255/45R18 M+S	8.5 J × 18	43mm
CL 63 AMG CL 65 AMG	前輪 255 / 40R19 M+S	8.5 J × 19	43mm
	後輪 275 / 40R19 M+S	9.5 J × 19	

! ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i CL 600 のウィンタータイヤについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質	タイヤ空気圧
全車	T155/70 R19	4.50B × 19	35mm	スチールまたは軽合金	4.2bar/60psi/420kpa

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

対象モデル

CL 550
CL 600
CL 63 AMG
CL 65 AMG

※この取扱説明書の内容は、2009 年 10 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目９番９号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32460-100900030 H
6515 2306 20 ÄJ2009/1b, 10/09